第　１７　主　日　徹　夜　禱　　第　８　調

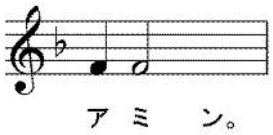
司祭祈禱

2024 年 10 月 19 日（土）の北海道ブロック誦経奉仕者研修会に続く主日徹夜祷の聖歌譜付き祈祷書として、主日奉事経、時課経、八調経、連接歌集等をもとに編集しました。
ゴシック体で書かれている部分は、「徹夜祷　単音聖歌譜」（北海道ブロック宣教委員会　1989 年発行）に記載されている部分、多くの教会で誦経されている部分です。
明朝体で書かれている部分は、「徹夜祷　単音聖歌譜」では省略されているもので、八調経、連接歌集等から写したものです。

注意　譜面中、五線譜上に　|o|　とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、氣をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2015 年 09 月 20 日　釧路管轄司祭ステファン内田　作成
2024 年 10 月 11 日　改訂

司祭）光榮は一性にして生命を施す分れざる聖三者に歸す、今も何時も世世に、



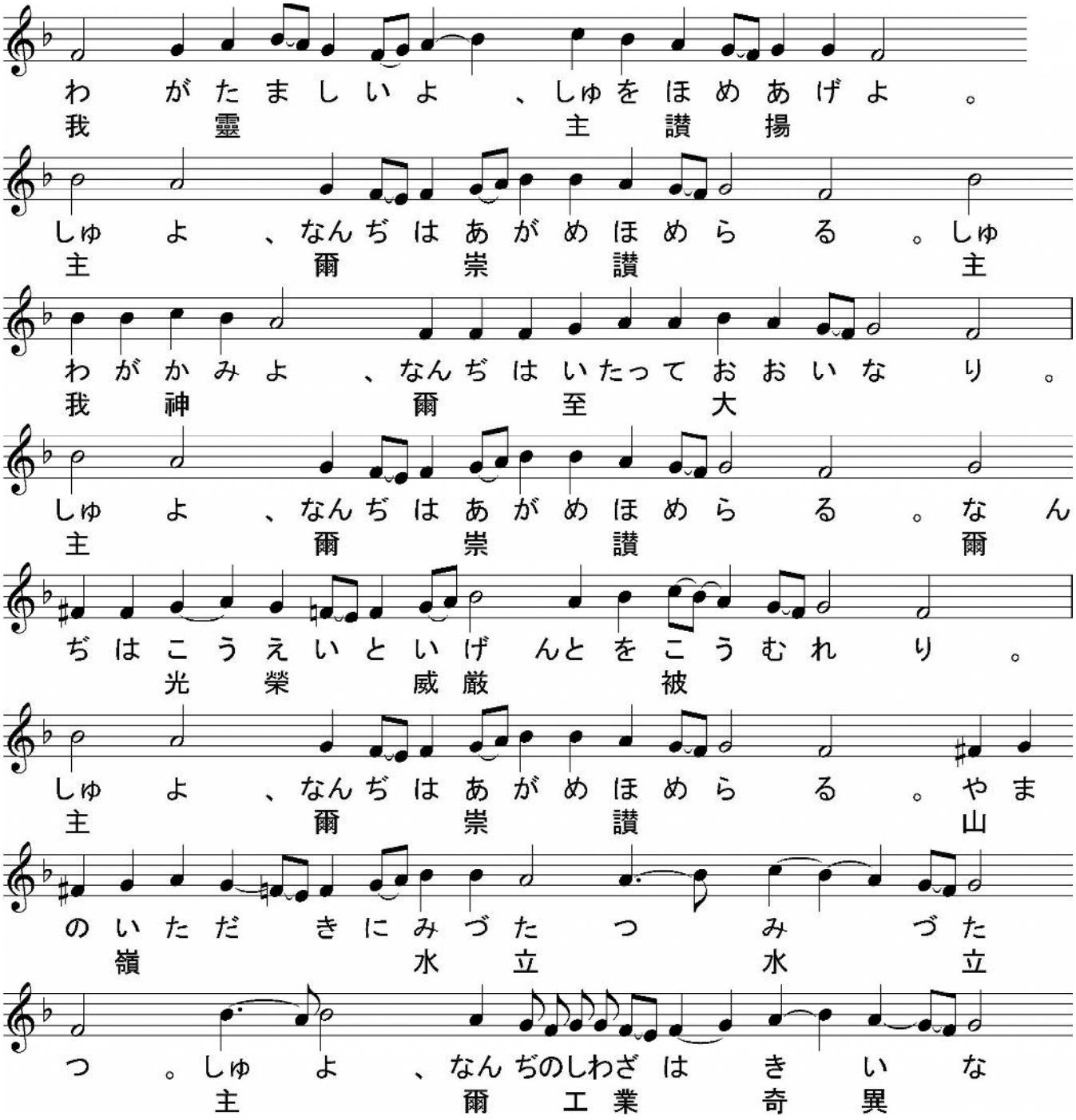
司祭）來れ、我等の王・神に叩拜せん、

來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん、

來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん、

來れ、彼に叩拜俯伏せん、

【　第103聖詠（首誦聖詠：我が靈よ主を讃め揚げよ）　】



り　。

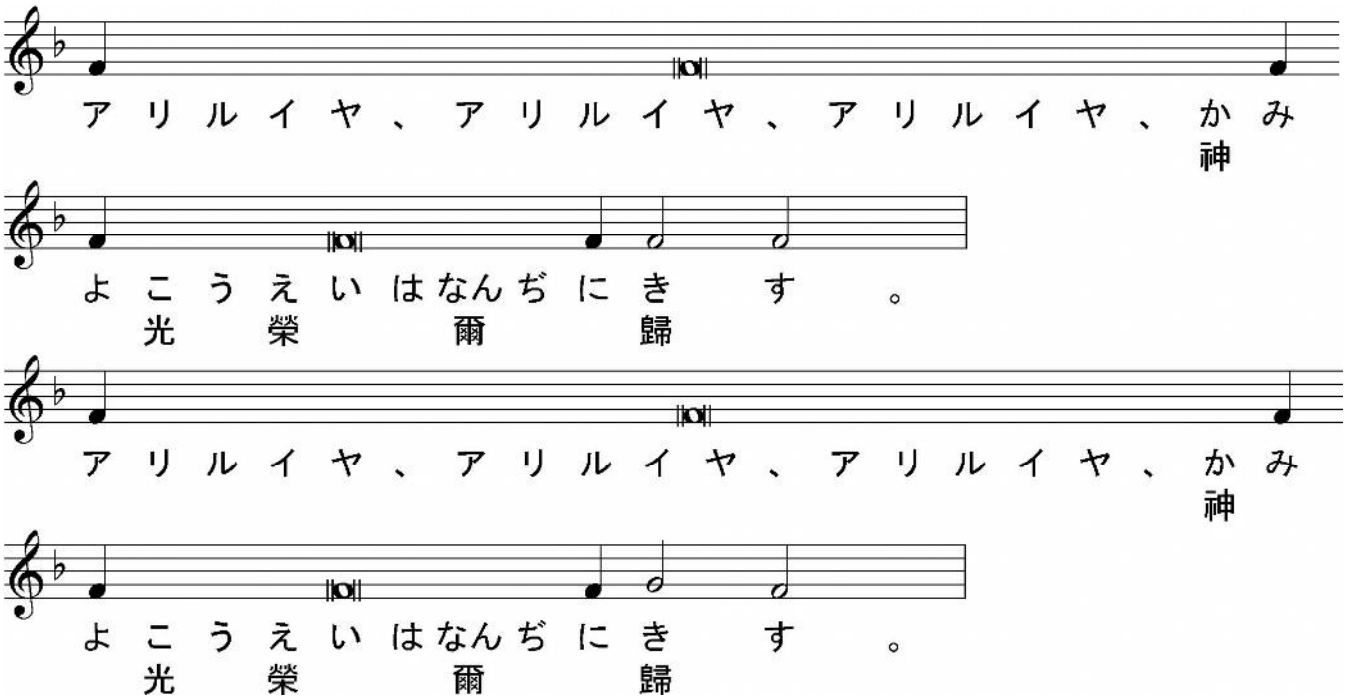
やまのあいだにみづながる、みづながる。しゅよ、なんぢのしわざはきいなり。
山間水流水流主爾工業奇異

みなちえをもってつくれりちえをもってつくれり。
皆智慧以作智慧以作

こうえいはなんぢばんぶつをつくりししゅにきす。
光榮爾萬物作主歸

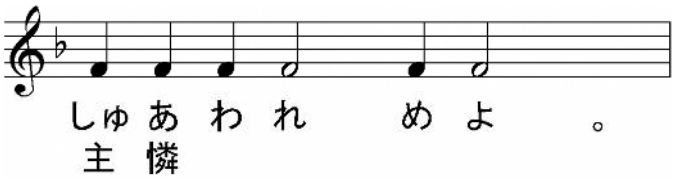
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまもいつもよよに、アミン。
光榮父子聖神歸今何時世世

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみよこうえいはなんぢにきす。
神光榮爾歸

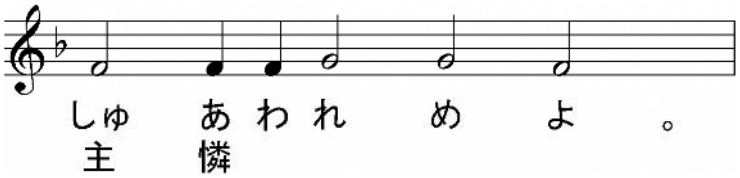


【　大聯禱　】

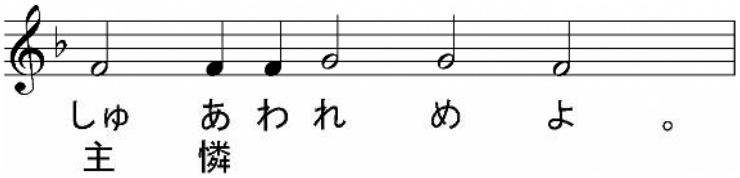
司祭）我等安和にして主に禱らん、



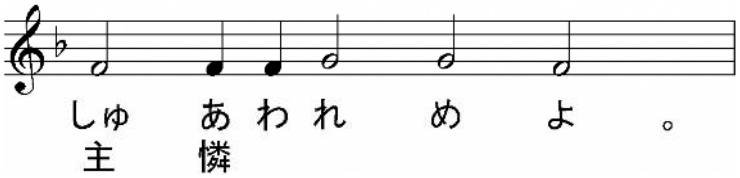
司祭）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



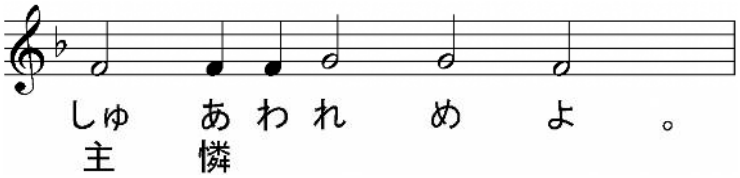
司祭）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



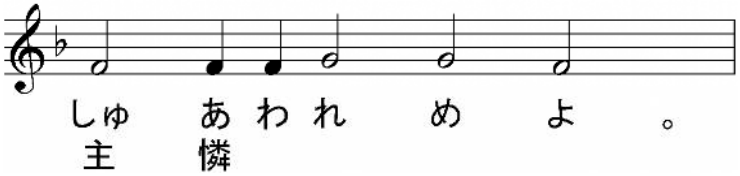
司祭）此の聖堂、及び信と愼と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



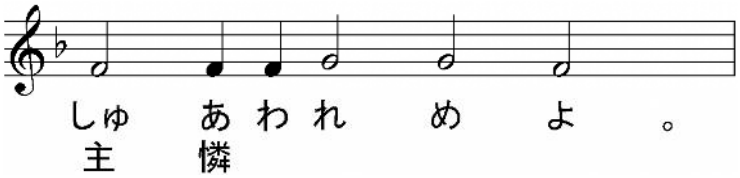
司祭）教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



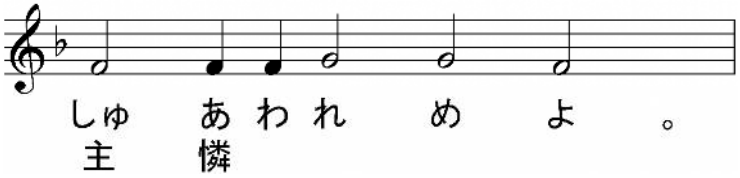
司祭）我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



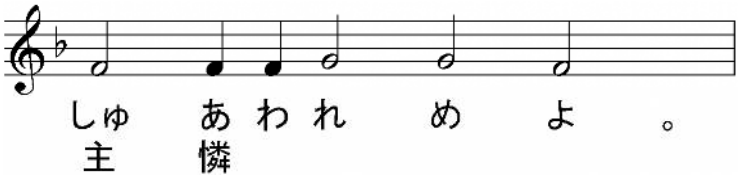
司祭）此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



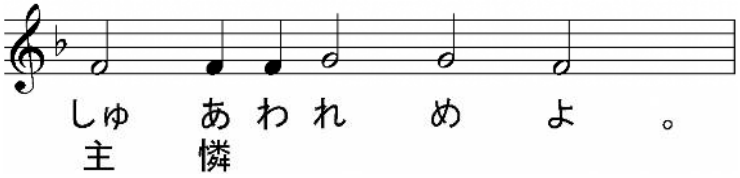
司祭）氣候順和、五穀豐穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



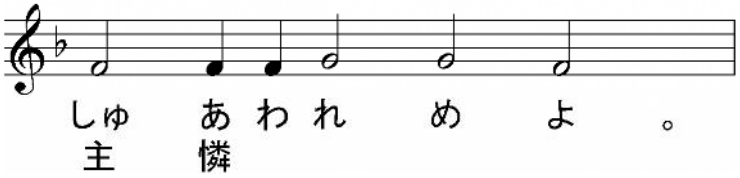
司祭）航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



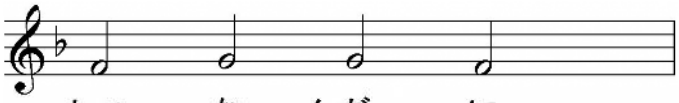
司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



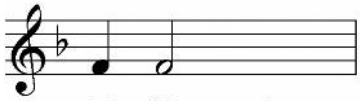
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



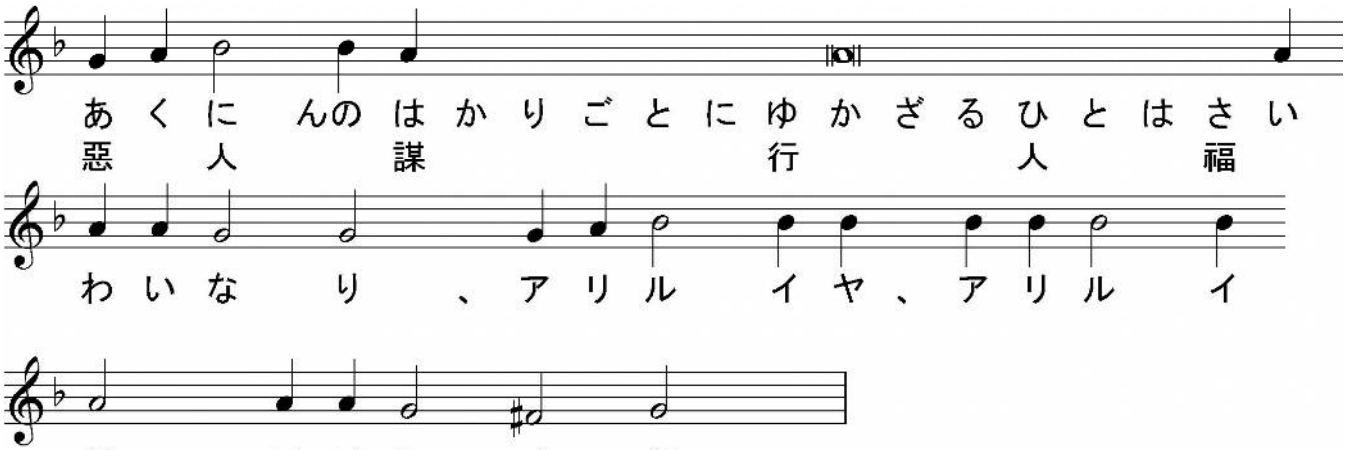
司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

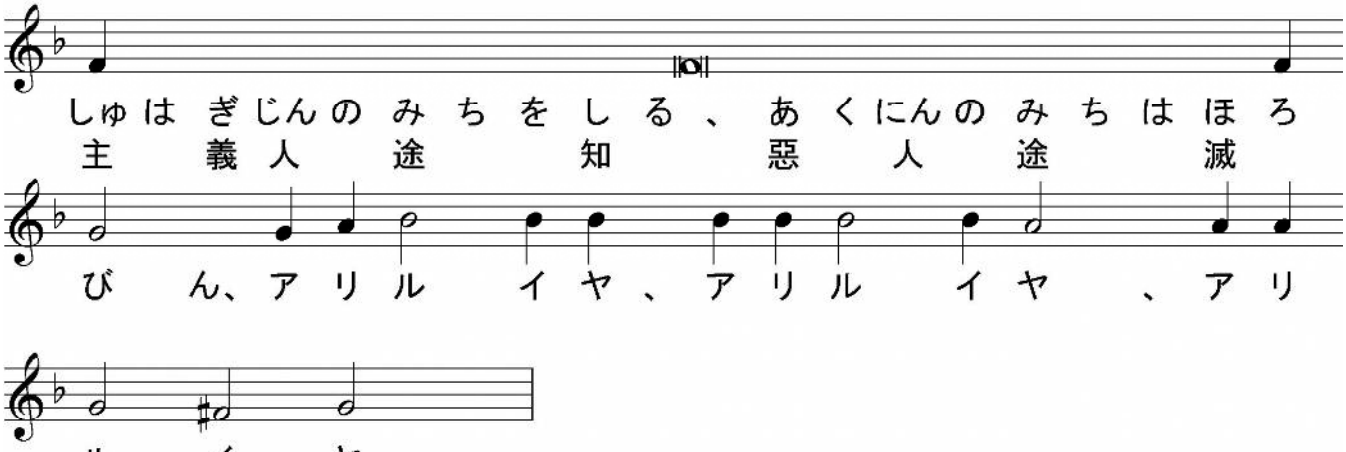


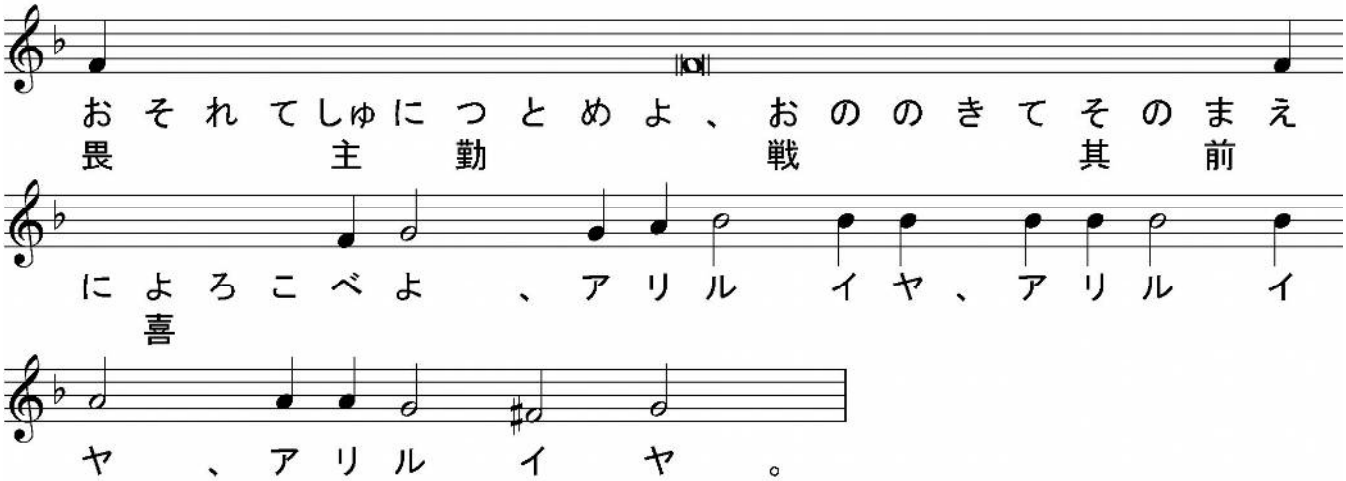
司祭）蓋（けだし）、凡（およ）そ光榮尊貴伏拜（こうえいそんきふくはい）は爾（なんぢ）父（ちち）と子（こ）と聖神（せいしん）に歸（き）す、今（いま）も何時（いつ）も世世（よよ）に、

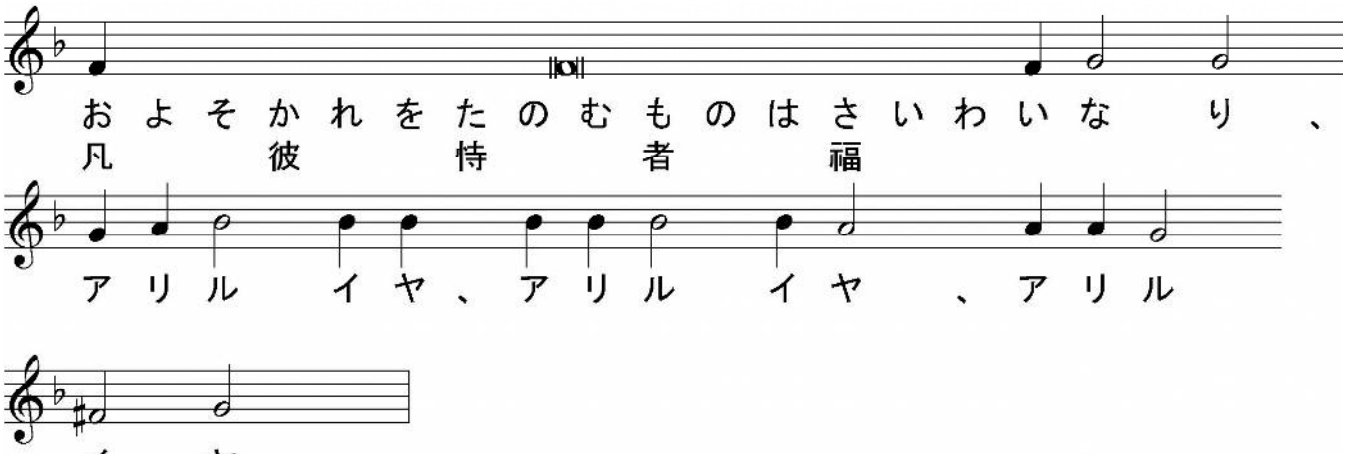


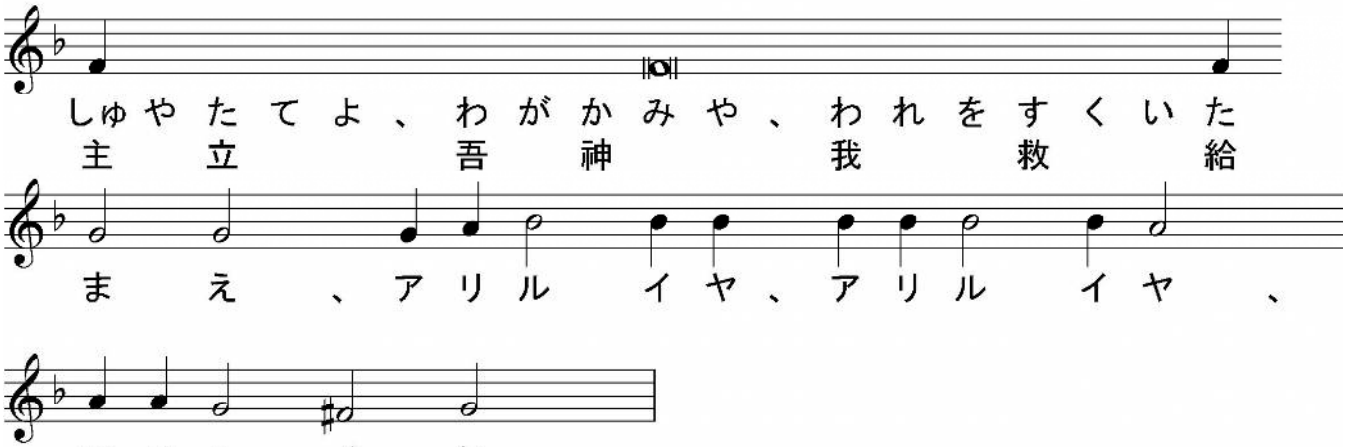
【　第一カフィズマ　第一段（悪人の謀に行かざる人は福）　】

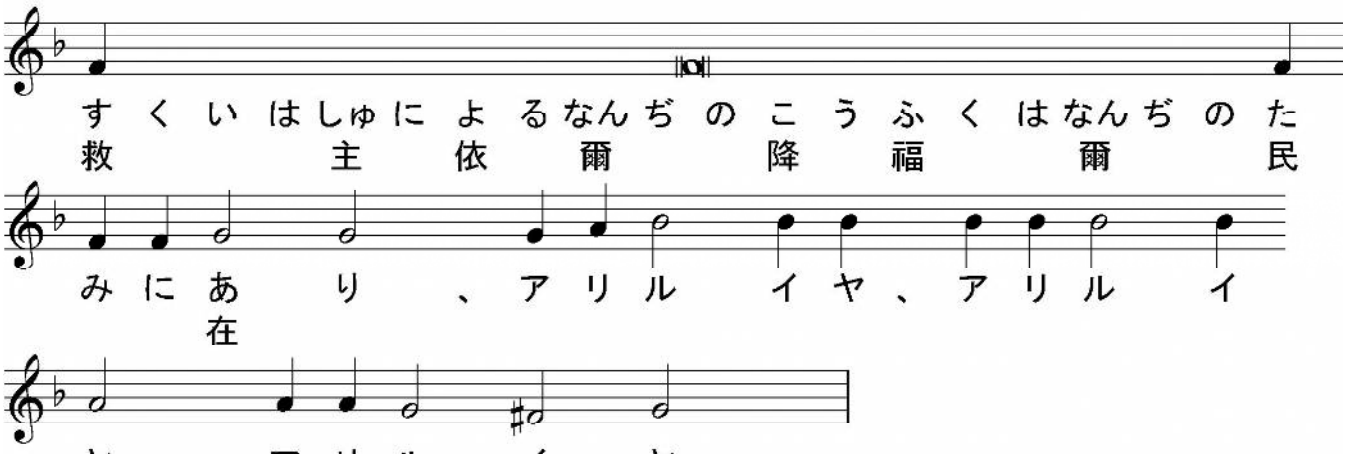


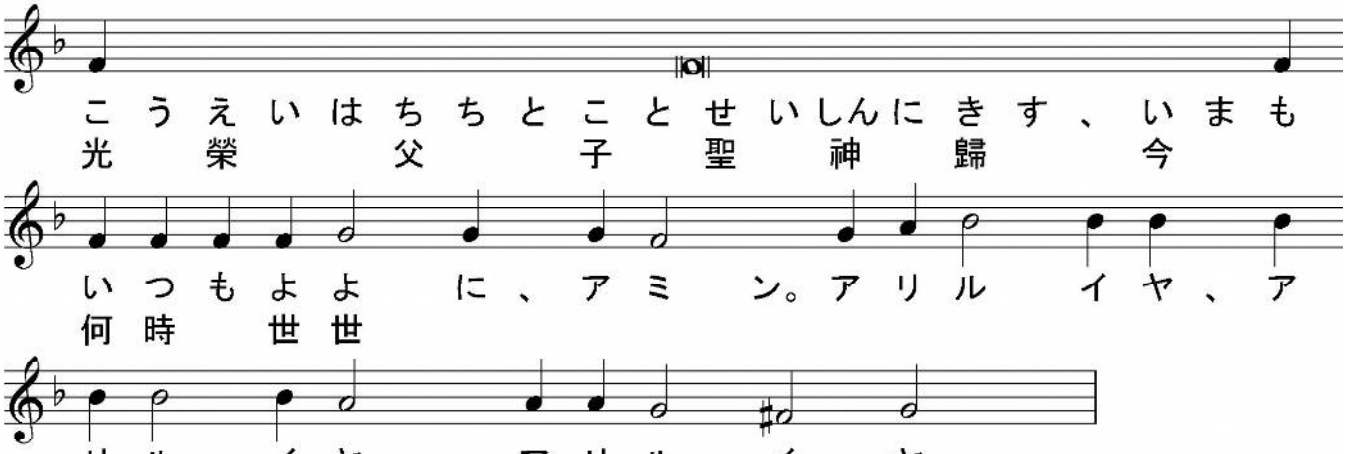





およそかれをたのむものはさいわいなり、
凡彼恃者福
アリルイヤ、アリルイヤ、アリル
イヤ。

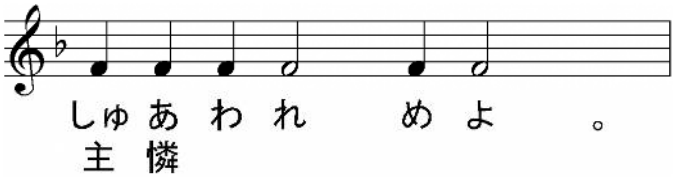

しゅやたてよ、わがかみや、われをすくいた
主立吾神我救給
まえ、アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。


すくいはしゅによるなんぢのこうふくはなんぢのた
救主依爾降福爾民
みにあり、アリルイヤ、アリルイ
在
ヤ、アリルイヤ。

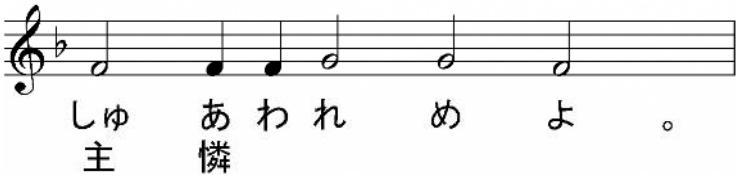

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父子聖神歸今
いつもよよに、アミン。アリルイヤ、ア
何時世世
リルイヤ、アリルイヤ。

【　小聯禱　】

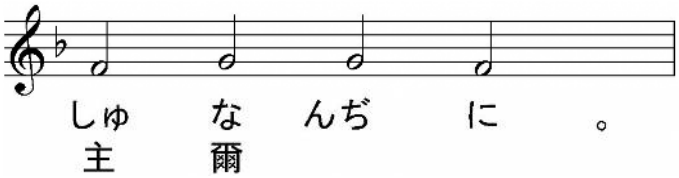
司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



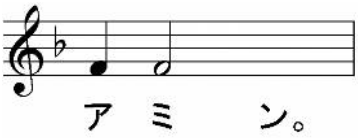
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



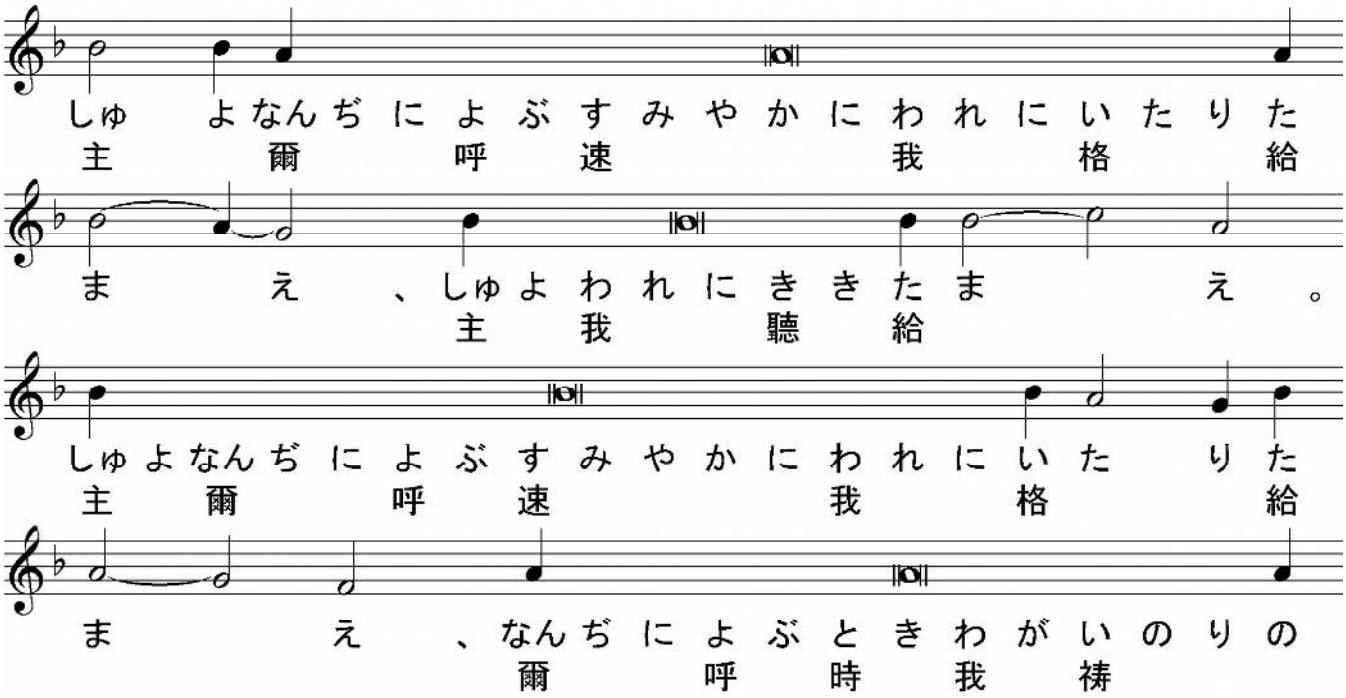
司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

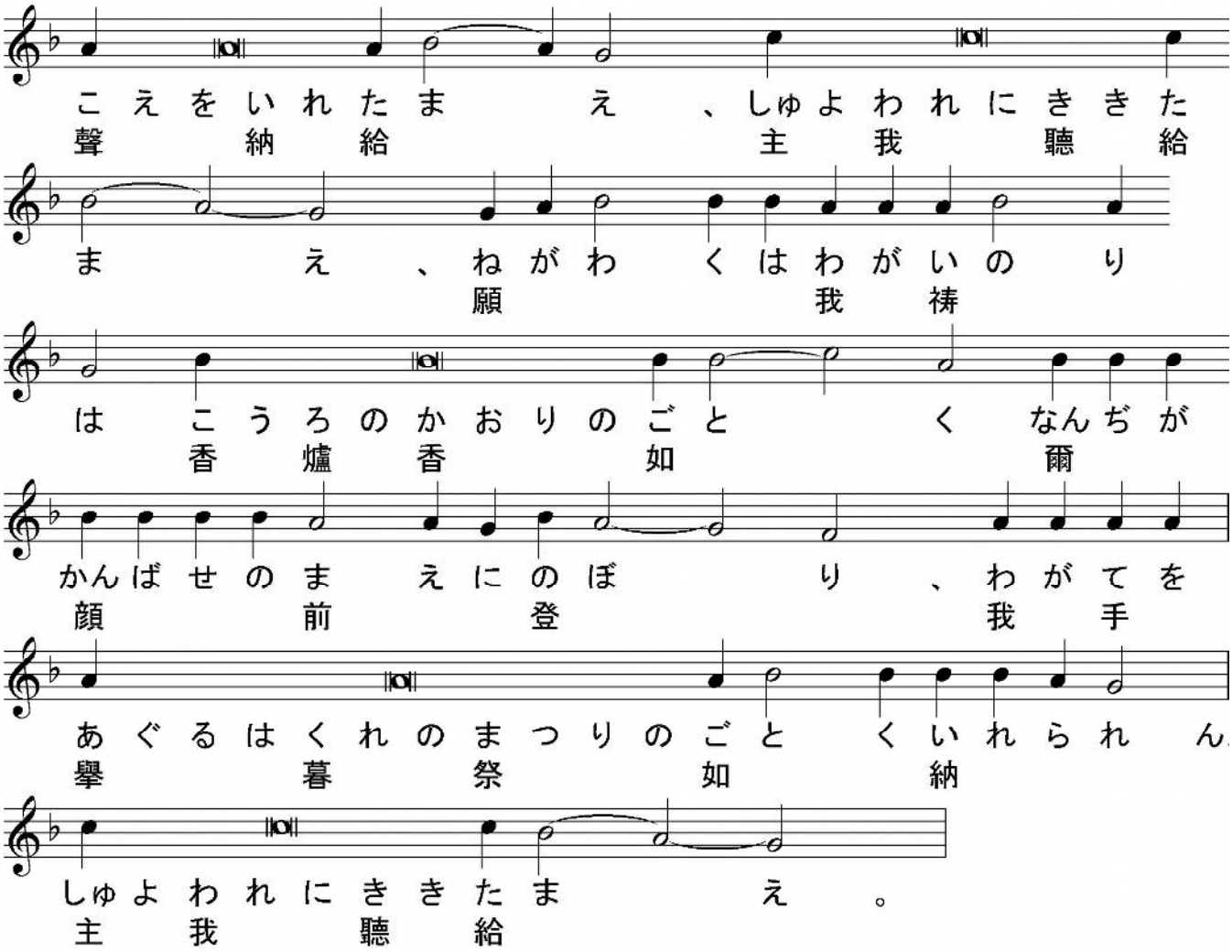


司祭）蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【　第１４０聖詠（主よ爾に籲ぶ）　第８調　】





誦經）主よ、我が口に衞を置き、我が唇の門を扞ぎ給え、我が心に邪なる言に傾きて、不法を行う人と共に、罪の推諉せしむる毎れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗めざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と美しき膏、我が首を悩ます能わざる者なり、唯我が禱は彼等の惡事に敵す。彼等の首長は巖石の間に散じ、我が言の柔和なるを聽く。我等を土の如く斫り碎き、我が骨は地獄の口に散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が靈を退くる毋れ。我が爲に設けられし弶、不法者の網より我を護り給え。不虔者は己の網に罹り、唯我は過ぐるを得ん。

【　第１４１聖詠　】

我が聲を以て主に呼び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を其前に顯せり。我が靈の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て、彼等は竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我

に遁るる所なく、我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて云えり、爾は我の避所なり、生ける者の地に於いて我の分なり。我が呼ぶを聽き給え、我甚弱りたればなり、我を迫害する者より救い給え、彼等は我より強ければなり。

句⑩ **我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給え。**

讃詞⑩**ハリストスよ、我等晩の歌と靈智の務とを爾に獻る、爾復活を以て我等を救い給いしに因る。**

句⑨ **爾恩を我に賜わん時、義人は我を環らん。**

讃詞⑨**主よ、主よ、我等を爾の顏より退くる毋れ、復活を以て我等を救い給え。**

句⑧ **主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給え、**

讃詞⑧**聖なるシオン、諸教會の母、神の住所よ、慶べ、爾は始めて復活に由りて罪の赦を受けたればなり。**

句⑦ 願わくは爾の耳は我が禱の聲を聽き納れん。

讃詞⑦世世の前に神父より生れ、末の時に婚姻に與らざる童貞女より甘じて身を取りし言は十字架に釘せられ、死を忍びて、己の復活を以て昔殺されし人を救い給えり。

句⑥ 主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

讃詞⑥ハリストスよ、我等は爾の死よりの復活を讃榮す。爾は此を以てアダムの族を地獄の苛虐より釋き、神として世界に永遠の生命と大なる憐とを賜えり。

句⑤ 我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

讃詞⑤ハリストス救世主、神の獨生の子、十字架に釘せられて、三日目に墓より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

句④ 我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

讃詞④主よ、我等は爾甘じて我が爲に十字架を忍びし者を讃榮す、全能の救世主よ、爾に伏拜す。人を愛する主よ、我等を爾の顔より退くる勿れ、乃我等に聽きて、爾の復活を以て我等を救い給え。

句③ 願わくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖わん。

讃詞③神の母よ、天の品位は爾を讃榮す、蓋爾至淨なる者は父及び聖神と偕に永在する神、意志を以て無より天使の軍を造りし主を生み給えり。正しく爾を生神女と讃め歌う者の靈を救いて照さんことを彼に祈り給え。

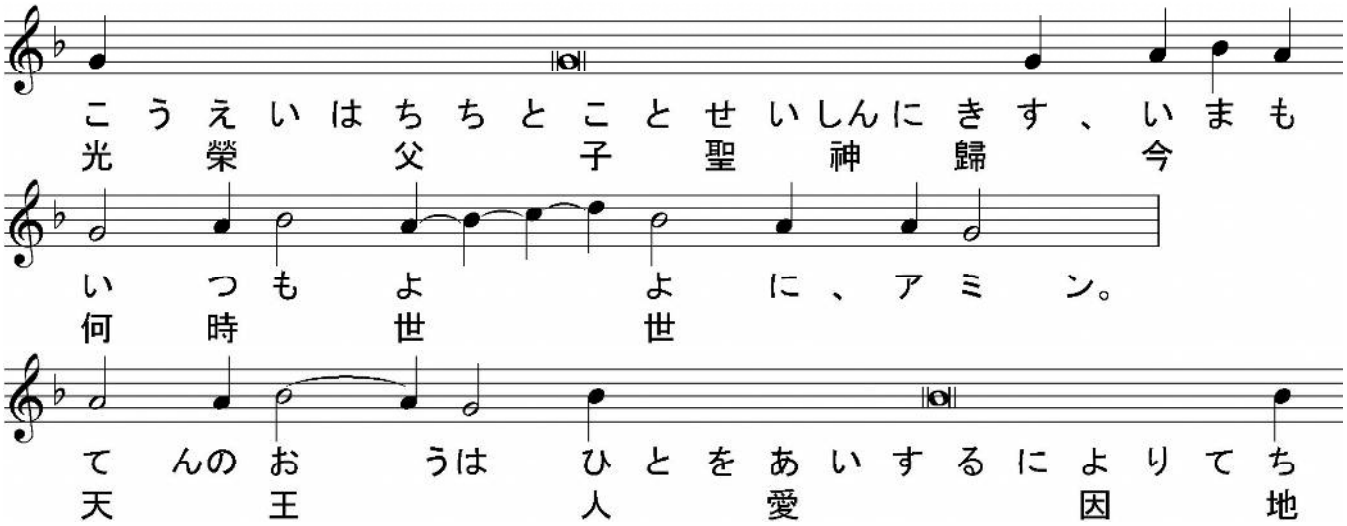
句② 萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ、

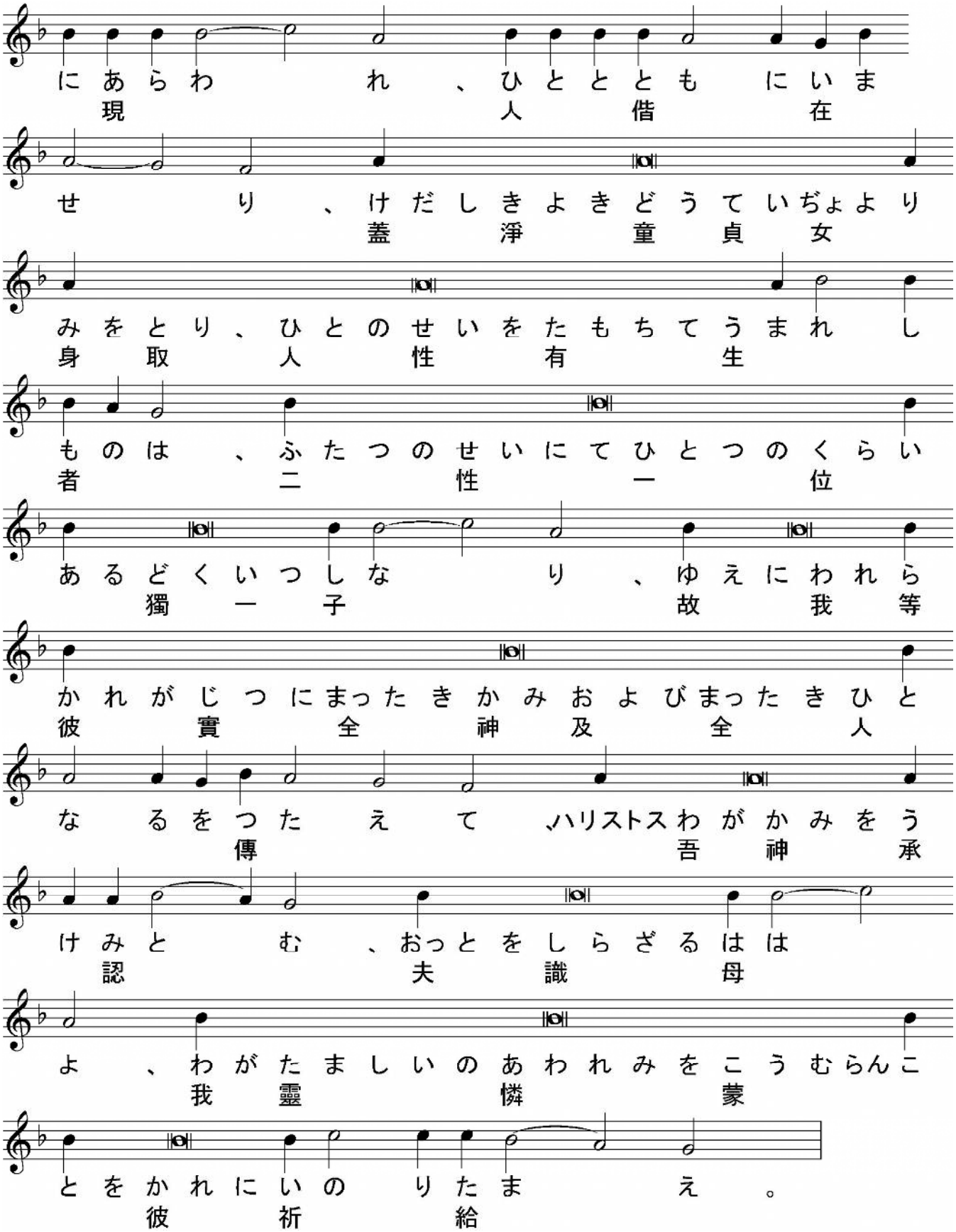
讃詞②女宰よ、我爾を成聖の泉、聖神に輝かさるる純金の約匱として、爾の前に俯伏して祈る、慾に眈る我が不當なる靈を照し、我を惡鬼の甚しき苛虐より脱れしめて、我に蹉跌なく救の道を行かしめ給え。

句① 蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

讃詞①寶座は立てられ、書は披かれ、行は露れ、各人が己の重任を荷い、裸体にして前に立ちて、神の憤及び其義なる審問に慄く時、女宰よ、其時我を憐みて、罪なる我を凡の定罪と諸の苦より脱れしめ給え。

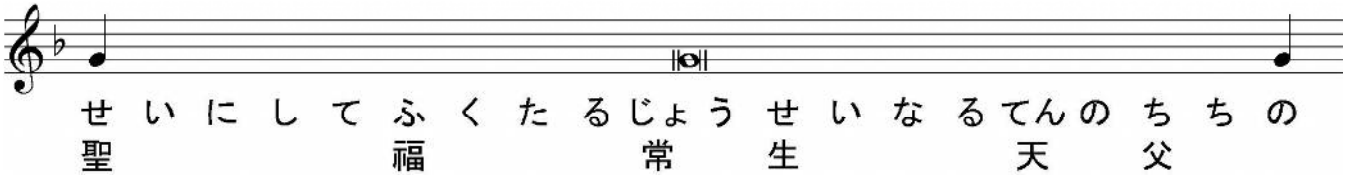
【 ドグマチカ（生神女讃詞）第８調 】

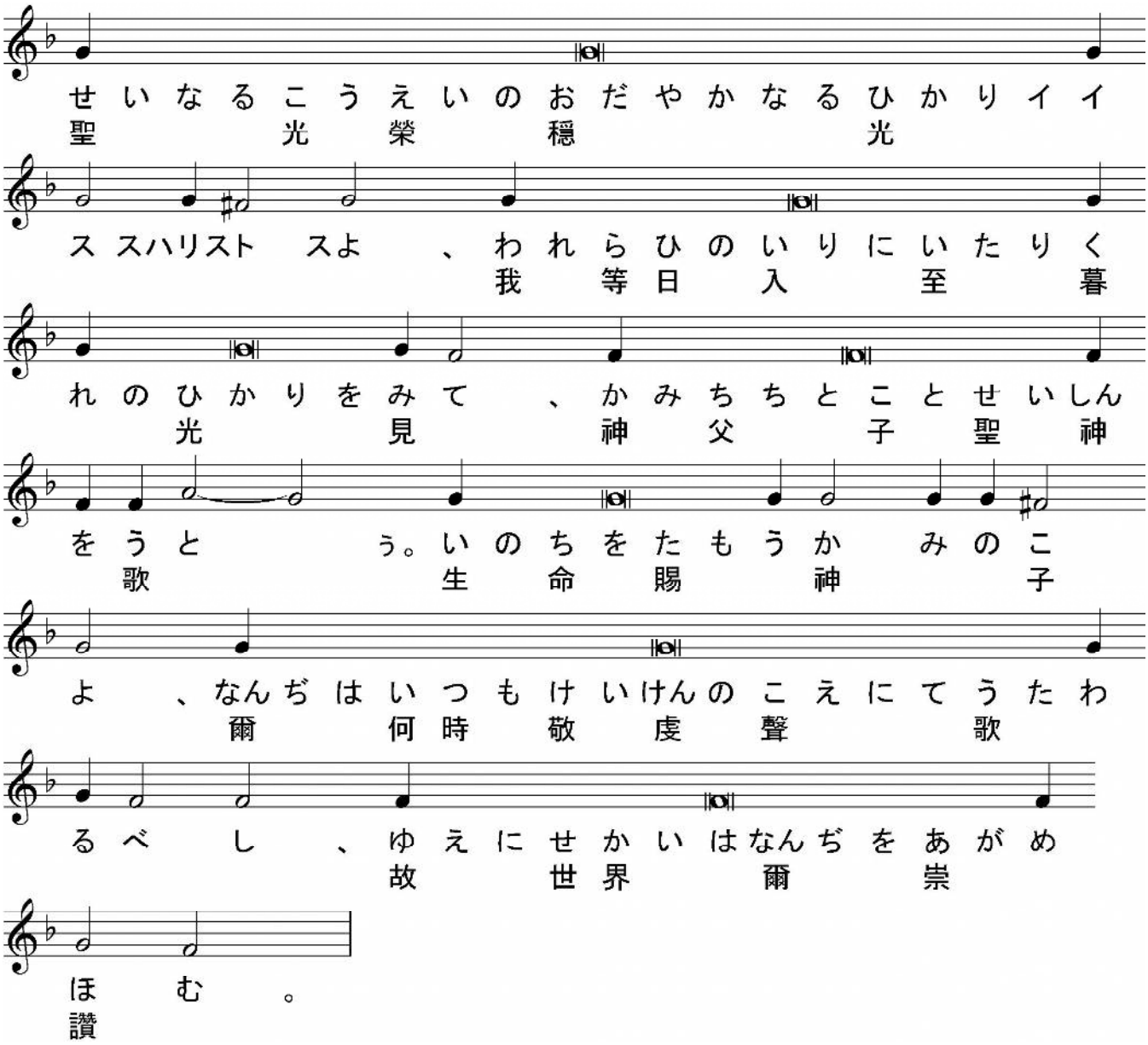




司祭）睿智（えいち）、粛（つつし）みて立（た）て、

【　聖ソフロニイの祝文（聖にして福たる）　】

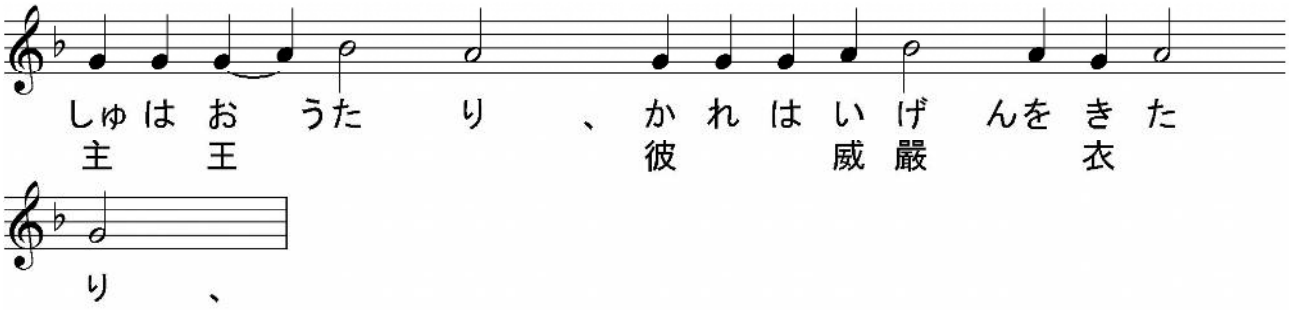




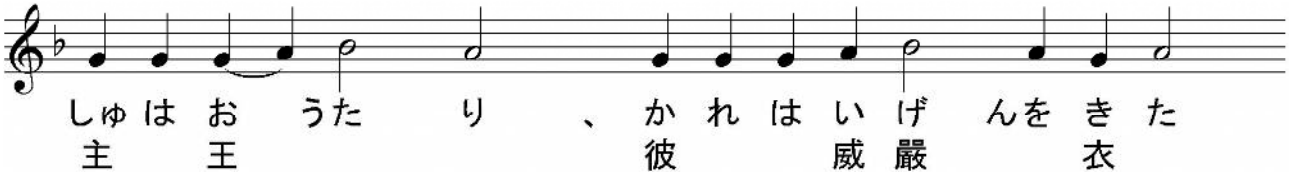
【 大プロキメン 第６調 】

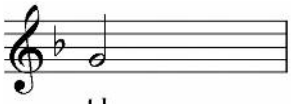
司祭） 謹(つつし)みて聽(き)くべし、衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、睿智(えいち)、

誦經） 提綱(プロキメン)、主(しゅ)は王(おう)たり、彼(かれ)は威嚴(いげん)を衣(き)たり、

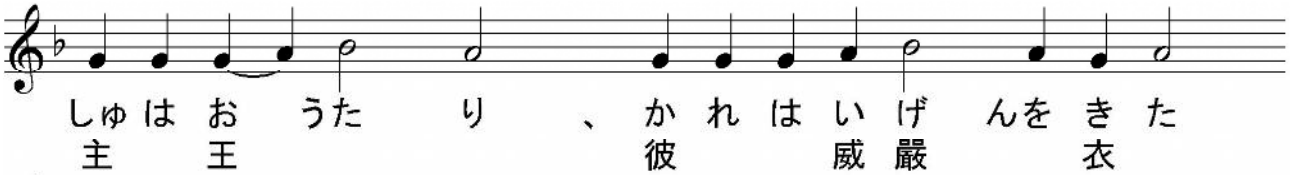


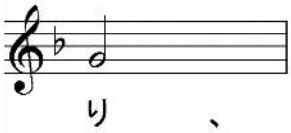
誦經） 主(しゅ)は能力(のうりょく)を衣(き)、又之(またこれ)を帶(おび)にせり、



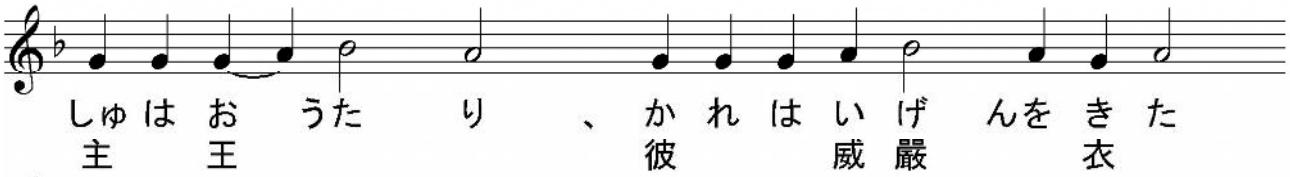


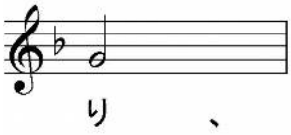
誦經） 故(ゆえ)に世界(せかい)は堅固(けんご)にして動(うご)かざらん、



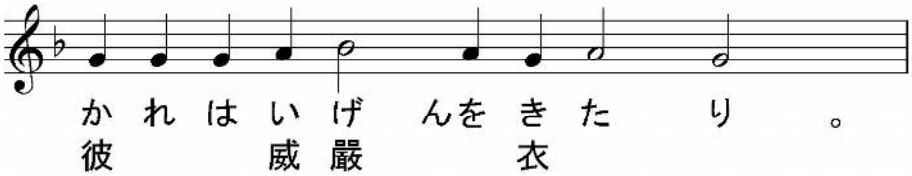


誦經） 主(しゅ)よ、聖德(せいとく)は爾(なんぢ)の家(いえ)に屬(ぞく)して永遠(えいえん)に至(いた)らん、



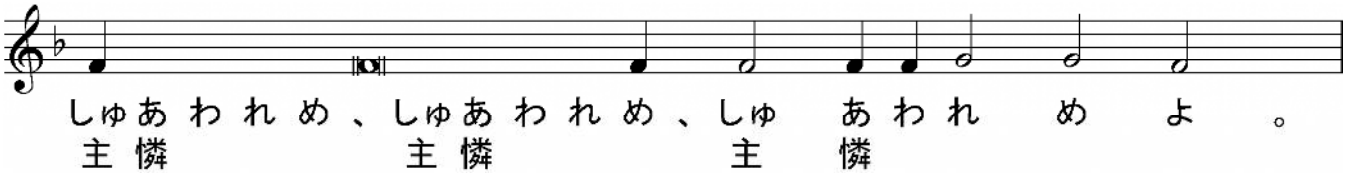


誦經） 主(しゅ)は王(おう)たり、

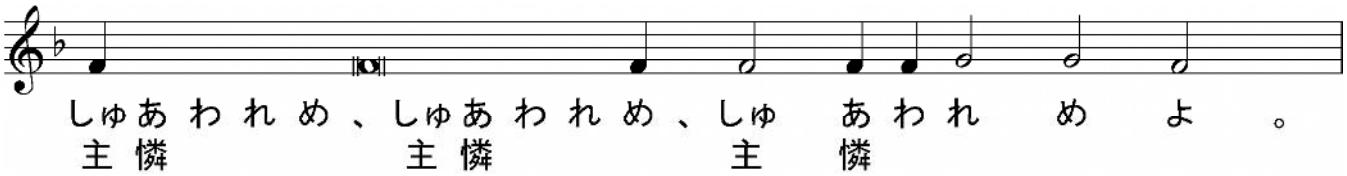


【 重聯禱 】

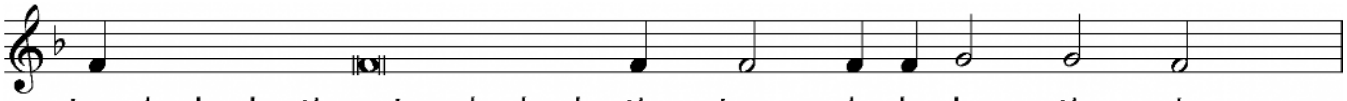
司祭） 神(かみ)よ、爾(なんぢ)の大(おおい)なる憐(あわれみ)に因(よ)りて我等(われら)を憐(あわれ)めよ、爾(なんぢ)に禱(いの)る、聆(き)き納(い)れて憐(あわれ)めよ、



司祭） 又(またわが)國(くに)の天皇(てんのう)及(およ)び國(くに)を司(つかさど)る者(もの)の爲(ため)に禱(いの)る、

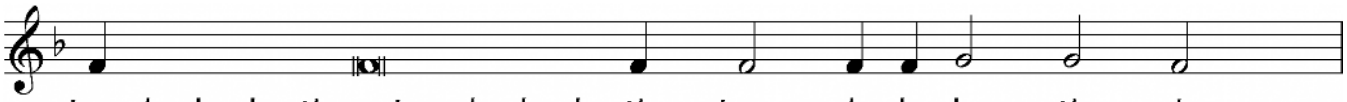


司祭) 又教曾を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



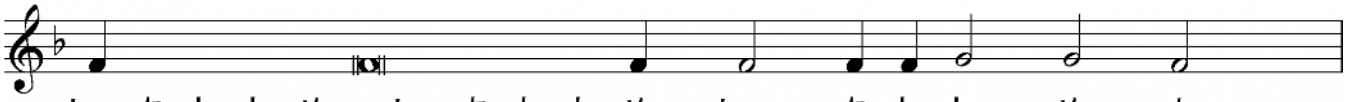
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主憐　主憐　主憐

司祭) 又恒に記憶せらるる福たる此の聖堂の建立者、及び既に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の爲に禱る、



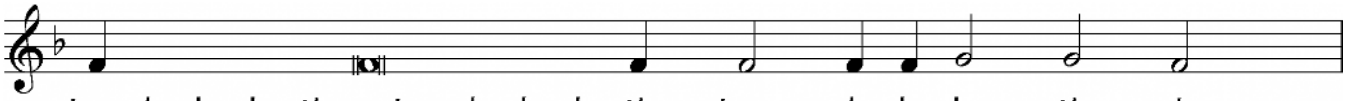
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主憐　主憐　主憐

司祭) 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦を賜わんが爲に禱る、



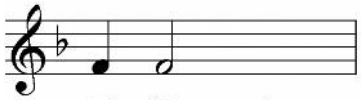
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主憐　主憐　主憐

司祭) 又此の聖堂に物を獻り、善業を行い、之に労し、之に歌い、及び此に立ちて爾の大にして豐なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主憐　主憐　主憐

司祭) 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



アミン。

誦經) 主よ、我等を守り罪なくして此の晩を度らせ給え、主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ爾の名は世世に尊み歌わる、アミン。

主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え、主よ、爾は崇め讃めらる、

爾の誡を我に訓え給え、主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誡を我に悟らせ

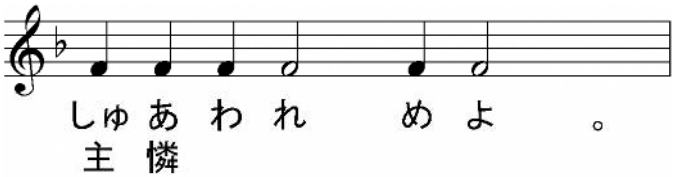
給え、聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誡にて我を照し給え。

主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ、讃は爾に歸し、

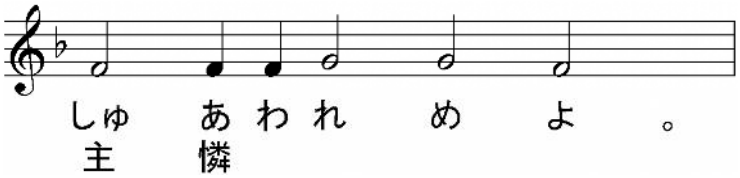
歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【　增聯禱　】

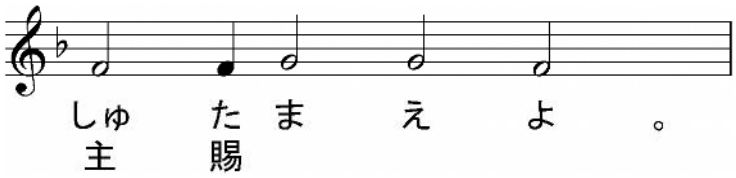
司祭）我等主の前に吾が晩の禱を增し加えん、



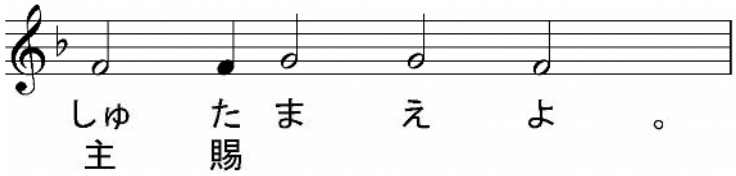
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



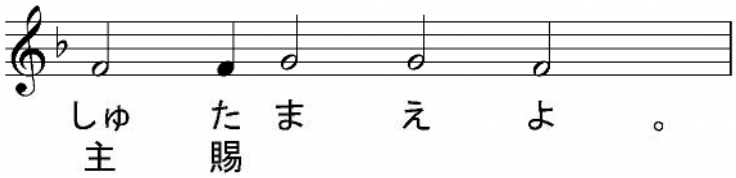
司祭）此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



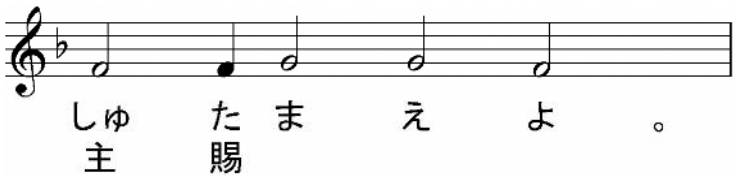
司祭）平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



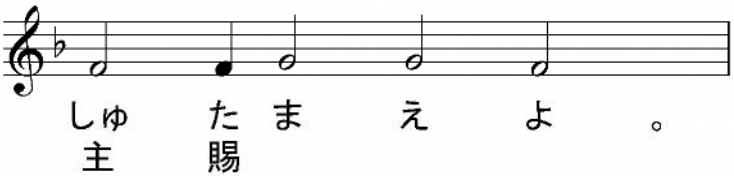
司祭）我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



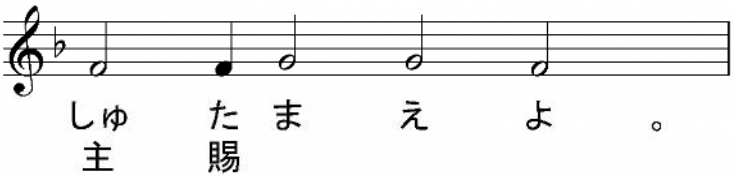
司祭）我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、



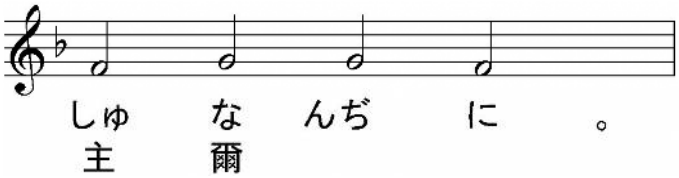
司祭) 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



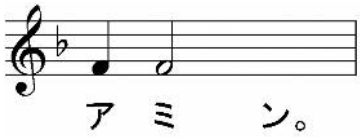
司祭) 我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



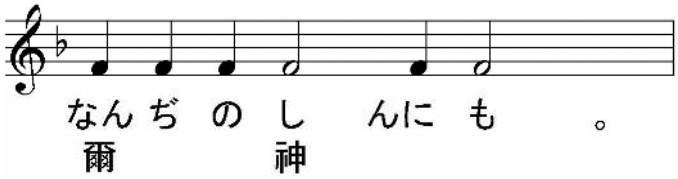
司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



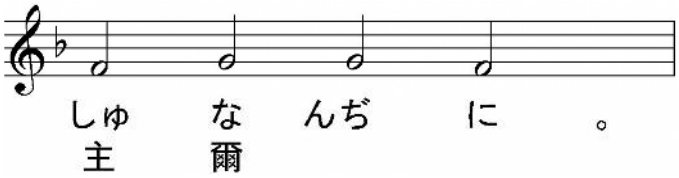
司祭) 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



司祭) 衆人に平安、

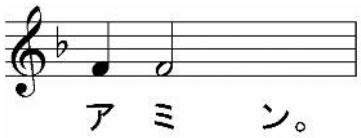


司祭) 我等の首を主に屈めん



司祭）（黙經　主我が神、天を屈めて人類を救うが爲に降りし者よ、爾の諸僕と爾の嗣業とを顧み給え、蓋爾の諸僕は、爾畏るべくして人を愛する審判者に首を屈め、己の頸を伏し、人の助を俟たず、乃爾の憐を俟ち、爾の救を仰ぐ、求む彼等を恒に護り、彼等を此の夕にも、次て至る夜にも、凡の敵凡の惡魔の姦謀と虚しき思慮と惡しき意念とより護り給え、）

願わくは爾父と子と聖神の國の權柄は讃揚讃榮せられん、今も何時も世世に、



【　挿句讃頌　第８調　】

誦經）**天より降りしイイススは十字架に上り、死せざる生命は死の爲に來り、眞の光は黑暗にある者に顯れ、衆人の復活は陷りし者に臨めり。我等の光及び救世主よ、光榮は爾に歸す。**

句　主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

讃頌　我等は死より復活せしハリストスを讃榮す、蓋彼の受けたる靈と體とは苦の時に相分れたり、其至淨なる靈は地獄に降りて、之を擄にし、我が靈の救主の聖なる體は墓に在りて朽壞を見ざりき。

句　故に世界は堅固にして動かざらん。

讃頌　ハリストスよ、我等聖詠と詩賦とを以て爾の死よりの復活を讃榮す。爾は此を以て我等を地獄の苛虐より解きて、神として永遠の生命と大なる隣とを賜えり。

句　主よ、聖德は爾の家に屬して永遠に至らん。

讃頌　嗚呼萬有の測り難き主宰、天地の造物主よ、爾は十字架の苦を忍びて、我に苦なきを流せり、瘞を受け、光榮の中に復活して、全能の手を以てアダムを偕に

復活せしめ給えり。光榮は爾の三日目の復活に歸す、爾は此を以て我等に永遠の生命と諸罪の潔淨とを賜えり、獨慈憐の主なればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

生神女讃詞　聘女ならぬ童貞女、言い難く身にて神を孕みし者、至上なる神の母よ、爾の諸僕の祈禱を受け給え。衆に諸罪の潔淨を予うる純潔なる者よ、今我等の冀願を納れて、我等皆救われんことを祈り給え。

奉神者シメオンの祝文　主宰よ、今爾の言に循いて、爾の僕を釈し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救を見たり。爾が萬民の前に備えし者なり、是れ異邦人を照すの光、及び爾の民イズライリの榮なり。

聖三祝文　聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

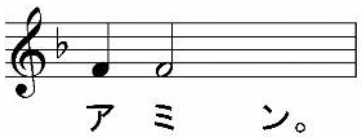
至聖三者よ、我等を憐め。主よ、我等の罪を潔くせよ。主宰よ、我等の愆を赦せ。聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給え。悉く爾の名に因る。

主、憐めよ。主、憐めよ。主、憐めよ。

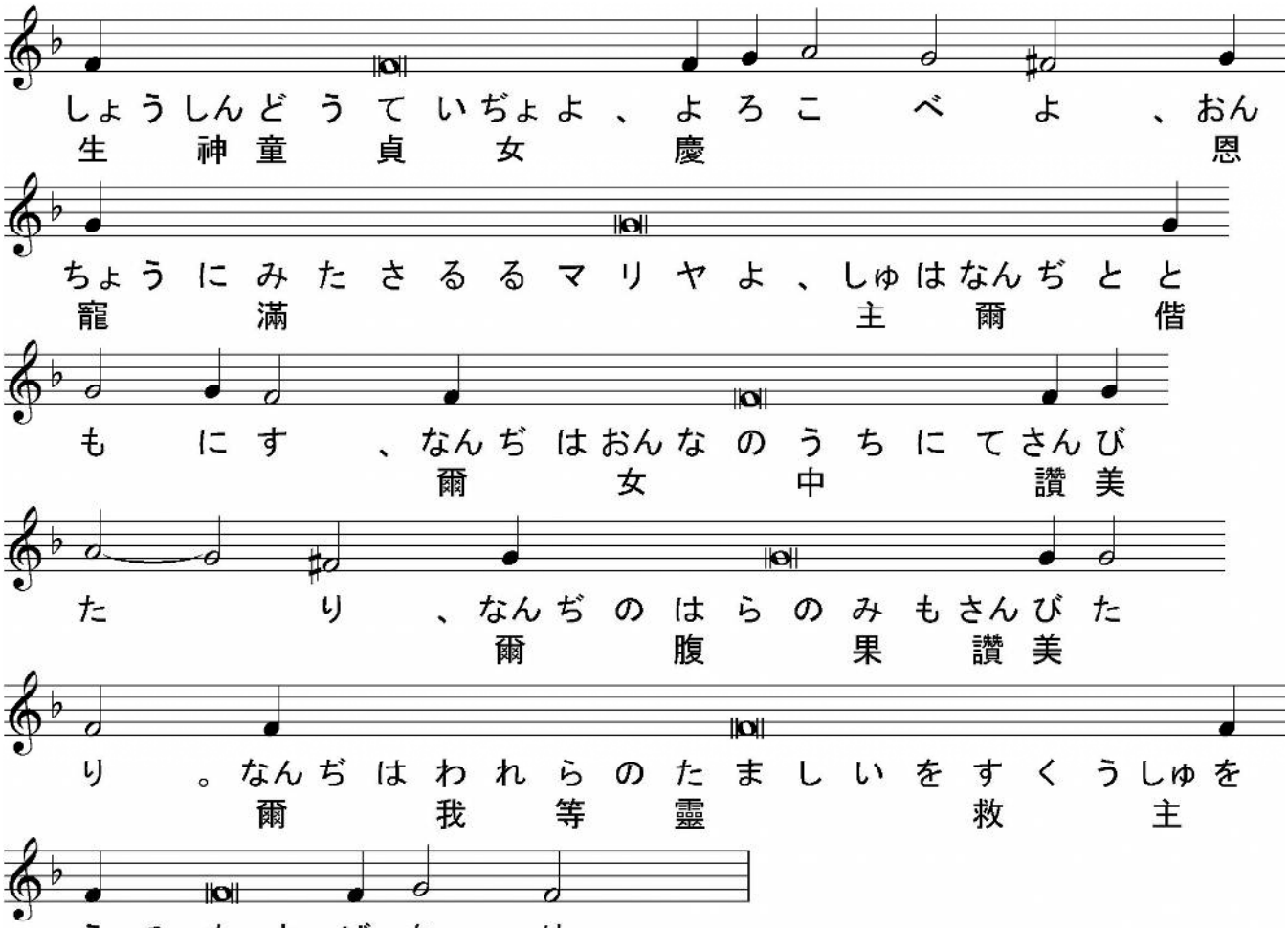
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

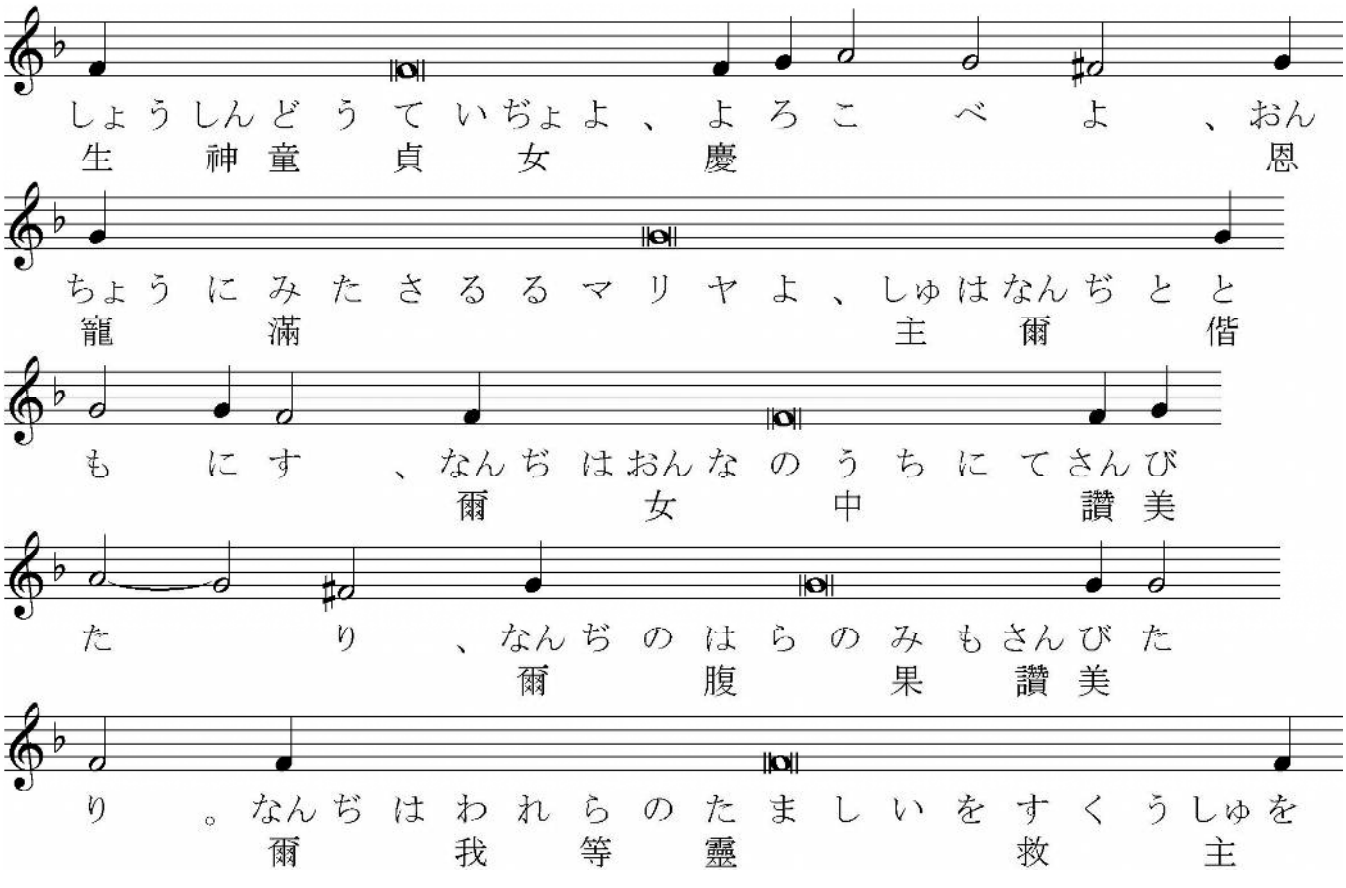
天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の国は來り、爾の旨は天に行わるるが如く、地にも行われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

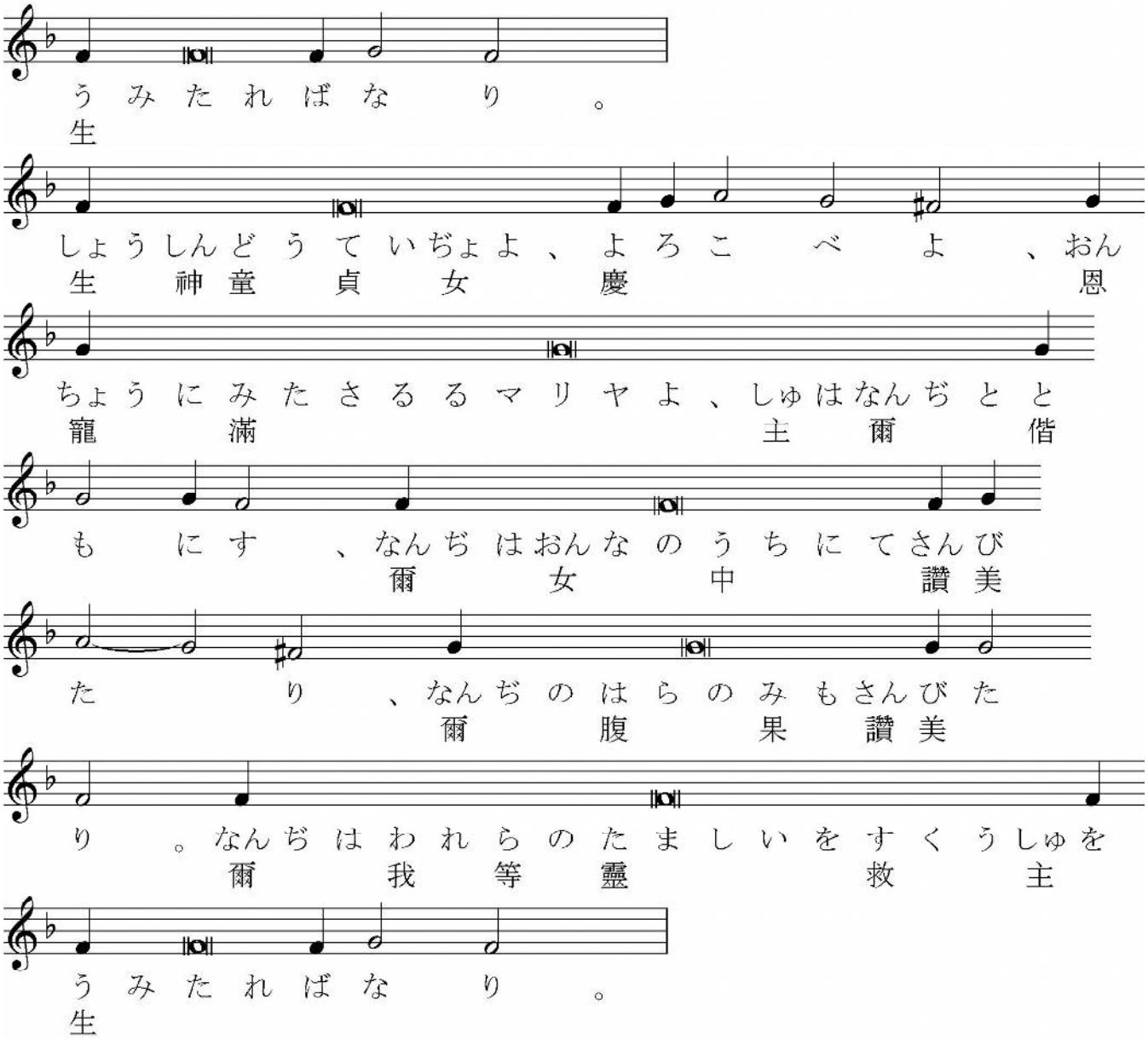
司祭)　蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。



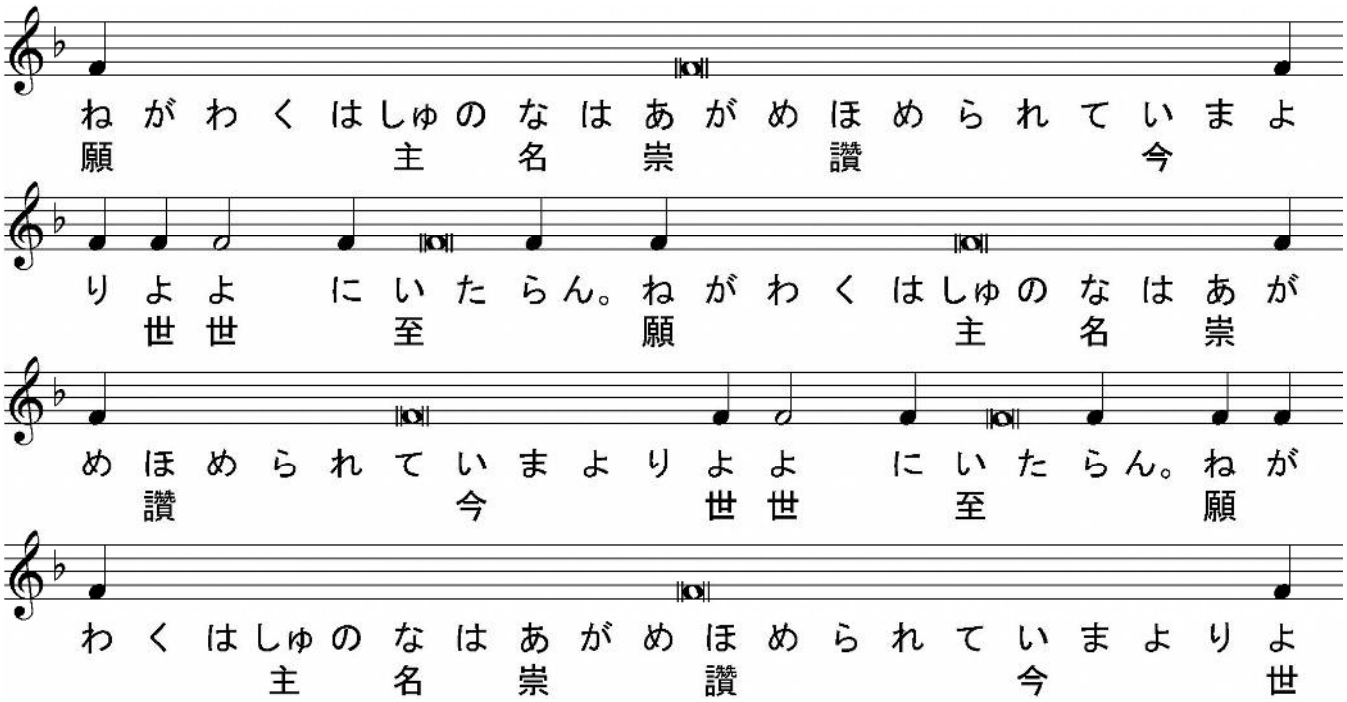
【　生神女の發放(アポリティキオン)讃詞　第４調　】

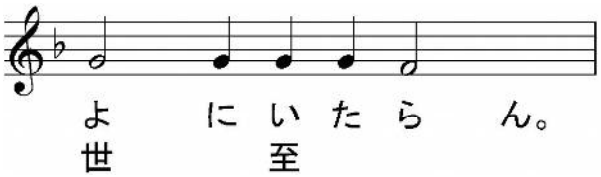




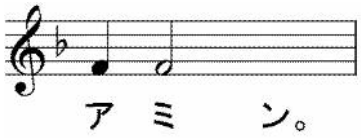

うみたればなり。
生
しょうしんどうていぢょよ、よろこべよ、おん
生神童貞女慶恩
ちょうにみたさるるマリヤよ、しゅはなんぢとと
寵満主爾偕
もにす、なんぢはおんなのうちにてさんび
爾女中讃美
たり、なんぢのはらのみもさんびた
爾腹果讃美
り。なんぢはわれらのたましいをすくうしゅを
爾我等靈救主
うみたればなり。
生

【　大晩課の終結　】


ねがわくはしゅのなはあがめほめられていまよ
願主名崇讃今
りよよにいたらん。ねがわくはしゅのなはあが
世世至願主名崇
めほめられていまよりよよにいたらん。ねが
讃今世世至願
わくはしゅのなはあがめほめられていまよりよ
主名崇讃今世



司祭）願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、



【　早課　六段聖詠　】

誦經）至高には光榮神に歸し、地には平安降り、人に惠は臨めり。

至高には光榮神に歸し、地には平安降り、人に惠は臨めり。

至高には光榮神に歸し、地には平安降り、人に惠は臨めり。

主よ、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讃美を揚げんとす。

主よ、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讃美を揚げんとす。

【　第３聖詠　ダヴィドの詠、其子アヴサロムを避くる時に作りし所なり。　】

主よ、我が敵は何ぞ多き、多くの者は我を攻む、多くの者は我が靈を指して、彼は神より救を得ずと云う。然れども主よ、爾は我を衛る盾なり、我の榮なり、爾は我が首を擧ぐ、我が聲を以て主に呼ぶに、主は其聖山より我に聽き給う。我臥し、寢ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。環りて我を攻むる萬民は、我之を懼れざらん。主よ、起きよ、吾が神よ、我を救い給え。蓋爾は我が諸敵の頰を批ち、惡人の齒を折けり。救は主に依る、爾の降福は爾の民に在り。

我臥し、寢ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。

【　第３７聖詠　ダヴィドの詠。（「スボタ」の）記念の爲に此を作れり。　】

主よ、爾の憤を以て我を責むる毋れ、爾の怒を以て我を罰する毋れ、蓋爾の矢は我に刺さり、爾の手は重く我に加わる。爾の怒に依りて我が肉に傷まざる所なく、我の罪に因りて我が骨は安きを得ず、蓋我が不法は我が首に溢れ、重任の如く我を圧す、我の無智に依り我が傷腐れて且臭し。我屈まりて仆れんとし、終日憂いて行く、蓋我が腰は熱に悩まされ、我が肉に傷まざる所なし。我力衰えて痛く憊れ、我が心の裂くるによりて號ぶ。主よ、我が悉くの願は爾の前に在り、我が歎息は爾に隱るるなし。我が心は戰い栗き、我が力は我より脱け、我が目の光も已に我にあるなし。我が朋と親しき者とは我が傷を見て離れ、我が親戚は遠ざかりて立つ。我が生命を覓むる者は網を設け、我を害わんと欲する者は我が淪亡のことを言いて、毎日惡

しき謀を圖む、然れども我は聾の如く聽かず、唖の如く己の口を啓かず、是に於いて我は聞くなく、其口に答うる所なき人の如くなれり、蓋主よ、我爾を恃む、主我が神よ、爾聽き給わん。我言えり、願わくは敵は我に勝たざらん、我が足の跌く時、彼等は我に向いて誇り高ぶる。我殆ど仆れんとす、我の憂は常に我が前に在り。我は我が不法を認め、我が罪の爲に甚哀む。我が敵は生きて愈強く、故なくして我を疾む者は益多し、惡を以て我の善に報ゆる者は、我が善に從うに因りて我の敵となれり。主我が神よ、我を遺つる毋れ、我に遠ざかる毋れ、主我の救主よ、速に來りて我を救い給え。

主我が神よ、我を遺つる毋れ、我に遠ざかる毋れ、主我の救主よ、速に來りて我を救い給え。

【 第６２聖詠　ダヴィドの詠。イゥデヤの野に在りて此を作れり。 】

神よ、爾は我の神なり。我曉より爾を尋ぬ、我が靈は渇きて爾を望み、我が身は空しくして燥ける水なき地にありて、痛く爾を慕う、爾の能力と爾の光榮とを見ん爲なり、我が曾て爾を聖所に觀しが如し、蓋爾の愛憐は生命に愈る。我が口爾を讚美せん。是くの如く我生ける時爾を崇め讚め、爾の名に依りて我が手を擧げん。我が靈の飽かさるること脂油を以てするが如く、我が口歡の聲にて爾を讚美す、榻にて爾を記憶し、夜更に爾を思う時に在り。蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が靈は親しく爾に附き、爾の右の手は我を扶く。彼の我が靈を害わんことを謀る者は地の深き處に降らん、彼等刃に攫りて、狐の獲物とならん。惟王は神の爲に樂まん、凡そ彼を以て誓う者は譽を得ん、蓋譌を言う者の口は塞がれんとす。

夜更に爾を思う、蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が靈は親しく爾に附き、爾の右の手は我を扶く。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

【 第８７聖詠　歌。コレイの諸子の詠。伶長に「マハラフ」を以て歌わしむ。エズラり裔エマンの教訓。】

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願わくは我が禱は爾が顏の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ、蓋我が靈は苦難に飽き、我が生命は地獄に近づけり。我は墓に入る者と等しくなり、力なき人の如くなれり、死人の中に投げられて、猶殺されて柩に臥し、爾に復記憶せられず、爾の手より絶たれし者の如し。爾我を深き坎に、闇冥に、淵に置けり。爾の憤は重く我に加わり、爾の波を傾けて我を擊てり。爾我が識る所の者を遠ざけ、我を彼等の惡むべき者となせり、我閉されて出づるを得ず。我が目は愁苦に因りて痛く疲れたり、主よ、我終日爾を呼び、手を伸べて爾に向えり。爾豈に死せし者に奇跡を施さんや、死せし者豈に起ちて爾を讚揚せんや、爾の憐は墓の中に、爾の眞は腐敗の地に、豈に傳えられんや、爾の奇跡は闇冥に、爾の義は遺忘の地に、豈に識られんや。主よ、我爾に呼ぶ、我の禱は晨に爾の前に在り。主よ、爾は何爲れぞ我が靈を棄て、爾の顏を我に隱し給う。我少きより禍に遭い、幾ど消え亡せんとし、爾の恐嚇を受けて我が疲は極れり。爾の憤は我を度り、爾の恐嚇は我を砕けり、毎日水の如くに我を環り、齊しく集りて我を圍む。爾は我が友と親しき者とを我より遠ざけたり、我が識る所の者は見えず。

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願わくは我が禱は爾が顏の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ。

【　第１０２聖詠　ダヴィドの詠。　】

我が靈よ、主を讃め揚げよ、我が中心よ、其聖なる名を讃め揚げよ。我が靈よ、主を讃め揚げよ、彼が悉くの恩を忘るる毋れ。彼は爾が諸の不法を赦し、爾が諸の疾を療す、爾の生命を墓より救い、憐と惠とを爾に冠らせ、幸福を爾の望に飽かしむ、爾が若復さるること鷲の如し。主は凡そ迫害せらるる者の爲に義と審判とを行う。彼は己の途をモイセイに示し、己の作爲をイズライリの諸子に示せり。主は宏慈にして矜恤、寛忍にして鴻恩なり、怒りて終あり、憤を永く懷かず。我が不法に因りて我等に行わず、我が罪に因りて我等に報いず、蓋天の地より高きが如く、斯く主を畏るる者に於ける其憐は大なり、東の西より遠きが如く、斯く主は我が不法を我等より遠ざけたり、父の其子を憐むが如く、斯く主は彼を畏るる者を憐む。蓋彼は我が何より造られしを知り、我等の塵なるを記念す。人の日は草の如く、其の榮ゆること田の華の如し。風之を過ぐれば無に歸し、其有りし處も亦之を識らず。唯主の憐は彼を畏るる者に世より世に至り、彼の義は其約を守り、其誡を懷いて、之を行う子子孫孫に及ばん。主は其寶座を天に建て、其國は萬物を統べ治む。主の諸の天使、能力を具え、其聲に遵いて其言を行う者よ、主を讃め揚げよ。主の悉くの軍、其旨を行う役者よ、主を讃め揚げよ。凡そ主の悉くの造工よ、其一切治むる處に於て主を讃め揚げよ。我が靈よ、主を讃め揚げよ。

其一切治むる處に於て、我が靈よ、主を讃め揚げよ。

【　第１４２聖詠　ダヴィドの詠。（其子アヴサロムに逐われし時に此を作れり。）　】

主よ、我が禱を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聽き給え。爾の僕と訟を爲す毋れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が靈を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾

に向かい、我が 靈 は渇ける地の如く 爾 を慕う。主よ、 速 に我に聽き給え、我が 靈 は 衰 えたり、 爾 の 顔 を我に隱す毋れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に 爾 の 憐 を聽かしめ給え、我 爾 を賴めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が 靈 を 爾 に擧ぐればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我 爾 に趨り附く。我に 爾 の旨を 行 うを敎え給え、 爾 は我の神なればなり、願わくは 爾 の善なる神は我を義の地に 導 かん。主よ、 爾 の名に依りて我を生かし給え、 爾 の義に依りて我が 靈 を苦難より引き出し給え、 爾 の 憐 を以て我が敵を 滅 し、凡そ我が 靈 を攻むる者を 夷 げ給え、我は 爾 の僕なればなり。

主よ、 爾 の義に依りて我に聽き給え。 爾 の僕と 訟 を爲す毋れ、主よ、 爾 の義に依りて我に聽き給え。 爾 の僕と 訟 を爲す毋れ、願わくは 爾 の善なる神は我を義の地に 導 かん。

光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

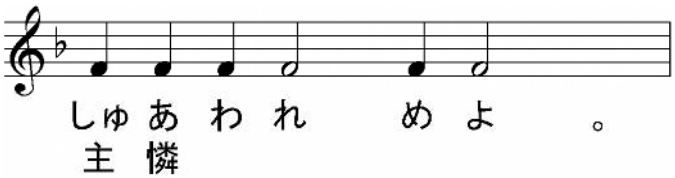
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す。

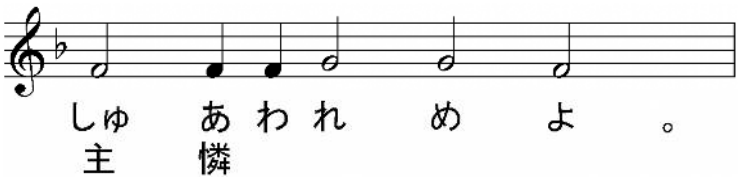
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す。

【 大聯禱 】

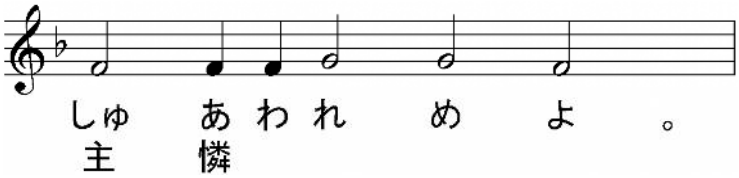
司祭) **我等安和にして主に禱らん、**



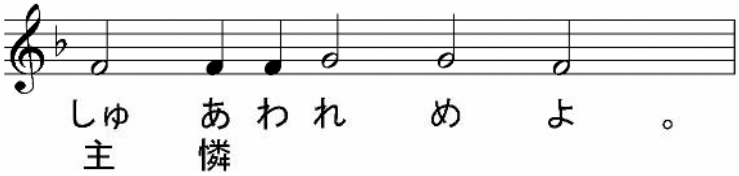
司祭) **上より降る安和と我等が 靈 の 救 の爲に主に禱らん、**



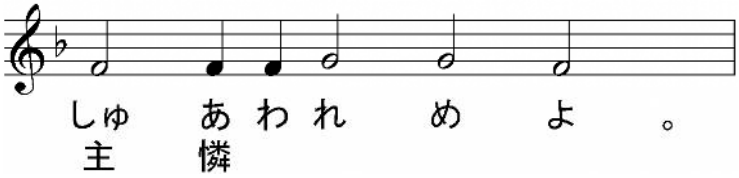
司祭) **全世界の安和、神の聖なる諸 教 會の堅 立、及び 衆 人の合 一の爲に主に禱らん、**



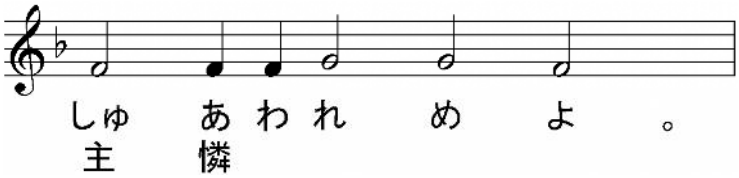
司祭) 此の聖堂、及び信と 愼 と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



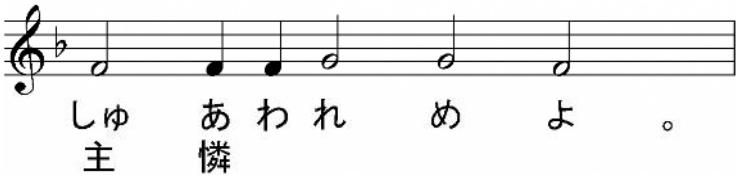
司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



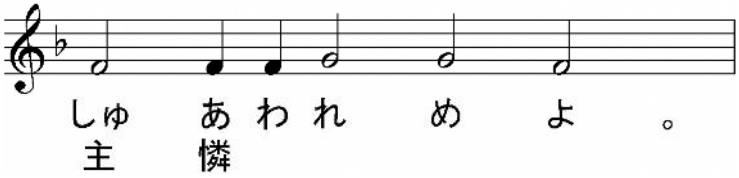
司祭) 我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



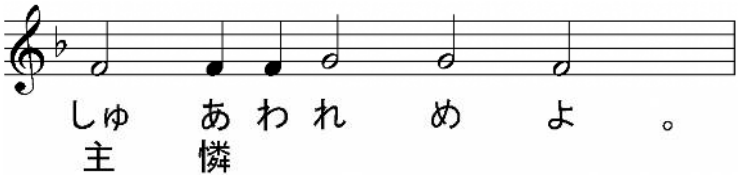
司祭) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



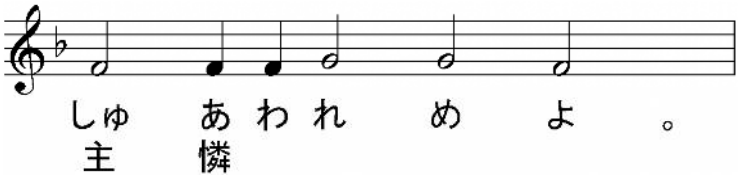
司祭) 氣候順和、五穀豐穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



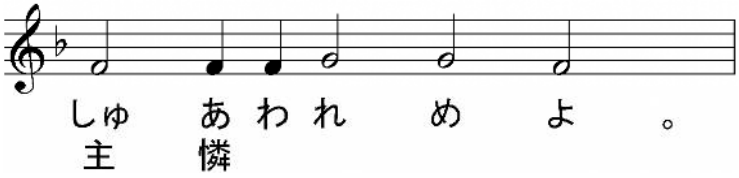
司祭) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



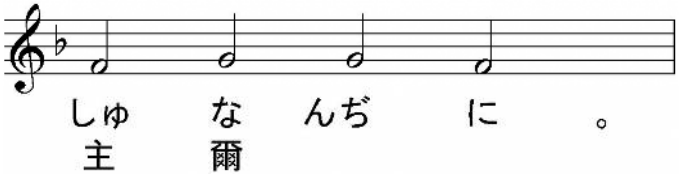
司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



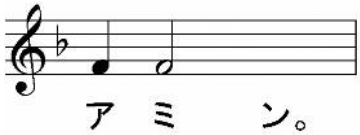
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

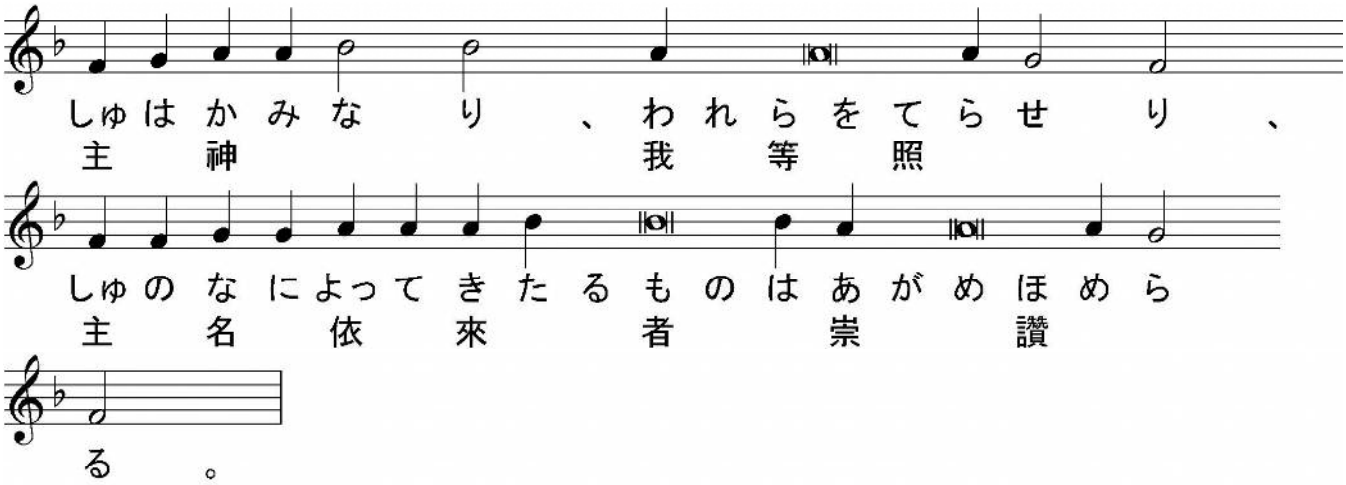


司祭）蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

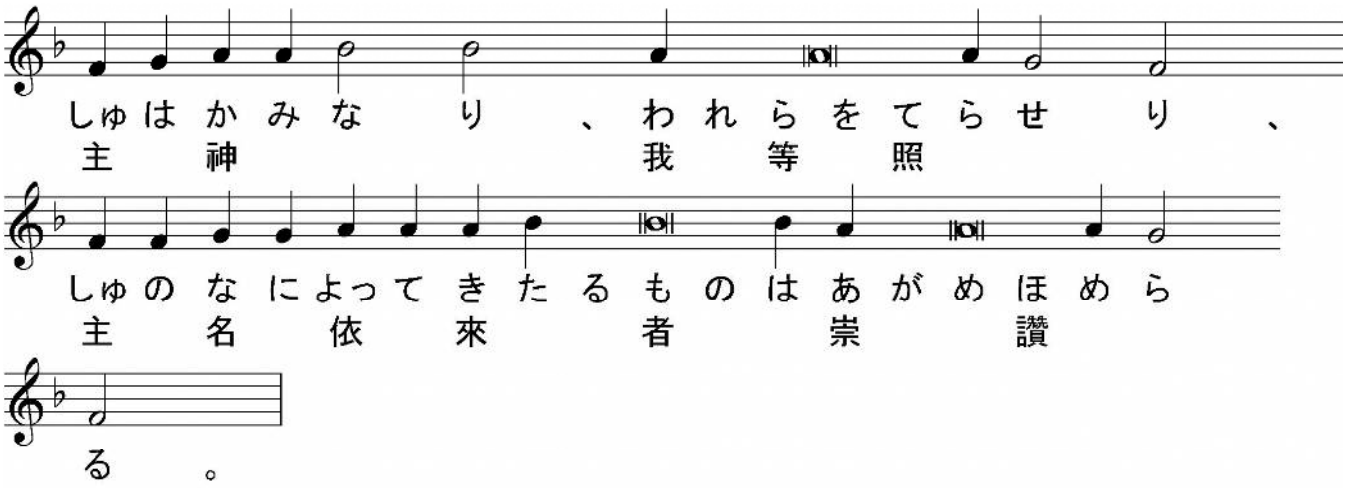


【　第１１７聖詠（主は神なり我等を照らせり）　第８調　】

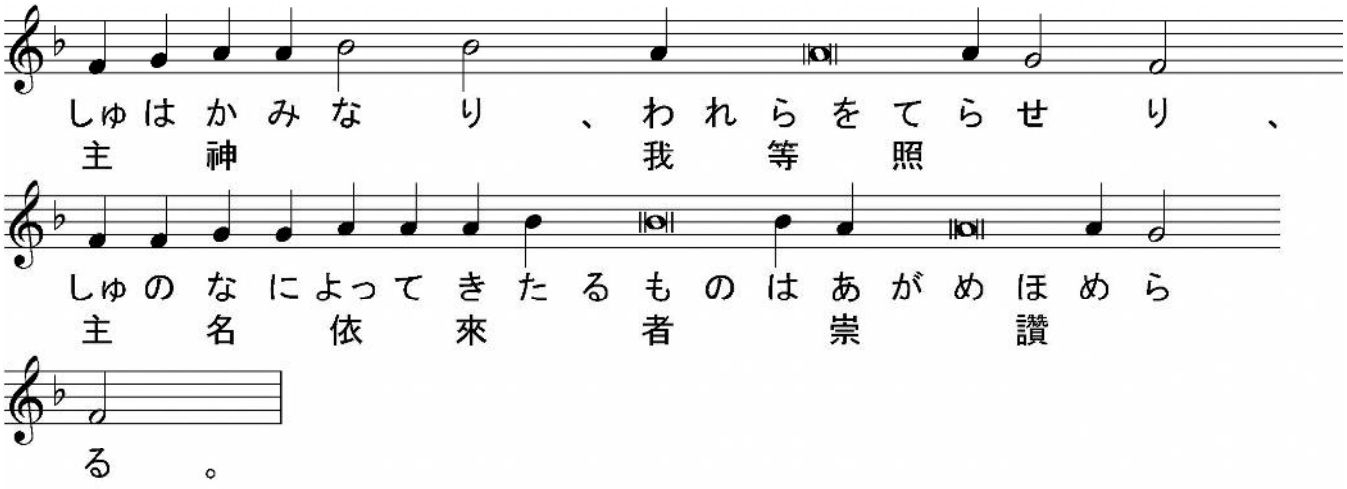
司祭）主は神なり我等を照せり、主の名に依て來る者は崇め讃めらる、



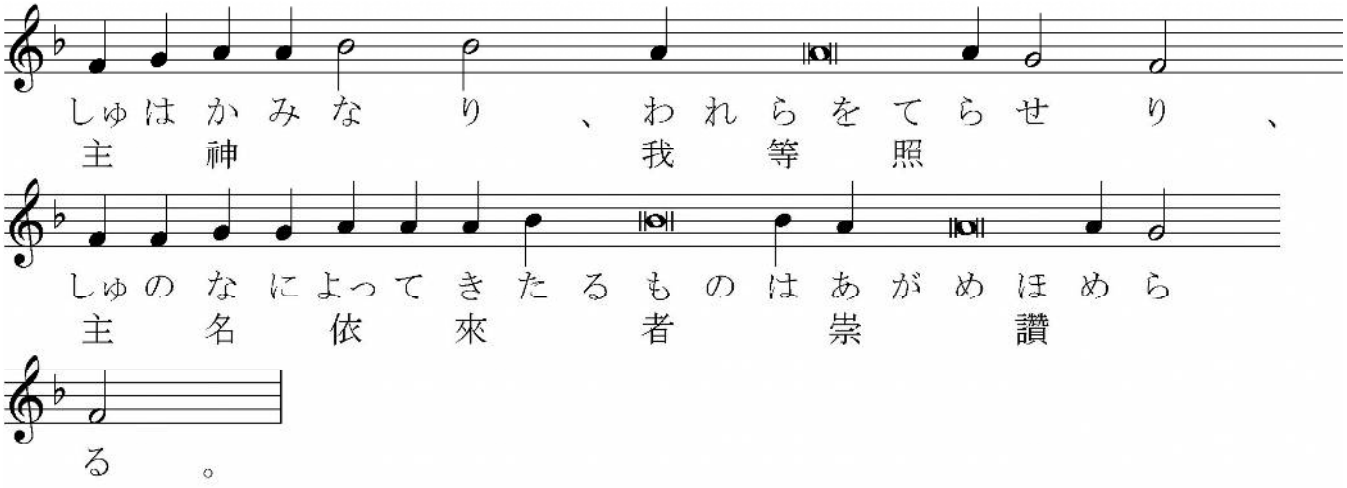
司祭）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、



司祭）彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

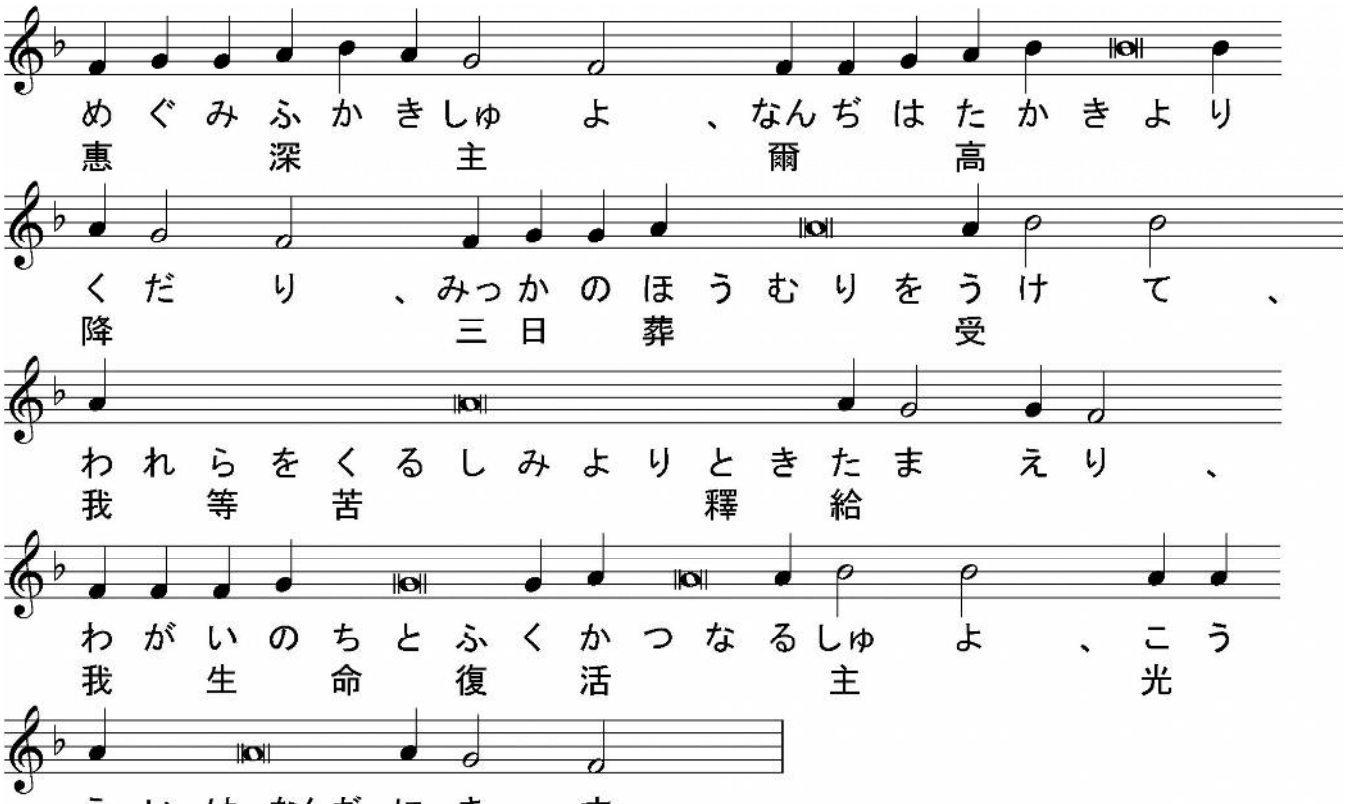


司祭）我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん、

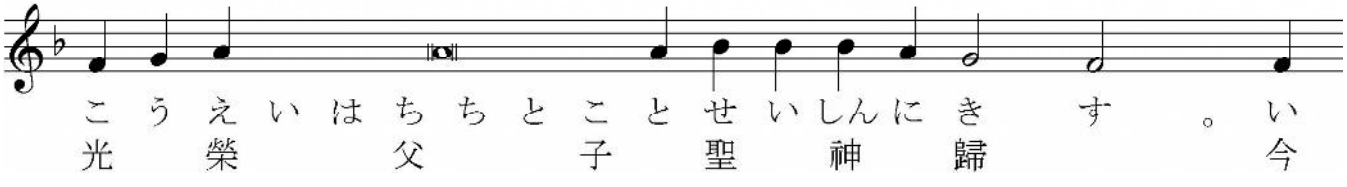


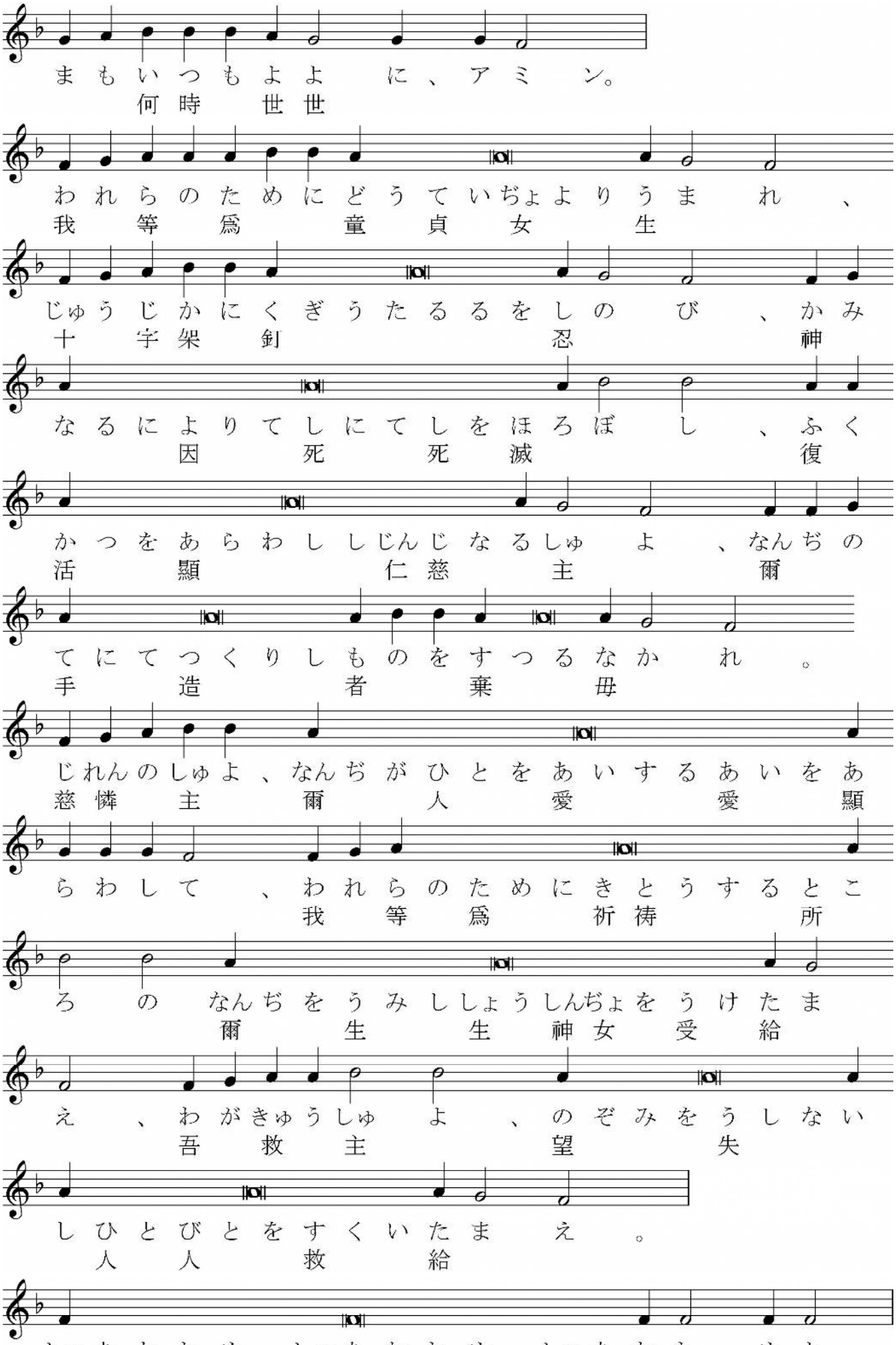
司祭）工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、

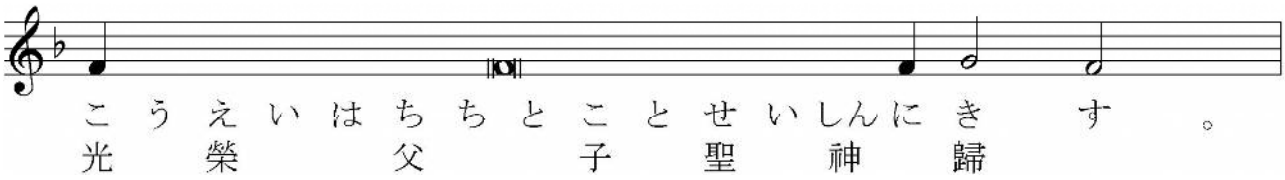
【　復活のトロパリ　第８調　】


めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
惠深主爾高
くだり、みっかのほうむりをうけて、
降三日葬受
われらをくるしみよりときたまえり、
我等苦釋給
わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
我生命復活主光
えいはなんぢにきす。
榮爾歸
めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
惠深主爾高
くだり、みっかのほうむりをうけて、
降三日葬受
われらをくるしみよりときたまえり、
我等苦釋給
わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
我生命復活主光
えいはなんぢにきす。
榮爾歸

【　生神女讃詞　第８調　】


こうえいはちちとことせいしんにきす。い
光榮父子聖神歸今


まもいつもよよに、アミン。
何時世世
われらのためにどうていぢょよりうまれ、
我等爲童貞女生
じゅうじかにくぎうたるるをしのび、かみ
十字架釘忍神
なるによりてしにてしをほろぼし、ふく
因死死滅復
かつをあらわししじんじなるしゅよ、なんぢの
活顯仁慈主爾
てにてつくりしものをすつるなかれ。
手造者棄母
じれんのしゅよ、なんぢがひとをあいするあいをあ
慈憐主爾人愛愛顯
らわして、われらのためにきとうするとこ
我等爲祈祷所
ろのなんぢをうみししょうしんぢょをうけたま
爾生生神女受給
え、わがきゅうしゅよ、のぞみをうしない
吾救主望失
しひとびとをすくいたまえ。
人人救給
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ、
主憐主憐主憐



誦經）今も何時も世世に、アミン。

【 第２カフィズマ　第９聖詠　伶長に歌わしむ。ラベンの死後。ダヴィドの詠。 】

主よ、我心を尽くして爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇迹を傳えん。至上者よ、我爾の爲に慶び祝い、爾の名に歌わん。我が敵は退けらるる時、躓きて爾が顔の前に亡びん。蓋爾は我が判を行い、我が訟を理めたり、義なる審判者よ、爾は寶座に坐せり。爾は諸民を憤り、惡者を滅し、其名を永遠に抹せり。敵には武器悉く盡き、城邑は爾之を毀ち、其記憶は之と偕に滅びたり。唯主は永遠に存す、彼は審判の爲に其寶座を備えたり、彼は公義を以て世界を審判し、正直を以て、審判を諸民に行わん。主は苦めらるる者の爲に避所となり、憂の時に於て避所とならん。爾の名を知る者は爾を賴まん、主よ爾は尋ぬる者を爾棄てざればなり。 シオンに居る主に歌え、彼の行爲を諸民の中に傳えよ、蓋彼は血を流す罪を問い、之を記憶して、苦めらるる者の號を忘れず。主よ、我を憐め、我を死の門より升せて、爾が悉くの讃美をシオンの女の門に傳えしむる者よ、我を疾む者の我に加うる苦を見よ、我爾が救の爲に喜ばん。諸民は其掘りたる陥に陷り、其藏したる所の網に其足は縶われたり。主は其行いし審判に依りて知られ、惡者は己が手の所爲にて執えられたり。願わくは惡者、凡そ神を忘るるの民は地獄に赴かん。蓋貧しき者は永く忘れらるるにあらず、乏しき者の望は永く絶たるるにあらず。主よ、起きよ、人に勝を得しむる母れ、願わくは諸民は爾が顔の前に審判せられん。主よ、彼等をして懼れしめよ、諸民が己の人たるを知らん爲なり。主よ、何ぞ遠く立ち、憂の時に己を隠す。惡者は誇に依りて貧しき者を陵ぐ。願わくは彼等自ら設くる所の謀に陷らん。蓋惡者は其靈の慾を以て自ら誇り、利を貪る者は己を讃む。惡者は其驕に依りて主を輕んじて、糺さざらんと云う。其悉

くの思の中に神なしとす。彼の道は恒に害あり、爾の定は彼に遠ざかる、彼は其悉くの敵を藐んじ視る、其心に謂う、我動かざらん、代代禍に遭わざらんと、其口には詛呪と欺詐と詭計とを滿て、其舌の下には窘迫と殘害あり。彼は垣の後、埋伏所に坐し、罪なき者を隠れたる所に殺し、目を以て貧しき者を窺う。隠れたる所に伏し狙うこと、獅が窟に在るが如し、埋伏所に伏し狙いて、貧しき者を執えんとす、貧しき者を執え、牽きて己の網に入る。彼は蹲みて伏し、貧しき者は其勁き爪に落つ。彼は其心に謂う、神は忘れ、己の面を匿せり、永く見ざらんと。主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦めらるる者を永く忘るる毋れ。何ぞ惡者は神を輕んじて、其心に爾は糺さざらんと云う。爾之を見る。蓋爾は陵と虐を鑒みる、爾の手を以て之に報いん爲なり。貧しき者は爾に賴る。孤を扶くる者は爾なり。求む、惡者と罪者の臂を折きて、其惡事を尋ぬとも得るなきに至らしめよ。主は王となりて、世世に終なからん、異邦民は其地より絶たれん。主よ、爾は謙卑の者の願を聞く。彼等の心を固めよ、爾の耳を開きて、孤と苦めらるる者との爲に審判を行い給え、人が復地上に於て恐嚇を爲さざらん爲なり。

【 第１０聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

我主を恃む、爾何ぞ我が靈に謂う、鳥の如く飛びて爾の山に至れ。蓋視よ、惡人弓を張り、其矢を弦に注え、暗に在りて心の義なる者を射んと欲す。基壞られたれば、義人何をか爲さん。主は其聖殿に在り、主の寶座は天に在り、其目は貧しき者を見、其瞼は人の諸子を試みる。主は義者を試み、其心は惡人と暴虐を好む者を疾む。彼は爇炭、烈火、硫磺を雨の如く惡人に注がん。炎風は彼等が杯の分なり。蓋主は義にして義を愛し、其顔は義人を視る。

【 光榮讃詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【 第１１聖詠　伶長に八弦の樂器を以て歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

主よ、我を救い給え、蓋義人は絶えたり、人の子の中に忠信の者なし。人各其隣に譎を言い、媚び諂う口にて貳心より言う。主は悉くの媚び諂う口、誇り高ぶる舌を絶ち、彼の言いて、我が舌にて勝たん。我が口は我等と共にあり、誰か我等に主たらんと言う者を絶たん。主曰く、貧しき者の苦乏しき者の嘆きに因りて、我今興き、執えられんとする者を危うからざる處に置かん。主の言は淨き言なり。爐に於て土より淨められて、七次錬られたる銀なり。主よ、爾は我等を保ち、我等を護りて、斯の世より永遠に至らん。人の子の中、小人高に在れば、惡者四方に環る。

【 第１２聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

主よ、我を全く忘るること何の時に至るか、爾の面を我に隱すこと何の時に至るか、我が己の靈の中に謀り、心の中に日夜憂を懷くこと何の時に至るか、我が敵の我に高ぶること何の時に至るか。主我が神よ、顧みて我に聽き給え。我が目を明にして、我を死の寐に寐ねざらしめ給え、我が敵が我は彼に勝てりと曰わざらん爲、我を攻むる者が我の撼く時に喜ばざらん爲なり。我爾の憐を恃み、我が心爾の救を喜ばん、我恩を施す主を讃め頌い、至上なる主の名を崇め歌わん。

【 第１３聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

無知なる者は其心に神なしと云えり。彼等は自ら壞れ憎むべき事を行えり、善を爲す者なし。主は天より人の諸子を臨み、或は智の明にして神を求むる者ありやを見んと欲す。皆迷い、均しく無用と爲れり、善を行う者なし、一も亦なし。凡そ不法を行い、餅を食うが如く、我が民を食い、及び主を呼ばざる者豈悟らずや。彼等は懼

なき處に懼れん。蓋神は義人の族にあり。爾等は貧者の意に、主は彼の恃なりと、謂うを嘲りたり。誰かシオンより救をイズライリに與えん。主が其民の虜を返さん時、イァコフは喜びイズライリは樂まん。

【 光榮讃詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【 第１４聖詠 ダヴィドの詠 】

主よ、孰か爾の住所に居るを得る、孰か爾の聖山に在るを得る。玷なきを行い、義をなし、其心に眞實を言う者、其舌にて讒せず、其親しき者に惡を爲さず、其隣を謗る言を受けず、邪僻なる者を藐んじ、主を畏るる者を尊み、誓を發すれば惡人に於てすと雖變えず、銀を貸して利を取らず、賂を受けて辜なき人を責むることをせざる者なり。此くの如く行う者は永く撼かざらん。

【 第１５聖詠 ダヴィドの歌 】

神よ、我を護り給え、我爾を恃めばなり。我主に謂えり、爾は我が主なり。我の福は爾の賚に非るなし。地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我專之を慕う。趨りて他の神に向う者は、願わくは其憂益多からん、其灌奠の血は、我之を灌がず。其名は我が口に稱えざらん。主は我が嗣業と我が爵の分なり、爾は我の鬮を執る。我の壟界は美しき地を繞る。我の嗣業は我が喜ぶ所なり。我は我が悟を啓きし主を讃め揚げん。夜に於ても我が中心我を誨う。我恒に主を我が前に見たり、蓋彼は我が右にあり、我が動かざらん爲なり。此に因りて我が心は喜び、我が舌は樂め

り、我が肉體も望に安んぜん、蓋爾我が靈を地獄に遺さず、爾の聖者に朽つるを見ざらしめん。爾我に生命の道を示さん。爾が顏の前に喜の充滿あり、爾が右の手に世世の福樂あり。

【 第１６聖詠　ダヴィドの祈禱 】

主よ、我の直を聽き、我の呼ぶを聆き納れ、僞なき口より出づる禱を受け給え。願わくは我を糺す判は、爾の顏より出で、爾の目は義に注がん。爾は已に我が心を驗し、夜中に臨み我を試みて得たる所なし、我が口は我の思に離れず。人の行爲に於ては、我爾が口の言に循いて、迫害者の途を愼めり。我が歩を爾の路に固めよ、我が足の蹶かざらん爲なり。神よ、我爾に籲ぶ、蓋爾我に聽かん。爾の耳を我に傾けて、我が言を聽き給え。爾を賴む者を爾の右の手に敵する者より救う主よ、爾の妙なる憐を顯し給え。我を眸子の如く護れ、爾が翼の蔭を以て、我を攻むる不虔者の面、我を環る我が靈の敵より我を覆い給え。彼等は己の脂に包まれ己の口にて高ぶり言う。今我が歩む度に我等を環り、目に狙いて、地に顚さんと欲す。彼等は獲物を貪る獅の如く、隱なる處に蹲る小獅の如し。主よ、起きよ、彼等に先だちて彼等を殪し、爾の劒を以て我が靈を不虔者より救え。主よ、爾の手を以て人、卽世の人より救い給え。彼等の業は今生にあり、爾は爾の寶藏より其腹を充たし、彼等の子は饜きて餘を其裔に殘さん。惟我は義を以て爾の顏を見んとす、覺め起きて爾の容を以て自ら饜き足らん。

【 光榮讚詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

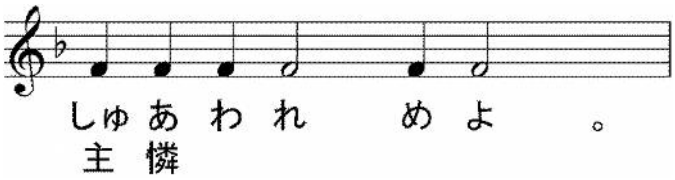
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

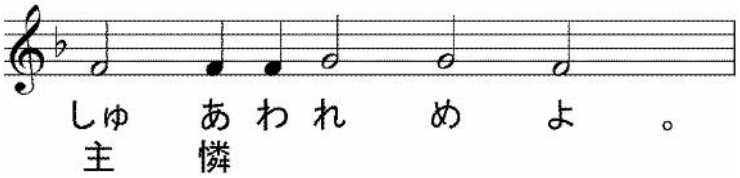
主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

【　小聯禱　】

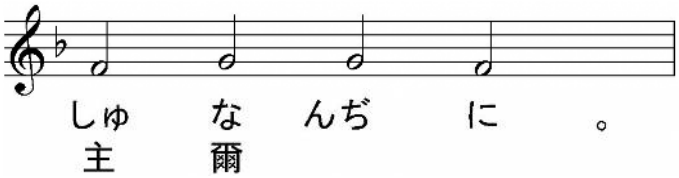
司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



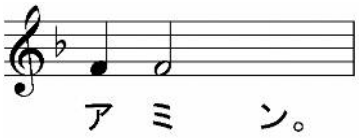
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭）蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【　主日の坐誦讃詞　第８調　】

誦經）萬有の生命よ、爾死より復活せしに、光明なる天使は女達に呼べり、涙を止め、使徒に福音して、歌いて呼べ、神として人類を救わんことを嘉せしハリストス主は復活し給えり。

句）　主我が神よ、起きて爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる毋れ。

爾は録されし如く實に墓より復活して、聖なる女達に爾が興きたるを使徒に傳えんことを命じ給えり。速なるペトルは墓に走り、其中に光を見て驚き、裹布の置かれて、爾の神聖なる體の無きを見て、信じて呼べり、父の光なるハリストス神よ、光榮は爾に歸す、爾は我が救主、万民を救い給えばなり。

【　第３カフィズマ　】

誦經）主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、

光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【　第１７聖詠　伶長に之を歌わしむ。主の僕ダヴィドは、主が彼を其諸敵の手及びサウルの手より救いし時、主に此の歌の詞を述べて云えり。　】

主 我の 力 よ、我 爾 を愛せん。主は我の防固、我の避 所なり、我を 救 う者、我の神、我の磐なり、我 彼を恃む、彼は我の盾、我が 救 の角、我の遁るる 所 なり。我 拜むべき主を籲びて、我が敵より救われん。死を致すの 苦 は我を圍み、不法の 流 は我を嚇せり、地獄の 鎖 は我を環り、死の網は我を纏えり。我 患 難の中に主を籲び、我が神に呼べり。彼 其 聖 殿より我が聲を聽き、我が呼 聲は其 耳に至れり。地は震いて動き、山の 基 は搖いて移れり、神 怒 を發したればなり。其 怒 に因りて 烟 起こり、其 口より嚼む火出で、爇 炭は彼より散りて落ちたり。彼は天を 傾 けて降れり、其 足 下は 闇 冥なり。ヘルヴィムに騎りて飛び、風の 翼 にて翔り、闇 冥を 己 の 覆 となし、水の 闇 冥、天 雲の闇 冥を 己 を繞る影と爲せり。其 前の 輝 に依りて、其 雲と 雹 と紅 炭とは馳たり。主は天に 轟 き、至 上 者は 己 の聲と 雹 と紅 炭を與えたり。 己 の 矢を射て彼等を散らし、衆くの 電 を發して彼等を 潰 せり。主よ 爾 が威嚴の聲に因りて、 爾 が 怒 の氣の吹に因りて、水の 泉 現 れ世界の 基 顯 れたり。彼は 高 より手を伸べ、我を取りて多くの水より出せり。我を我が勁き敵と、我を疾む我より強き者より救えり。彼等は我が患 難の日に、起ちて我を攻めたれども、主は我が依る 所 となれり。彼 我を廣き 處 に引き出して我を救えり、其 我を 悅 ぶに緣る。主は我の義に 循 いて我に報い、我が手の 潔 きに 循 いて我を 賞 せり。 蓋 我 主の道を守り、我が神の前に惡 者たらざりき、蓋 其 誡 は 悉 く我が前にあり、我は其 律 を離れず、我 彼の前に 玷なし。謹 みて罪に 陷 らん事を防げり。故に主は我の義に 循 い、我が手の其 目 前に 潔 きに 循 いて我に報いたり。矜 恤ある者には 爾 矜 恤を以て之に 施 し、正

直の者には爾正直を以て、潔き者には潔きを以て、邪なる者には其邪に循いて之に施す。蓋爾は迫害せられし者を救い、高ぶる目を卑くす。主よ、爾は我が燈を然し、我が神は我の闇冥を照す。我爾と偕に軍を敗り、我が神と偕に城垣に升る。嗚呼神よ、其道は玷なし、主の言は潔し、彼は凡そ彼を恃む者の爲に盾なり。蓋主の外孰か神たる。我が神の外孰か護たる。神は力を以て我に帶し、我が爲に正しき路を備う、我が足を鹿の如くにし、我を高き處に立たしむ、我が手に戰を教え、我が臂に銅の弓を挽かしむ。爾は我に爾が救の盾を賜えり、爾が右の手は我を扶け、爾の憐は我を大なる者となす。爾は我の下に我が歩を寛くし、我が足は弱らず。我我が敵を追いて之に及び、之を滅ぼさざれば返らず。彼等を擊てば、彼等起つ能わず、我が足の下に顛る、蓋爾力を以て我に帶して戰に備え、起ちて我を攻むる者を我が足の下に降せり、爾我が敵の背を我に向けたり、我を疾む者は我之を滅す、彼等は呼べども、救う者なし、主に籲ぶも彼は聽かず、我彼等を散らすこと風前の塵の如く、彼等を踏むこと、途の泥の如し。爾我を民の擾亂より救い、我を立てて異邦の首となせり。我が曾て識らざりし民は我に勤む、彼等一たび我が事を聞けば、我に服す、異邦人は我が前に諂う、異邦人色を變じて、其の固塞の中に戰く。主は生活なり、我を護る者は祝讃せらる。願わくは我が救の神、我が爲に仇を復し、我に諸民を從わしむる神、我を諸敵より救う者は讃頌せられん。爾我を起ちて我を攻むる者の上に擧げ、殘忍の人より我を救えり。主よ、故に我爾を異邦の中に讃め揚げん、大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世世に垂るる者よ、我爾の名に歌わん。

【 光榮讃詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【 第１８聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

諸天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作爲を誥ぐ。日は日に言を宣べ夜は夜に智を施す。其聲の聞えざる言語なく方言なし。其聲は全地に傳わり其の言は地の極に至る。神は其中に日の住所を建てたり。日は出づること、新郎が婚宴の宮を出づるが如く、喜びて途を馳すること勇士の如し、天の涯より出で、行きて天の涯に至る、物として其溫を蒙らざるはなし。主の律法は全備にして靈を固め、主の啓示は正しくして、蒙者を慧からしむ。主の命は義にして、心を樂ませ、主の誡は明にして目を明す。主に於ける畏は淨くして世世に存す。主の諸の定は眞實にして皆義なり、其慕うべきこと金に愈り、多くの純金に愈る、其甘きこと蜜に愈り、房より滴る蜜に愈る、爾の僕は此に藉りて守護せらる、之を守るは大なる賚を得るなり。執か己の過を認めん。我が隱なる咎より我を淨め給え、故犯より爾の僕を止めて、之に我を制せしむる毋れ。然せば我玷なくして、大なる罪より潔くならん。主我が防固、我を救う者よ、願わくは我が口の言と我が心の思とは爾に悅ばれん。

【 第１９聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

願わくは主は憂の日に於て爾に聽き、イァコフの神の名は爾を扞ぎ衞らん。願わくは聖所より助を爾に遣し、シオンより爾を固めん。願わくは爾が悉くの獻物を記憶し、爾の燔祭を肥えたる物とせん。願わくは主は爾の心に循いて爾に與え、爾の謀る所を悉く遂げしめん。我等は爾の救を喜び、我が神の名に依りて旌を揚げん。願わくは主は爾が悉くの願を成就せしめん。今我主が其膏つけられし者を救うを知れり、彼は聖天より其救の右の手の力を以て之に對う。或は車を以て、或は馬を以て誇る者あり、唯我等は主我が神の名を以て誇

る、彼等は動きて顛れ、唯我等は起きて直く立つ。主よ、王を救え、又我等が爾に呼ばん時、我等に聽き給え。

【 第２０聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。 】

主よ、王は爾の力を樂み、爾の救を歡ぶこと極りなし。其心に望む所は、爾之を與え、其口に求むる所は、爾之を辭まざりき。蓋爾は仁慈の祝福を以て彼を迓え、純金の冠を其首に冠らせたり。彼生命を爾に求めしに、爾之に世世の壽を賜えり。彼の榮は爾の救を以て大なり、爾は尊榮と威嚴とを之に被らせたり。爾は祝福を世世に賜い、爾が顏の歡にて彼を樂ませたり。蓋王は主を賴み、至上者の仁慈に因りて動かざらん。爾の手は爾が悉くの敵を尋ね出し、爾の右の手は凡そ爾を憎む者を尋ね出さん。爾怒る時彼等を火爐の如くなさん、主は其怒に於て彼等を滅し、火は彼等を齧まん。爾は彼等の果を地より絶ち、彼等の種を人の子の中より絶たん、蓋彼等は爾に向いて惡事を企て、謀を設けたれども、之を遂ぐること能わざりき。爾彼等を立てて的となし、爾の弓を以て矢を其面に發たん。主よ、爾の力を以て自ら擧れ、我等は爾の權能を歌頌讚榮せん。

【 光榮讚詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【 第２１聖詠　伶長に歌わしむ。曉の時。ダヴィドの詠。 】

我が神よ、我が神よ、我に聽き給え、何ぞ我を遺てたる。我が呼ぶ言は我が救より遠し。我が神よ、我晝に呼べども、爾耳を傾けず、夜に呼べども、我安を得ず。然れども爾聖者は、イズライリの讃頌の中に居るなり。我が列祖は爾を恃みたり、恃みたれば爾彼等を援けたり、彼等は爾に呼びて救われたり、爾を恃みて羞を得ざりき。唯我は蟲にして、人に非ず、人の辱しむる所、民の藐んずる所なり。我を見る者皆我を嘲り、首を搖かして口に云う、彼は主を恃めり、若し主彼を悅ばば、彼を援くべし、救うべし。然れども爾我を腹より出せり、我母の懷に在りしとき、爾我が中に恃を置けり、我胎内より爾に託せられたり、我が母の腹に在りしときより、爾は吾が神なり。我を離るる母れ、蓋憂邇けれども、佑くる者なし。多くの牡牛は我を環り、バサンの肥えたる者は我を圍めり、彼等は口を啓きて我に向う、獲に飢えて吼ゆる獅の如し、我注がれしこと水の如く、我が骨皆散じ、我が心は蠟の如くなりて、我が腹の中に鎔けたり。我が力は枯れしこと瓦の如く、我が舌は齶に貼きたり、爾我を死の塵に降せり。蓋犬の群は我を環り、惡者の黨は我を圍み、我が手我が足を刺し穿けり。我が骨皆數うべし、彼等目を注ぎて我を戯れ視る。共に我が外衣を分ち、我が裏着を鬮す。主よ、我を離るる母れ、我が力よ、速に我を佑けよ、我が靈を劒より援け、我が獨なる者を犬より援け給え、我を獅の口より救い、我に聆きて、我の兕の角より救い給え。我爾の名を我が兄弟に傳え、爾を會中に詠わん。主を畏るる者よ、彼を讃め揚げよ。イァコフの裔よ、咸彼を讃榮せよ。イズライリの裔よ、咸彼の前に敬むべし。蓋彼は苦む者の憂を棄てず、厭わず、其顏を彼に隱さず、則彼が呼ぶ時之を聆けり。大會の中に於て、我が讃歌は爾に歸す、我が誓を主を畏るる者の前に償わん。願わくは貧しき者は食いて飫き、主を尋ぬる者は彼を讃め揚げん、願わくは爾等の心は永く活きん。地の極は皆記憶して主に歸し、異邦の諸族は皆爾の前に伏拜せん、蓋國は主に屬す、彼は萬民の主宰なり。地上の豐なる者は皆食いて伏拜せん、塵に歸する者、己の生命を護る能わざる者は、皆彼の

前に叩拜せん。我が子孫は彼に事えて、永く主の者と稱えられん。彼等來りて主の義、主の行いし事を後生の人に傳えん。

【 第２２聖詠　ダヴィドの詠 】

主は我の牧者なり、我萬事に乏しからざらん。彼は我を茂き草場に休わせ、我を靜なる水に導く。我が靈を固め、己が名の爲に我を義の路に赴かしむ。若し我死の蔭の谷を行くとも、害を懼れざらん、蓋爾は我と偕にす、爾の杖爾の梃は是れ我を安んず。爾は我が敵の目前に於て我が爲に筵を設け、我が首に膏を潤し、我が爵は滿ち溢る。願わくは斯く爾の仁慈と慈憐とは我が生命ある日我に伴わん、然せば我多くの日主の家に居らん。

【 第２３聖詠　ダヴィドの詠（七日の首日） 】

地と之に滿つる者、世界と凡そ之に居る者は、皆主に屬す。蓋彼は之を海に基け、之を河に固めたり。孰か能く主の山に陟る、孰か能く其聖所に立つ。唯罪なき手、潔き心ある者、嘗て己の靈を以て虚しく矢わず、己の隣に僞の誓をなさざりし者なり。彼は主より降福を受け、神其救者より矜恤を受けん。主を尋ぬる族、イァコフの神よ、爾の顔を尋ぬる族は此くの如し。門よ、爾の首を擧げよ、世世の戸よ、擧れ、光榮の王入らんとす。此の光榮の王は誰たる、勇毅能力の主、戰に能力ある主是なり。門よ、爾の首を擧げよ、世世の戸よ、擧がれ、光榮の王入らんとす。此の光榮の王は誰たる、萬軍の主、彼は光榮の王なり。

【 光榮讃詞 】

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

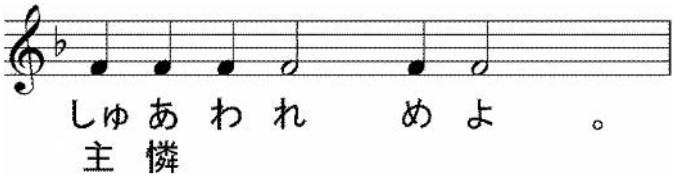
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

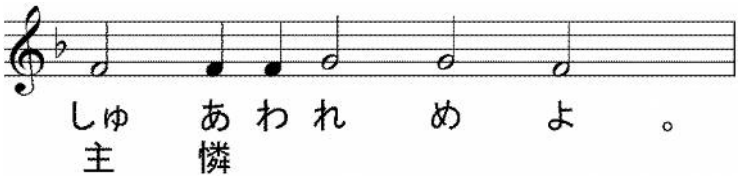
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

【 小聯禱 】

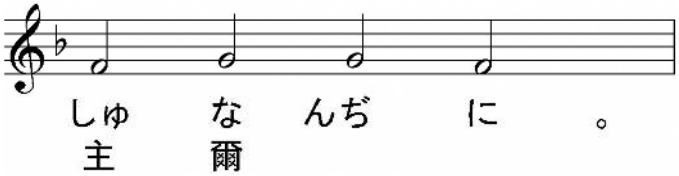
司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、



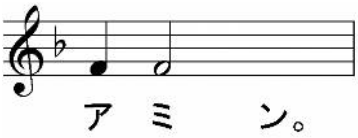
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



【 主日の坐誦讃詞 第８調 】

誦經) 救世主よ、人人が爾の墓を封印せしに、天使は石を其門より移せり。女等は爾が死より興きたるを見て、シオンに於て爾の門徒に爾が、萬有の生命よ、復活し、死の桎梏の解かれたるを福音せり。主よ、光榮は爾に歸す。

句) 主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳えん。

葬の香料を攜えし女等は天使の聲を墓の中より聞けり、涙を止め、哀に代えて喜を受けて、歌いて呼べ、神として人類を救わんことを嘉せしハリストス主は復活し給えり。

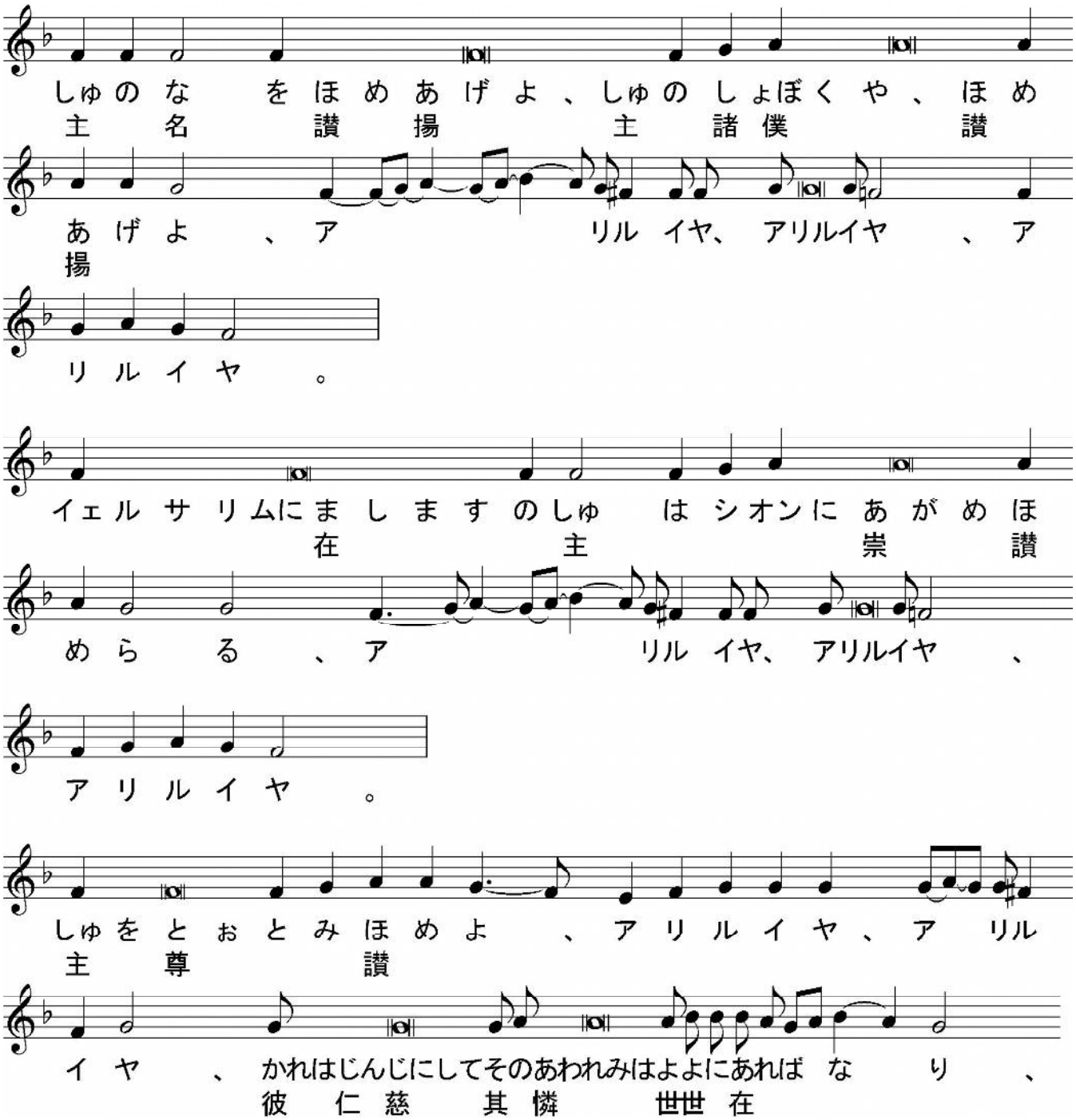
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

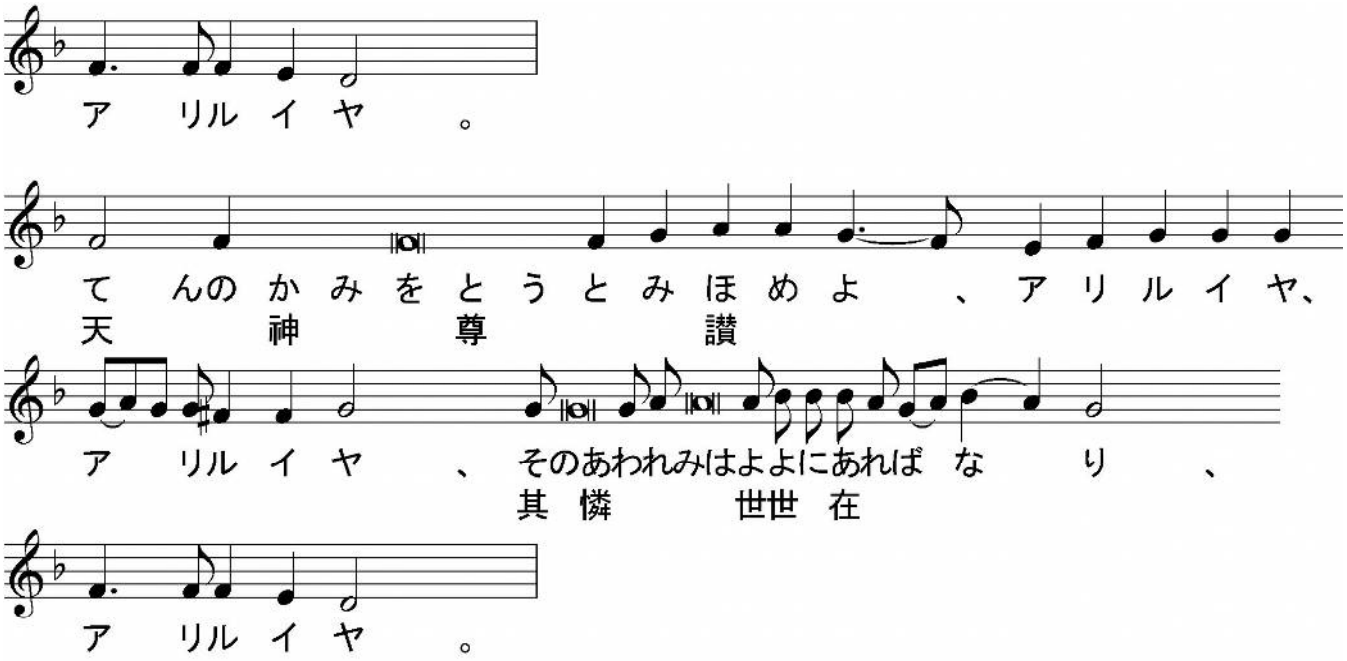
【　生神女讃詞　（坐するにあらずして、立ちて、畏と敬とを以て之を歌う）　】

恩寵を満ち被る者よ、凡の造物、天使の會及び人の族は爾に因りて喜ぶ。

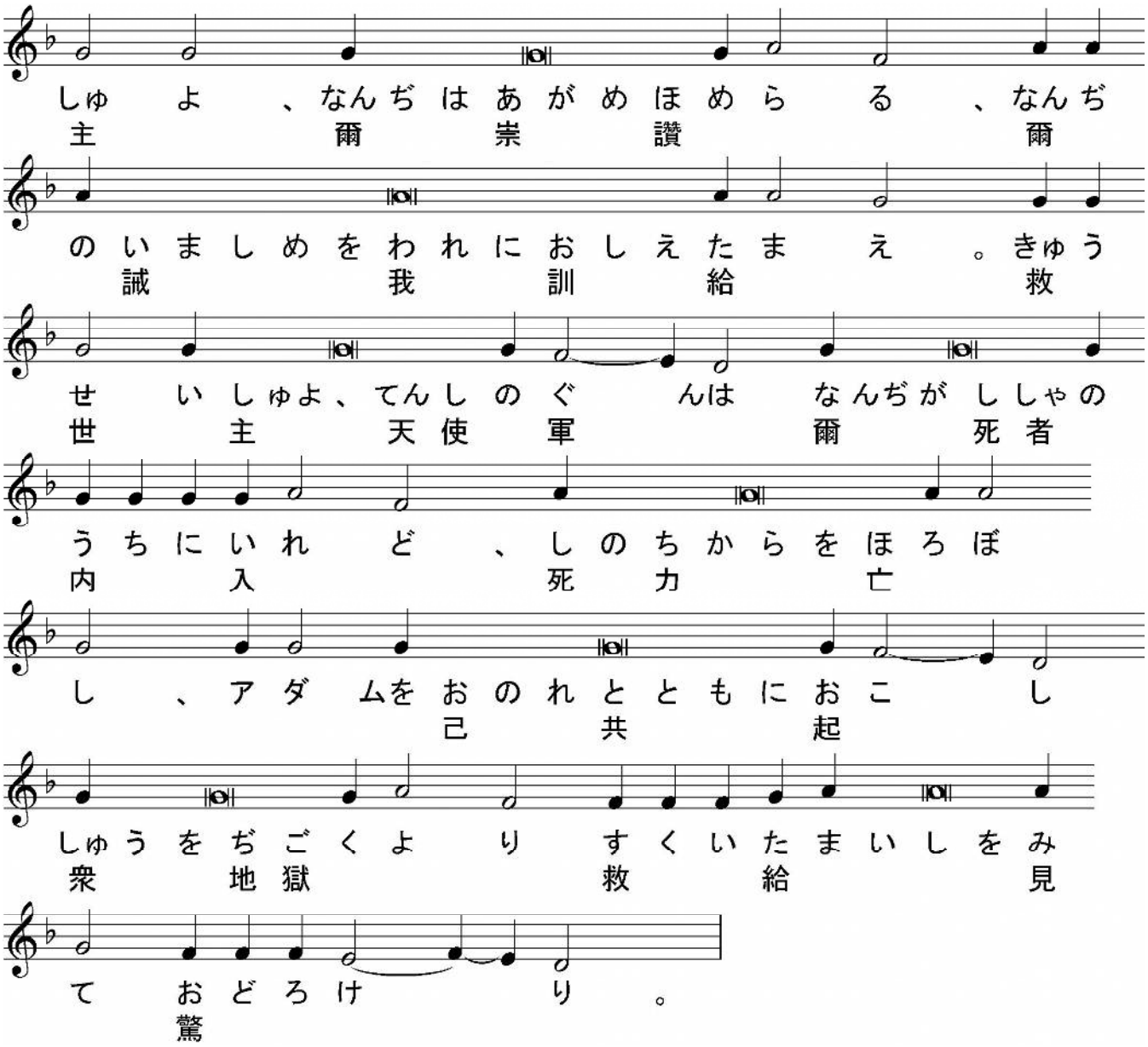
爾は聖にせられし宮、靈智なる樂園、童貞女の譽なり、神は爾より身を取り、世世の先より在す我等の神は嬰児となり給えり、蓋爾の胎を寶座と爲し、爾の腹を天より廣き者と爲せり。恩寵を満ち被る者よ、凡の造物は爾に因りて喜ぶ、光榮は爾に歸す。

【　第１３４及び１３５聖詠（ポリエレイ、主の名を讃め揚げよ）　】





【　復活のエフロジタリア（ネポロチニ、主よ爾は崇め讃めらる）　第５調　】



しゅよ、なんぢはあがめほめらる、なんぢ
主爾崇讃爾

のいましめをわれにおしえたまえ。はか
誡我訓給墓

のうちにひかるてんしはけいこうぢょにい
中光天使攜香女謂

えり、おんなでしよ、なんぞこうりょう
女弟子何香料

をかなしみのなみだにまじうる、はかを
悲涙交墓

みてさとれよ、きゅうせいしゅははかよりふ
見悟救世主墓復

くかつせり。
活

しゅよ、なんぢはあがめほめらる、なんぢ
主爾崇讃爾

のいましめをわれにおしえたまえ。けい
誡我訓給攜

こうぢょはあさはやくなきてなんぢのはかに
香女朝早泣爾墓

ゆきしに、てんしそのまえにたちていえ
往天使其前立云

り、なくときはすぎたり、なみだを
泣時過涙

とどめて、しとにふくかつをつぐべ
止　使徒　復活　告
し。

しゅよ、なんぢはあがめほめらる、なんぢ
主　爾　崇　讃　爾
のいましめをわれにおしえたまえ。きゅう
誡　我　訓　給　救
せいしゅよ、けいこうぢょはこうりょうをたづ
世　主　攜　香　女　香　料　攜
さえ、なんぢのはかにきたりてなきし
爾　墓　來　泣
に、てんしこれにいえり、なんぞいけるも
天使之　謂　何　生　者
のをししゃのうちにありとおもう、か
死者　中　思　彼
れはかみとしてはかよりふくかつせ
神　墓　復活
り。

こうえいはちちとことせいしんにきす。ち
光榮　父　子　聖　神　歸　父
ちとそのことせいしん、いったいのせいさんしゃ
其　子　聖　神　一體　聖　三　者

をおがみて、セラフィムとともによばん。
拝　　偕　　呼

せいせいせいなるかなしゅや。
聖　聖　聖　哉　主

いまもいつもよよに、アミン。どうてい
今　何時　世世　　童　貞

ぢょよ、なんぢはいのちをたもうしゅをうみ
女　爾　生　命　賜　主　生

て、アダムをつみよりすくい、エヴァにか
罪　救　悲

なしみにかえてよろこびをたまえり、
易　喜　賜

なんぢよりみをとりしかみびとはいのち
爾　身　取　神　人　生　命

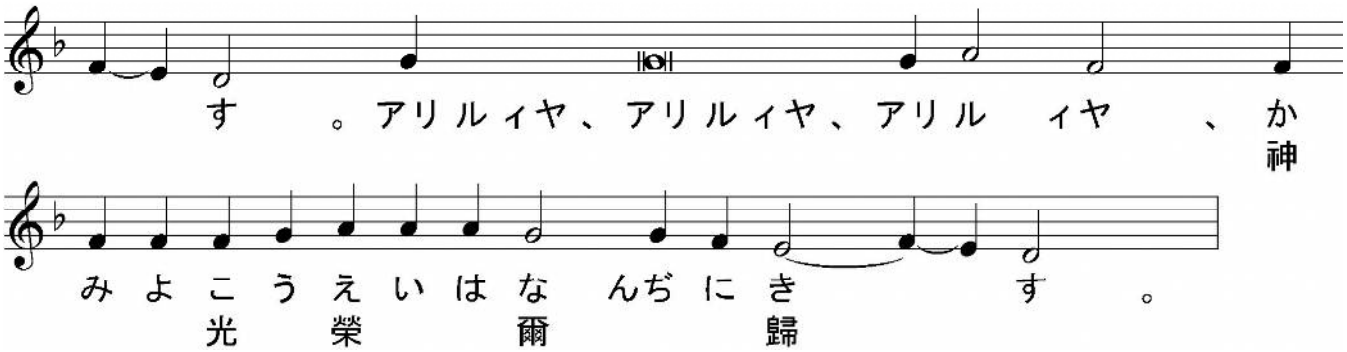
をおとせしものをひきいて、またいのち
落　者　率　復　生　命

にむかわせたり。
向

アリルィヤ、アリルィヤ、アリルィヤ、かみよこうえ
神　光　榮

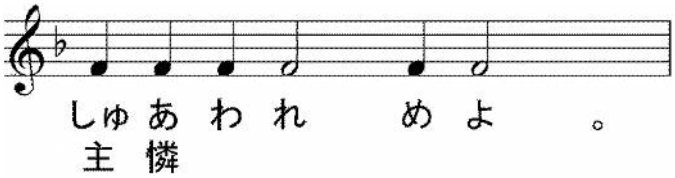
いはなんぢにきす。アリルィヤ、アリルィヤ
爾　歸

アリルィヤ、かみよこうえいはなんぢにき
神　光　榮　爾　歸

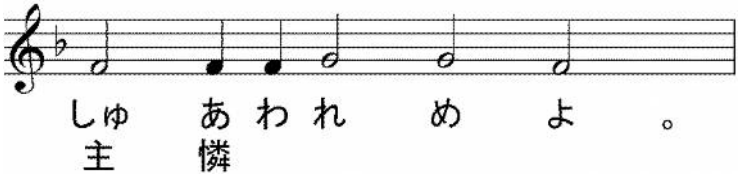


【 小聯禱 】

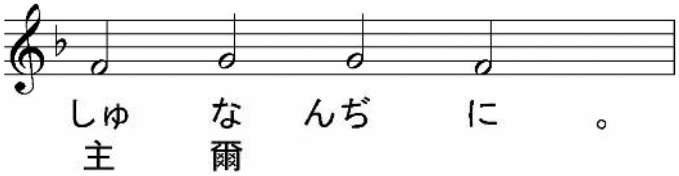
司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、



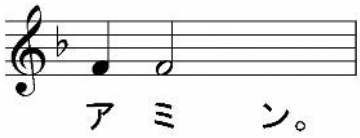
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) 蓋爾父と子と聖神の名は讃揚せられ、爾の國は讃榮せらる、今も何時も世世に、



【 應答歌(イパコイ) 第８調 】

誦經) 攜香女は生命を賜う主の墓の前に立ちて、不死なる主宰を死者の中に尋ねしに、天使より福音の喜を受けて、使徒等に傳えて云えり、ハリストス神は復活して、世界に大なる憐を賜えり。

【 品第詞（ステペンナ） 第8調 第一倡和詞（アンティフォン） 】

我が幼き時より敵は我を誘い、逸樂にて我を焦がす、主よ、我唯爾を賴みて之に勝つ。

我が幼き時より敵は我を誘い、逸樂にて我を焦がす、主よ、我唯爾を賴みて之に勝つ。

シオンを惡む者は抜かるる前の草の如し、蓋ハリストスは苦しき切斷を以て彼等の首を斬らん。

シオンを惡む者は抜かるる前の草の如し、蓋ハリストスは苦しき切斷を以て彼等の首を斬らん。

光榮は父と子と聖神に歸す。聖神に藉りて萬有は生く、彼は光よりの光にして、大なる神なり。我等彼を父及び言と偕に崇め歌う。

今も何時も世世に、アミン。聖神に藉りて萬有は生く、彼は光よりの光にして、大なる神なり。我等彼を父及び言と偕に崇め歌う。

【 第二倡和詞（アンティフォン） 】

至りて慈憐なる主よ、願わくは我が心は謙りて、爾を畏るる畏に覆われん、高ぶりて爾より離れ落ちざらん爲なり。

至りて慈憐なる主よ、願わくは我が心は謙りて、爾を畏るる畏に覆われん、高ぶりて爾より離れ落ちざらん爲なり。

主に恃を負わせたる者は、主が火と苦とを以て衆を審判せん時に懼れざらん。

主に恃を負わせたる者は、主が火と苦とを以て衆を審判せん時に懼れざらん。

光榮は父と子と聖神に歸す。聖神に藉りて凡の聖者は見、預言し、奇妙に高尚なる事を行いて、三位に惟一の神を歌う、蓋神性は三光なれども獨一なり。

今も何時も世世に、アミン。聖神に藉りて凡の聖者は見、預言し、奇妙に高尚なる事を行いて、三位に惟一の神を歌う、蓋神性は三光なれども獨一なり。

【　第三倡和詞（アンティフォン）　】

主よ、我爾に籲べり、聞き納れて、呼ぶ者に爾の耳を傾け、我を此より取らざる先に潔め給え。

主よ、我爾に籲べり、聞き納れて、呼ぶ者に爾の耳を傾け、我を此より取らざる先に潔め給え。

己の母たる地に歸る衆人は復出でん、在世の時に行いし事に適いて苦痛或は尊榮を受けん爲なり。

己の母たる地に歸る衆人は復出でん、在世の時に行いし事に適いて苦痛或は尊榮を受けん爲なり。

光榮は父と子と聖神に歸す。聖神に藉りて聖三の惟一者は傳えらる、蓋父は無原なり、子は時なき先に彼より生れ、同一座同一性の神は共に父より輝けり。

今も何時も世世に、アミン。聖神に藉りて聖三の惟一者は傳えらる、蓋父は無原なり、子は時なき先に彼より生れ、同一座同一性の神は共に父より輝けり。

【　第四倡和詞（アンティフォン）　】

兄弟睦しく居るは善なる哉、美なる哉、蓋主は此が爲に永遠の生命を約せり。

兄弟睦しく居るは善なる哉、美なる哉、蓋主は此が爲に永遠の生命を約せり。

野の百合花を妝う主は己の衣の爲に慮るを要せずと命じ給う。

野の百合花を妝う主は己の衣の爲に慮るを要せずと命じ給う。

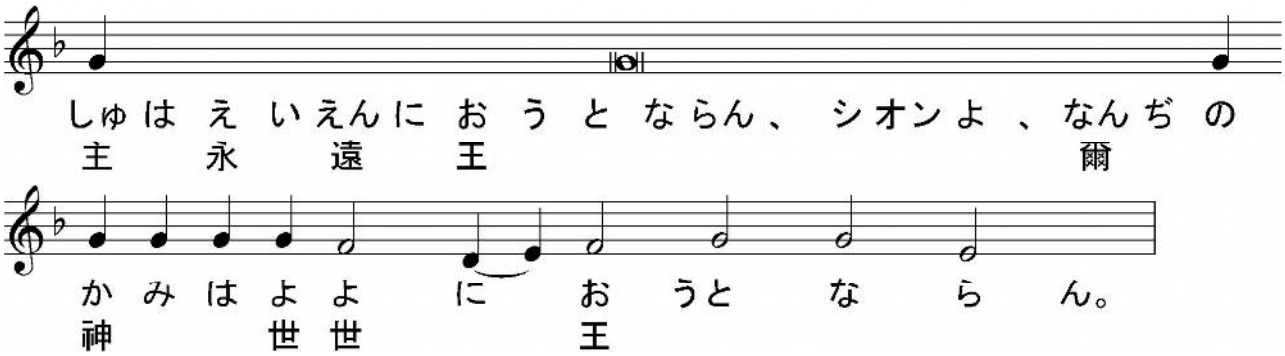
光榮は父と子と聖神に歸す。聖神は萬物の平安に保たるる惟一の原因なり、蓋彼は神なり、父及び子と一體にして、同宰制の主なり。

今も何時も世世に、アミン。聖神は萬物の平安に保たるる惟一の原因なり、蓋彼は神なり、父及び子と一體にして、同宰制の主なり。

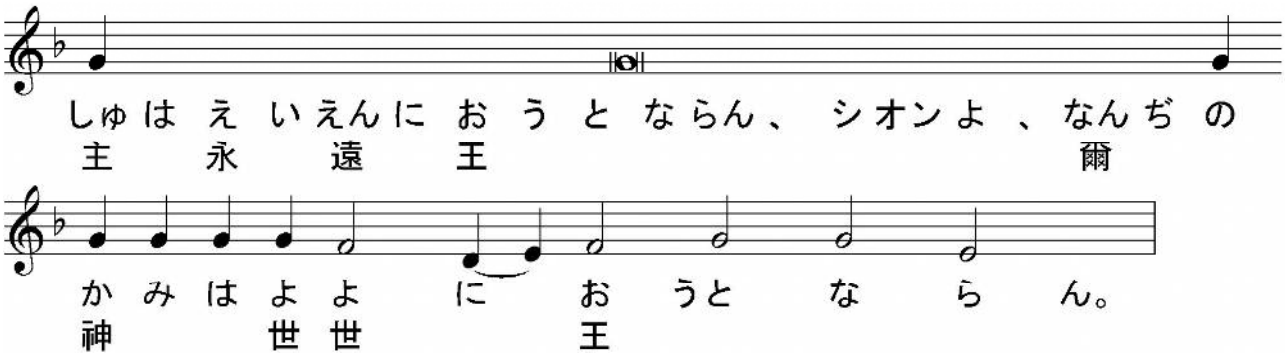
【　提綱（プロキメン）　第８調　】

司祭）　謹（つつし）みて聽（き）くべし

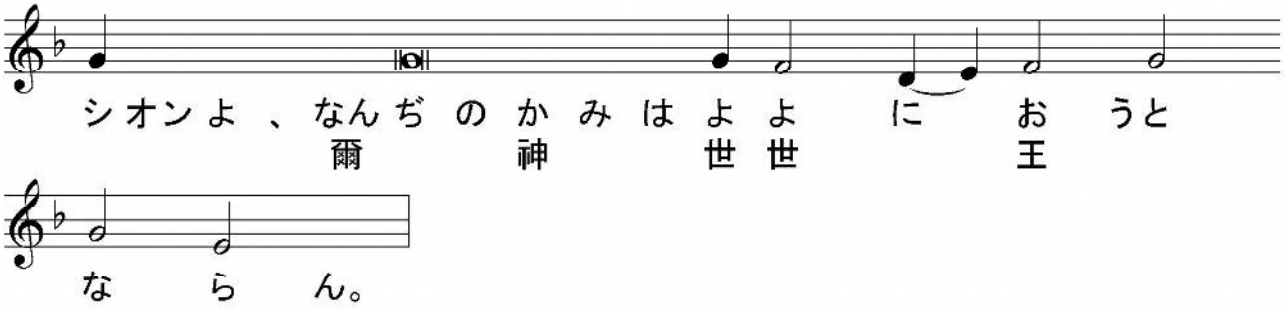
誦經）プロキメン、主(しゅ)は永遠(えいえん)に王(おう)とならん、シオンよ、爾(なんぢ)の神(かみ)は世世(よよ)に王(おう)とならん。



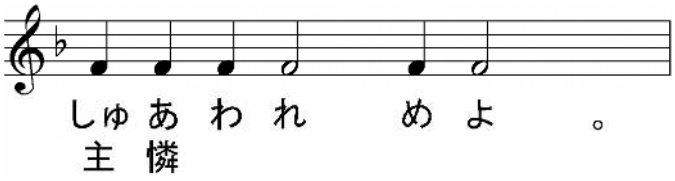
誦經）我(わ)が靈(たましい)よ、主(しゅ)を讃(ほ)め揚(あ)げよ。我(われ)生(い)ける中(うちしゅ)主(しゅ)を讃(ほ)め揚(あ)げん。



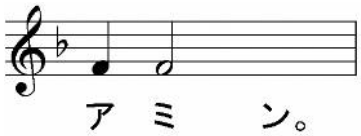
誦經）主(しゅ)は永遠(えいえん)に王(おう)とならん、



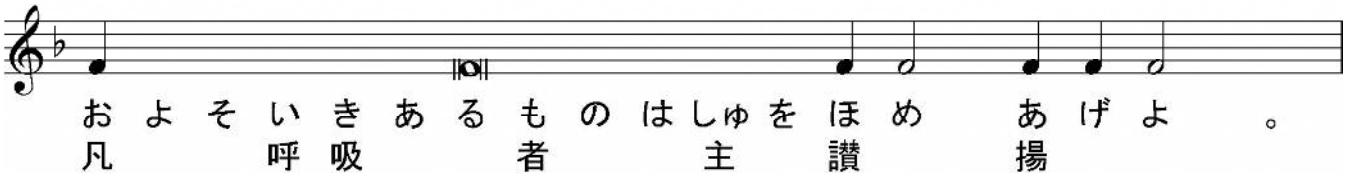
司祭）主(しゅ)に禱(いの)らん、



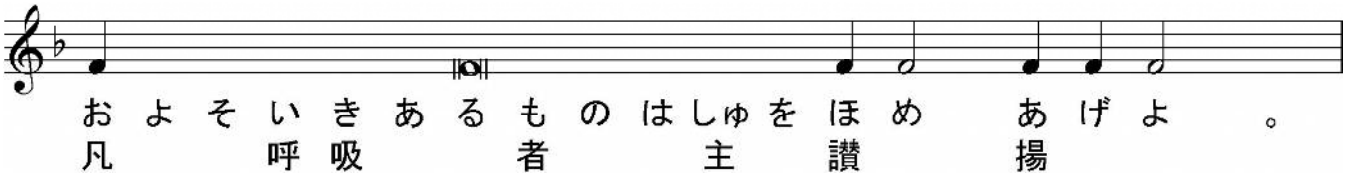
司祭）蓋(けだし)我(わ)が神(かみ)よ、爾(なんぢ)は聖(せい)にして聖(せい)なる者(もの)の中(うち)に居(お)る、我等(われら)光榮(こうえい)を爾(なんぢ)父(ちち)と子(こ)と聖神(せいしん)に獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、



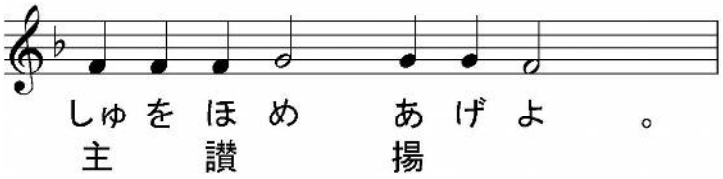
司祭）凡(およ)そ呼吸(いき)ある者(もの)は主(しゅ)を讃(ほ)め揚(あ)げよ、



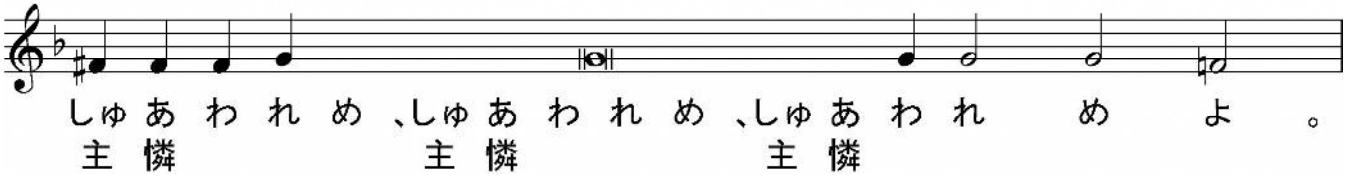
司祭）神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、



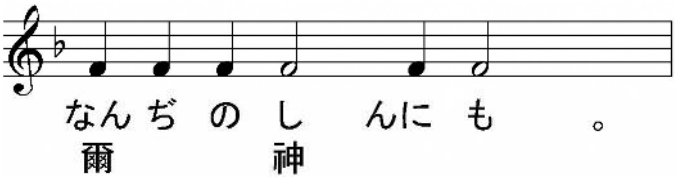
司祭）凡そ呼吸ある者は、



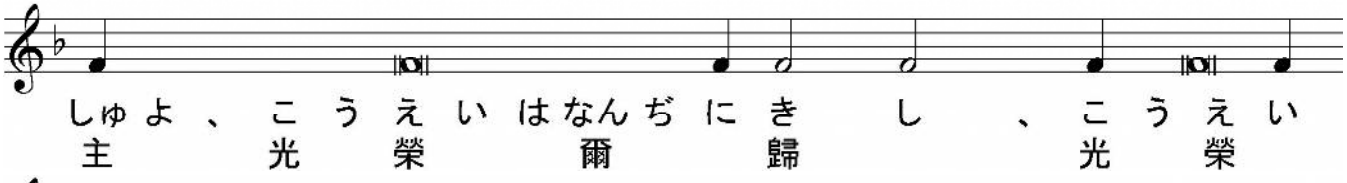
司祭）我等に聖福音經を聽くを賜うを主・神に禱らん、

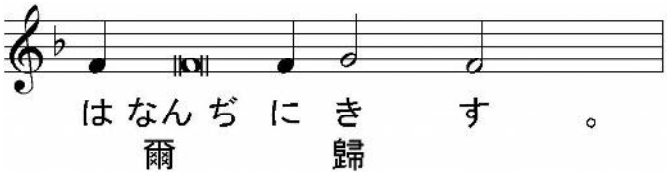


司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、

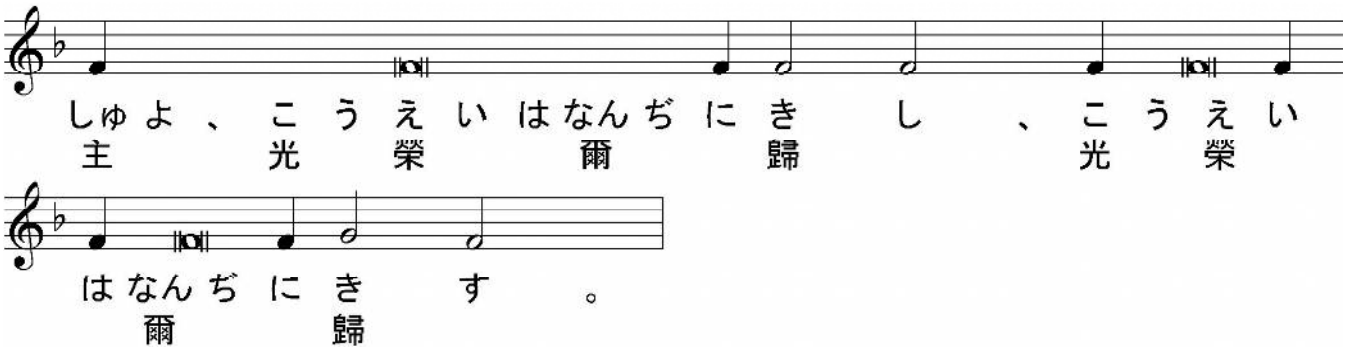




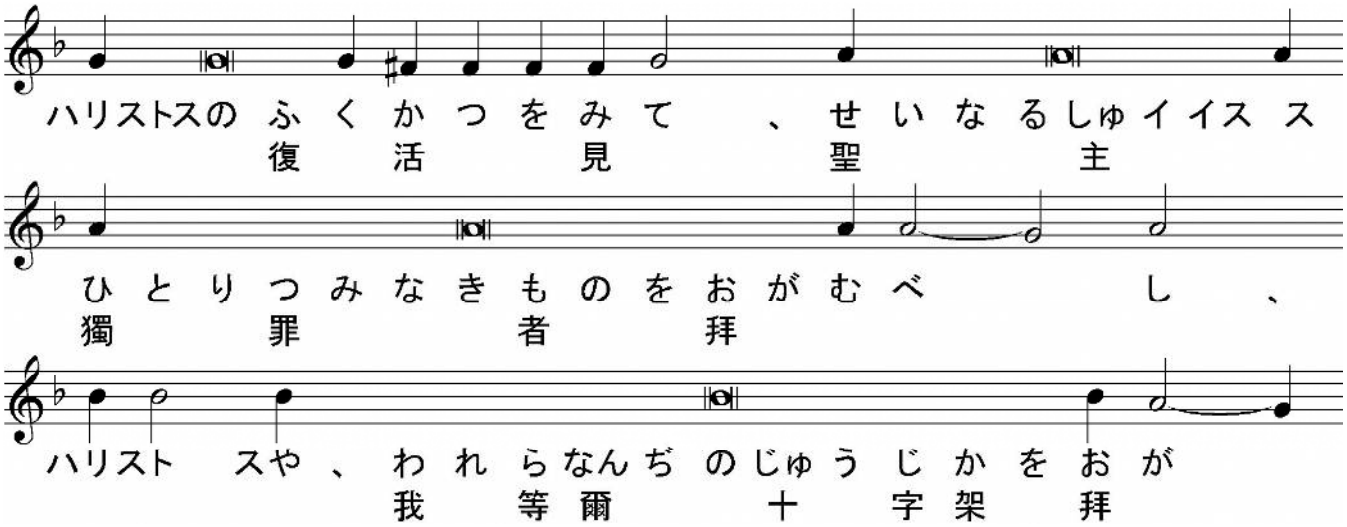
【　主日早課第六福音　ルカ福音書 114 端（24 章 36-53 節）　】

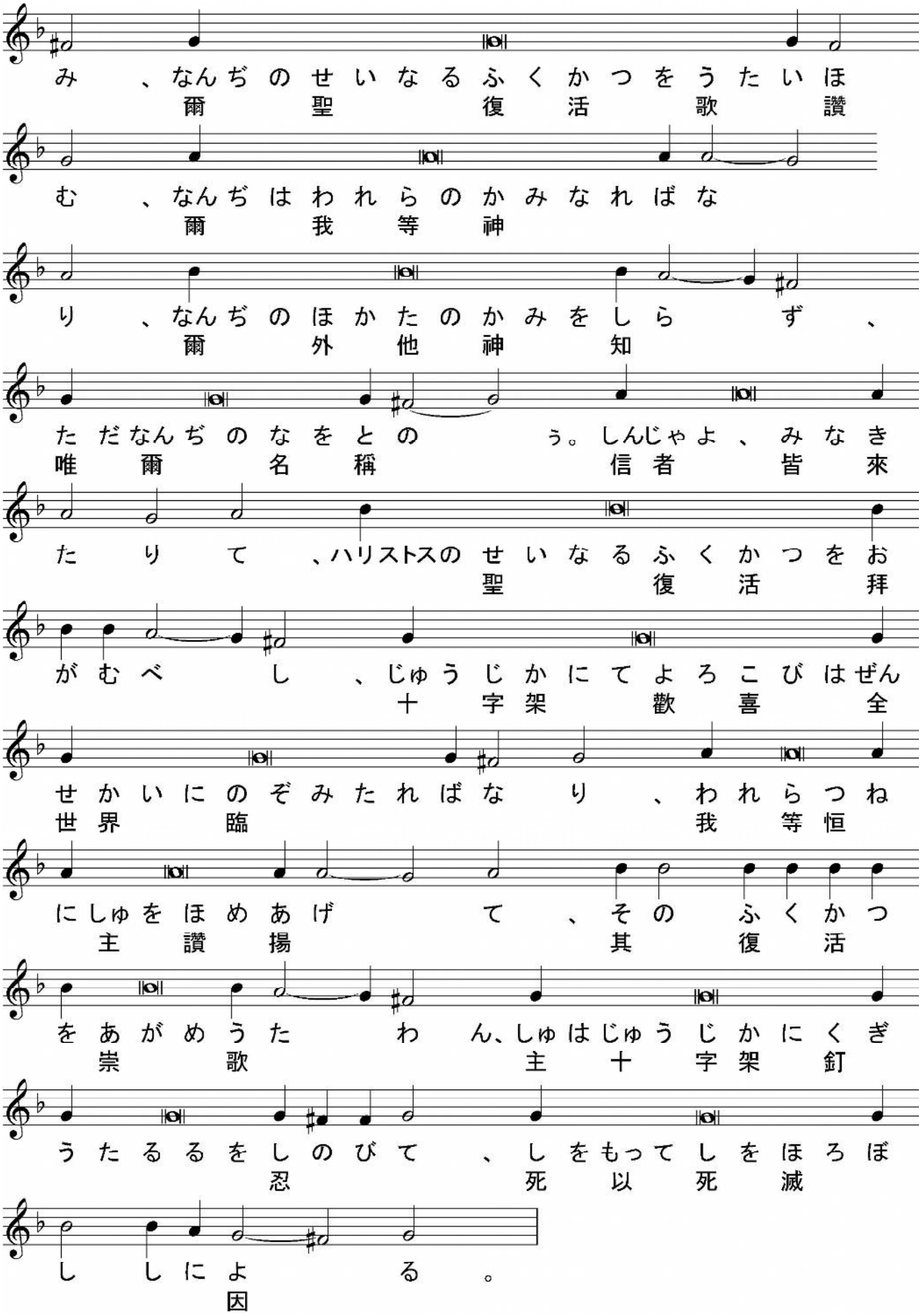
司祭）謹みて聽くべし、彼の時、イイスス死より復活し、其門徒の中に立ちて曰えり、爾等に平安。彼等驚き且懼れて、見る所は神なりと意えり。イイスス彼等に謂えり、何ぞ懼れ惑う、胡爲れぞ此の意は爾等の心に起れる。我が手我が足を視よ、是我自なり、我に捫りて視よ、蓋神には骨肉なし、其我に有るを見るが如し。此を言いて、手足

を彼等に示せり。彼等喜に因りて、猶未だ信ぜず、且異める時、彼曰えり、此に食ふべき物あるか。彼等は炙りたる魚一片と蜜房とを彼に與えたれば、取りて、彼等の前に食えり。又彼等に謂えり、我猶爾等と偕に在りし時、爾等に語りて、モイセイの律法、諸預言者、及び聖詠に、我を指して錄されし事、皆應うべしと云いしは、乃是なり。其時彼等の智識を啓きて、聖書を悟らしめたり。又彼等に謂えり、斯く錄されたり、而して斯くハリストスは苦を受け、第三日に死より復活すべかりき。且其名に因りて、悔改と諸罪の赦とは、イェルサリムより始めて、萬民に傳えらるべきなり。爾等は此等の事の證者なり。視よ、我は我が父の許約せし者を爾等に遣さん、爾等イェルサリムの城に居りて、上より能力を衣するに迄れ。イイスス彼等を外に率いて、ヴィファニヤに至り、手を擧げて彼等に祝福せり。祝福する時、彼等を離れ、擧げられて、天に升れり。彼等之を拜し、大に喜びて、イェルサリムに歸り、恒に殿に在りて、神を頌美祝讃せり、アミン。



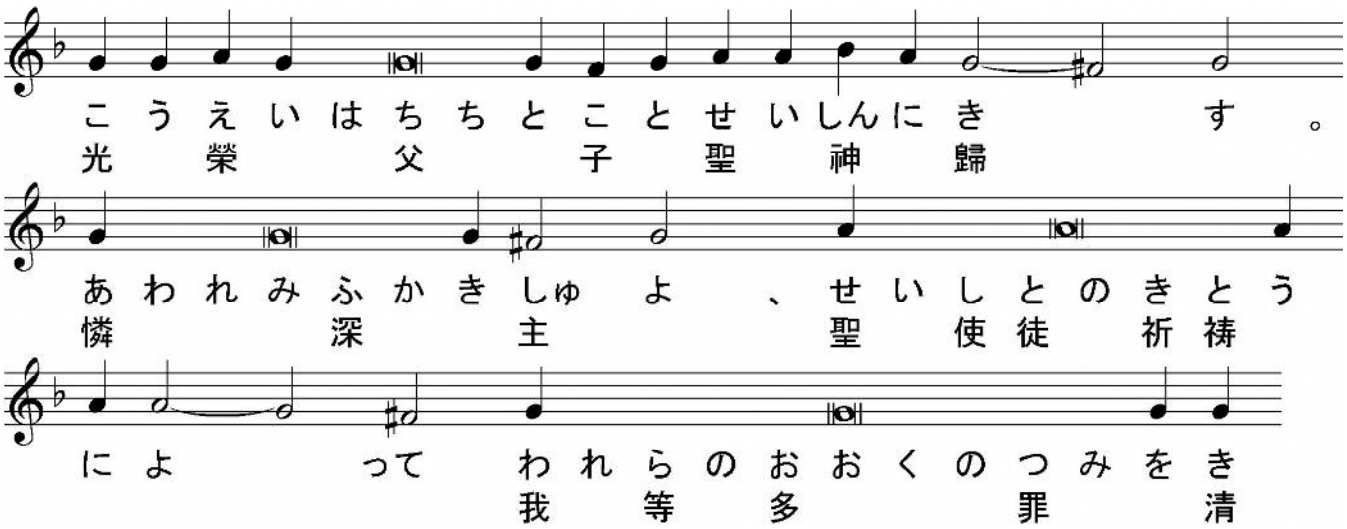
【 ハリストスの復活を見て 】





【　第５０聖詠　伶長に歌わしむ。ダヴィドの詠。ダヴィド ヴィルサヴィヤに入りて後、預言者ナタンの彼に來りし時に此を作れり。　】

誦經）神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が惠の多きに因りて我の不法を抹し給え。屡我を我が不法より洗い、我を我が罪より清め給え、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、惡を爾の目の前に行えり、爾は爾の審斷に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。イッソプを以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌え、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給え、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顏を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給え。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給え。我を爾の顏より逐うこと毋れ、爾の聖神を我より取り上ぐること毋れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給え。我不法の者に爾の道を教えん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救い給え、然せば我が舌は爾の義を讃め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讃美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲せば我此を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給わず。主よ、爾の惠に因りて恩をシオンに垂れ、イェルサリムの城垣を建て給え。其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠えんとす。



よめたまえ。いまもいつもよ
給 今 何時 世

よにアミン。あわれみふかきしゅ
世 憐 深 主

よ、しせいなるしょうしんぢょのきとうによ
至聖 生 神女 祈祷

ってわれらのおおくのつみをきよめた
我等 多 罪 清 給

まえ。かみよなんぢのおおいなるあわ
神 爾 大 憐

れみによってわれをあわれみなんぢ
因 我 憐 爾

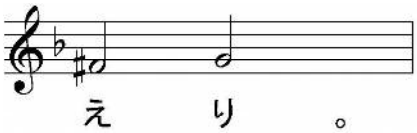
がめぐみのおおきによってわれのふほ
惠 多 因 我 不法

うをけしたまえ。
抹 給

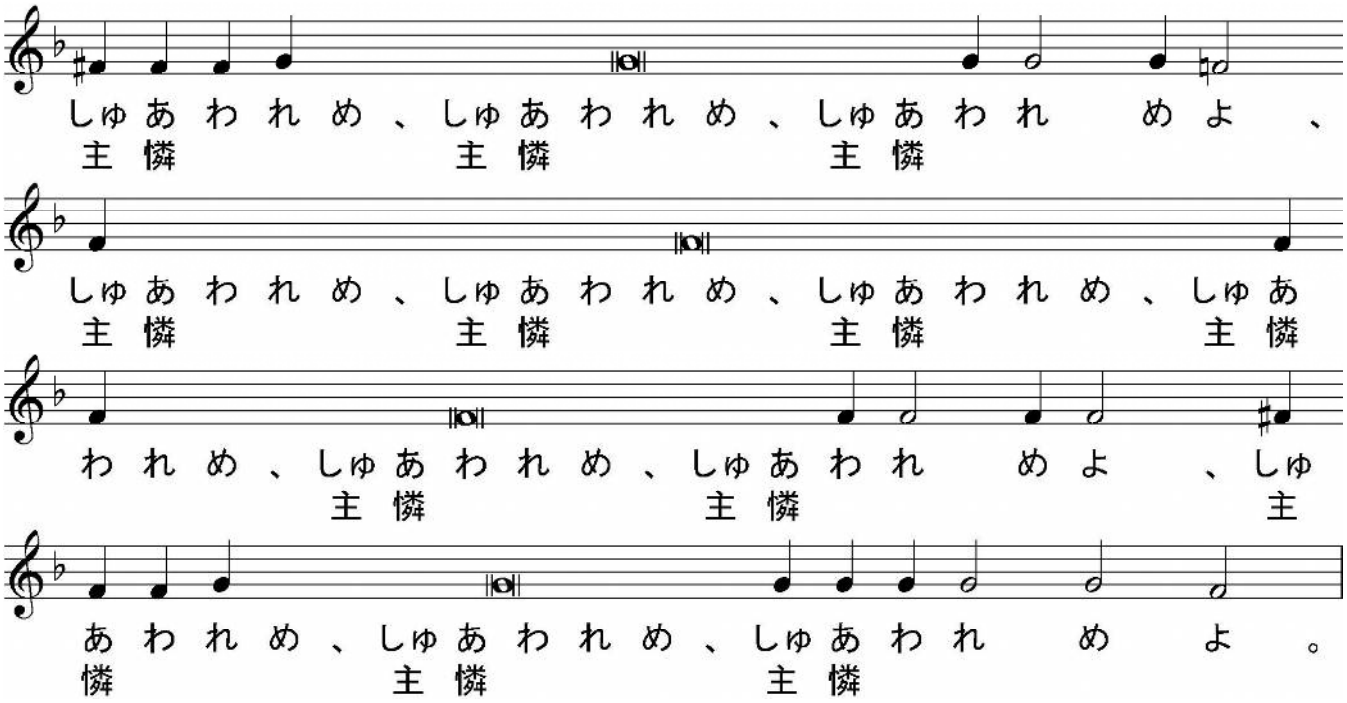
あらかじめいいしごとく、イイススはか
預 言 如 墓

よりふくかつして、われらにえいえんのい
復 活 我等 永遠 生

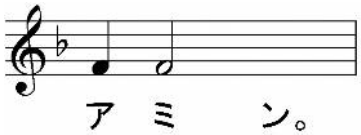
のちとおおいなるあわれみとをたま
命 大 憐 賜



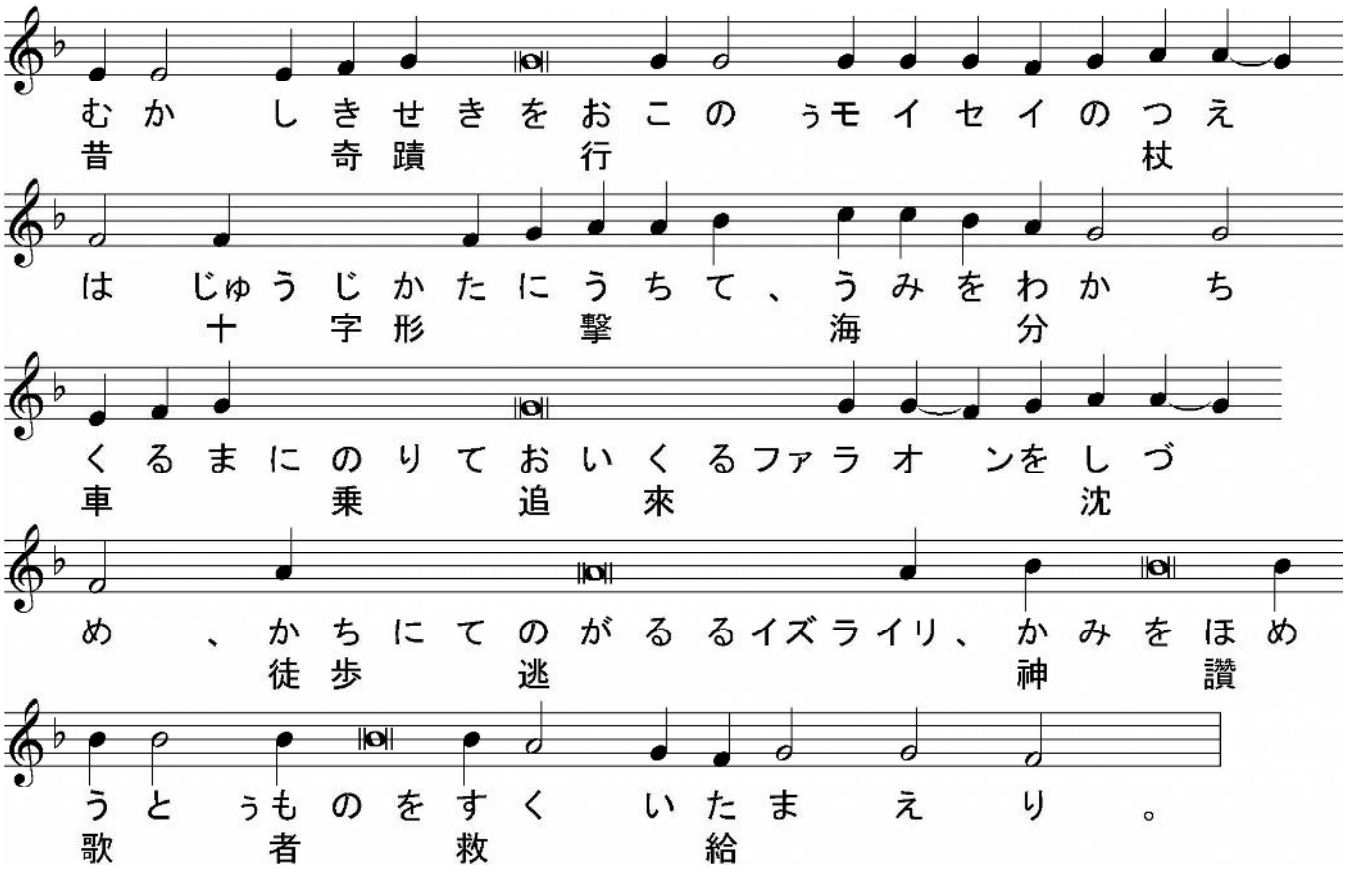
司祭）神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し給え、慈憐と洪恩とを以て爾の世界に臨み、正教のハリスティアニン等の角を高うし、我等に爾の豊なる憐を垂れ給え、至淨なる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤの禱と、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イォアン、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・大ヴァシリィ、神學者グリゴリイ、金口イォアン、我等の聖神父・ミラリキヤの大主教・奇蹟者ニコライ、我等の聖神父・日本の亜使徒・大主教ニコライ、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる我が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イォアキム及びアンナ、及び諸聖人の轉達に因りて、大仁慈の主よ、爾に求む、我等罪人爾に禱る者に聆き納れて、我等を憐めよ、



司祭）爾が獨生子の仁慈と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に、



【 規程(カノン) 第１歌頌 主日の規程(カノン) 第８調 】



誦經) 主(しゅ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)の聖(せい)なる復活(ふくかつ)に歸(き)す。

我等如何(われらいかん)ぞハリストスの全能(ぜんのう)の神性(しんせい)を奇(き)とせざらん、彼(かれ)は苦(くるしみ)より衆信者(しゅうしんじゃ)に苦(くるしみ)なきと朽(く)ちざるとを流(なが)し、聖(せい)なる脇(わき)より不死(ふし)の泉(いづみ)を滴(したた)らせ、墓(はか)より永遠(えいえん)の生命(いのち)を施(ほどこ)し給(たま)う。

主(しゅ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)の聖(せい)なる復活(ふくかつ)に歸(き)す。

天使(てんし)は今女等(いまおんなたち)に如何(いか)にか美(うるわ)しき者(もの)と現(あらわ)れたる、彼(かれ)は本性(ほんせい)の無形(むけい)の潔淨(けつじょう)の光(こう)明(めい)なる形(かたち)を具(そな)え、其姿(そのすがた)を以(もつ)て復活(ふくかつ)の光(ひかり)を示(しめ)して呼(よ)べり、主(しゅ)は復活(ふくかつ)し給(たま)えり。

至聖(しせい)なる生神女(しょうしんぢょ)よ、我等(われら)を救(すく)い給(たま)え。

神言(かみことば)を腹(はら)に容(い)れて貞潔(みさお)を守(まも)りし生神女(しょうしんぢょ)マリヤよ、爾(なんぢ)に於(おい)て至榮(しえい)なる事(こと)は世世(よよ)の中(うち)に唱(となな)えられたり。故(ゆえ)に我等皆爾(われらみななんぢ)神(かみ)の亞(つぎ)に我(わ)が保護者(ほごしゃ)たる者(もの)を尊(とうと)む。

【 十字架復活の規程(カノン) 】

イルモス イズライリは乾(かわ)ける地(ち)の如(ごと)く水(みづ)を過(とお)り、エギペトの禍(わざわい)を免(まぬが)れて籲(よ)べり、我(わ)が救主(きゅうしゅ)及(およ)び神(かみ)に歌(うた)わん。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

萬有の性に超ゆる高き者が最下なる處に降りしを見て、苦痛の門は擧げられ、地獄の門衛は懼れたり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

天使の品位は墜ちたる人の性、地の最下なる處に閉されし者が父の寶座に坐せしめられたるを見て驚きたり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

聘女ならぬ母よ、天使の品位及び人人の會は絶えず爾を崇め讃む、爾は彼等の造成主を赤子として爾の手に抱きたればなり。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　我等其民をして紅の海を過らせし主に歌わん、彼獨嚴に光榮を顯したればなり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

身を取りし永在なる神の言を性に超えて生みたる至淨なる生神女よ、我等爾を歌う。

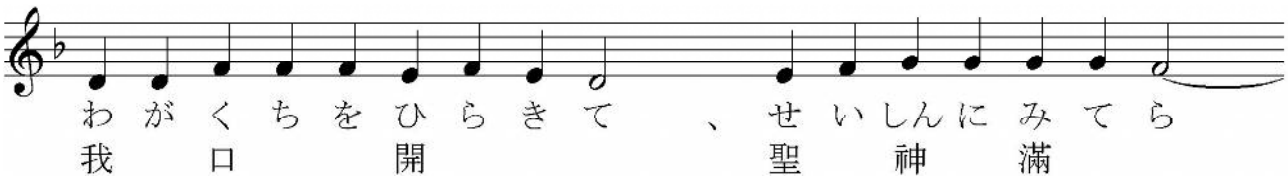
光榮は父と子と聖神に歸す。

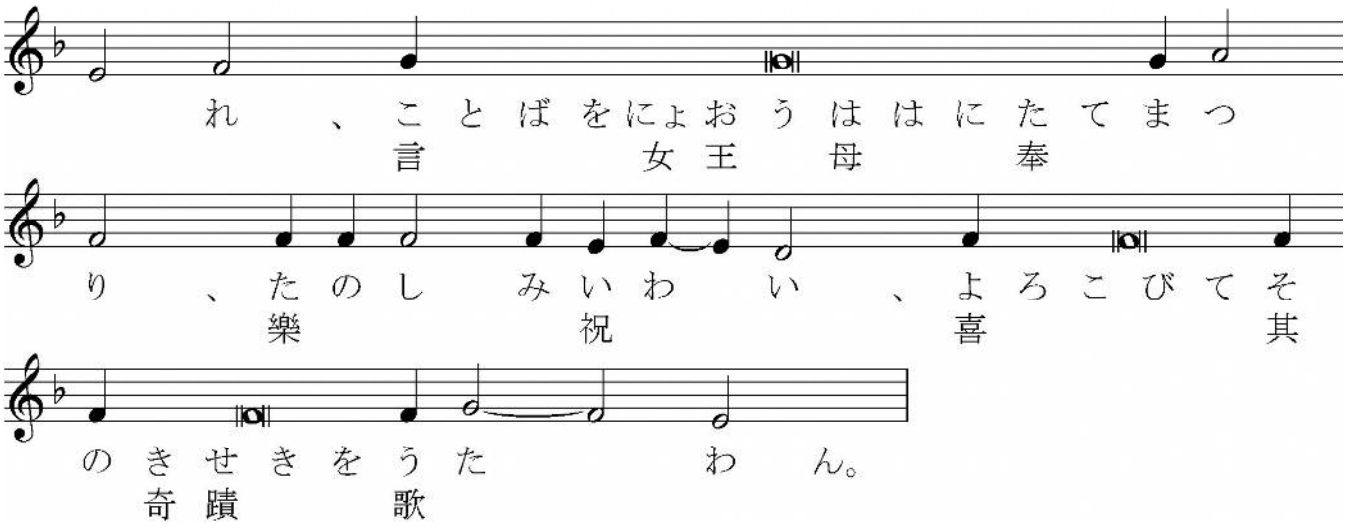
ハリストスよ、童貞女は爾生を施す葡萄の房、全世界の救の甘味を滴らす者を生み給えり。

今も何時も世世に、アミン。

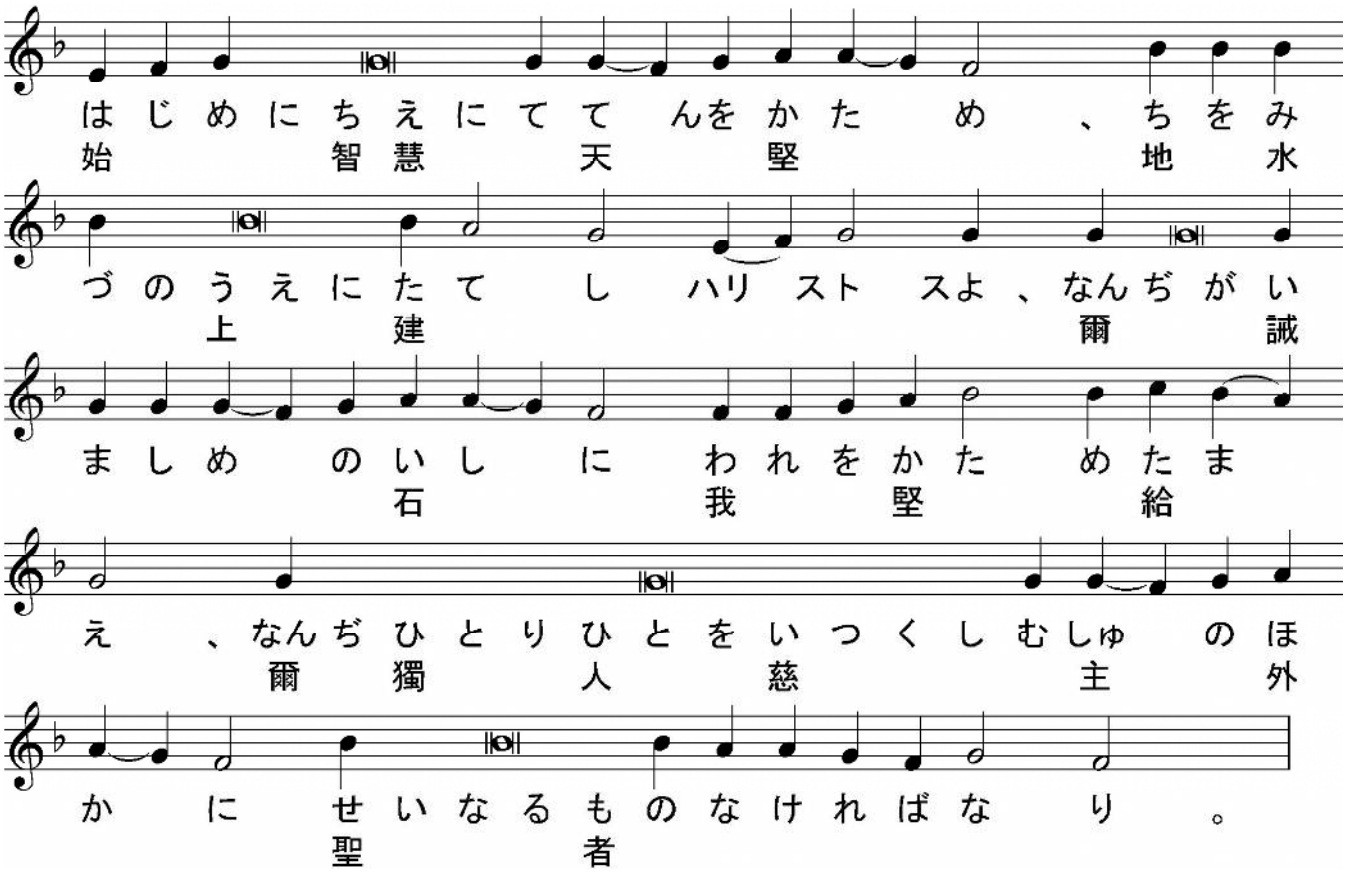
生神女よ、アダムの族、爾に因りて智慧に超ゆる福樂に上せられたる者は、宜しきに合いて爾を讃榮す。

【 共頌 】





【 第３歌頌 主日の規程（カノン） 】



誦經）主（しゅ）よ、光榮（こうえい）は爾（なんぢ）の聖（せい）なる復活（ふくかつ）に歸（き）す。

ハリストスよ、食（くら）う罪（つみ）に因（よ）りて定罪（ていざい）せられしアダムを、爾（なんぢ）は己（おのれ）の身（み）の救（すくい）を施（ほどこ）す苦（くるしみ）を以（もつ）て義（ぎ）と爲（な）し給（たま）えり、蓋（けだし）罪（つみ）なき主（しゅ）よ、爾（なんぢ）親（みづか）ら死（し）の試（こころみ）に屬（ぞく）せざりき。

主（しゅ）よ、光榮（こうえい）は爾（なんぢ）の聖（せい）なる復活（ふくかつ）に歸（き）す。

吾（わ）が神（かみ）イイススは幽暗（くらやみ）に居（お）り死（し）の蔭（かげ）に坐（ざ）する者（もの）に復活（ふくかつ）の光（ひかり）を輝（かがや）かし、己（おのれ）の神性（しんせい）を以（もつ）て強（つよ）き者（もの）を縛（しば）りて、其器（そのうつわもの）を劫（おびやか）し給（たま）えり。

至聖（しせい）なる生神女（しょうしんぢょ）よ、我等（われら）を救（すく）い給（たま）え。

無玷なる生神女よ、爾はヘルヴィム及びセラフィムより上なる者と顯れたり、蓋爾は獨容れ難き神を己の腹に受け給えり。故に我等衆信者は歌を以て爾潔き者を讃揚す。

【 十字架復活の規程 】

イルモス　主、天の穹蒼の至上なる造成者、教會の建立者、冀望の極、信者の固、獨人を愛する者よ、我を爾の愛に堅め給え。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

主よ、爾は先に我誡に背きし者を逐いて、爾より退けたり、今我が形を受けて、我に順從を教えて、十字架に釘せらるるを以て復我を己に就かしめ給えり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

睿智を以て一切を預知し、智慧を以て地獄を設けし主神の言よ、爾は己の像に循いて造りし者に爾の寛容に因りて復活するを獲しめ給えり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

獨人を愛する主よ、爾は童貞女に入りて、肉體を以て見るに宜しきが如く己を人人に現し、且彼を眞の生神女及び信者の扶助者と爲し給えり。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　主よ、爾は爾に趨り附く者の固、爾は昧まされし者の光なり、我が神は爾を歌う。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

純潔なる者よ、爾の祈禱を以て我等に援助を與えて、我等を圍む諸敵の攻擊を防ぎ給えり。

光榮は父と子と聖神に歸す。

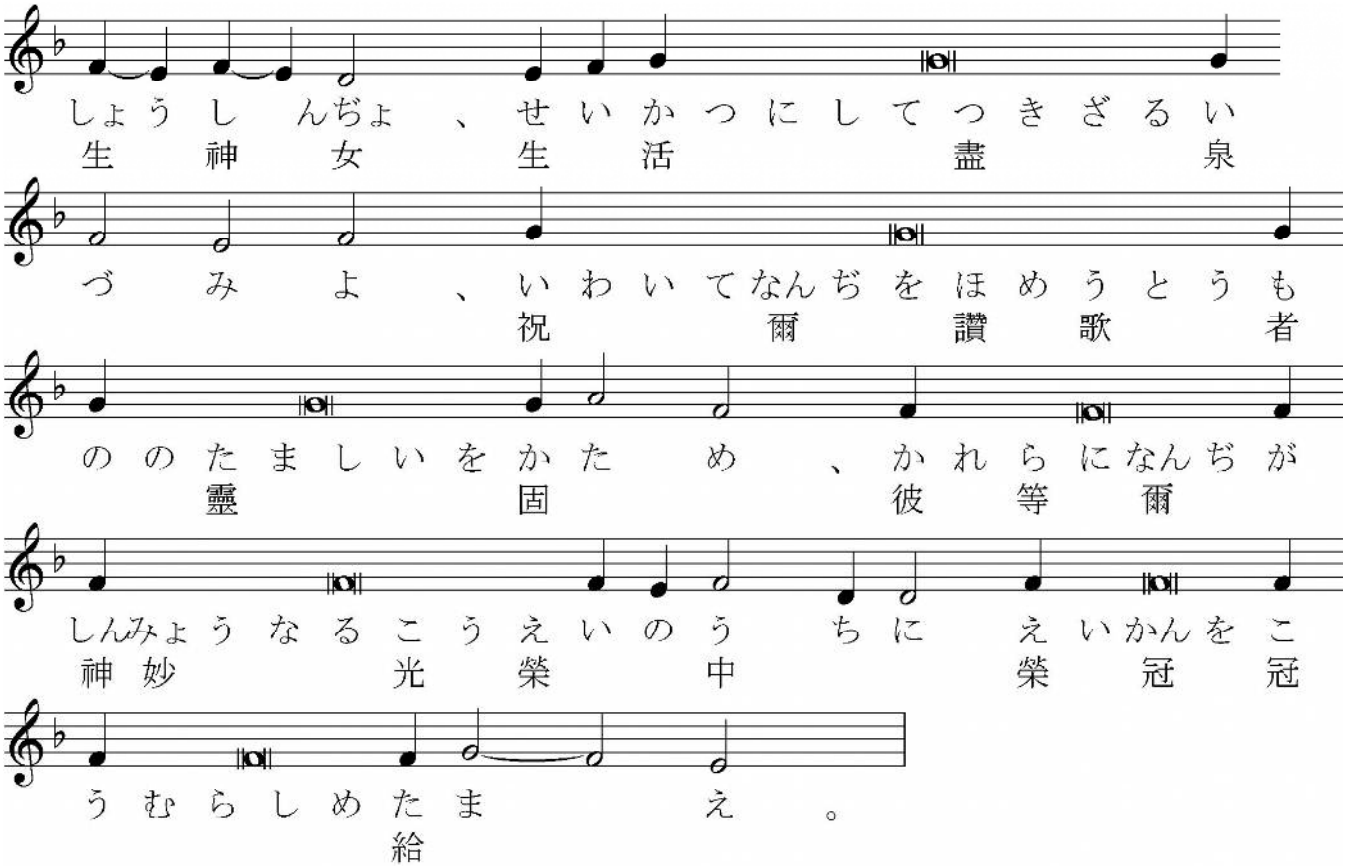
生神女よ、爾は世界の爲に生命の首たるハリストスを生みて、原母エヴァの更新と爲り給えり。

今も何時も世世に、アミン。

父の實在の力たる眞の神を身にて生みし純潔なる者よ、我に力を帶ばしめ給

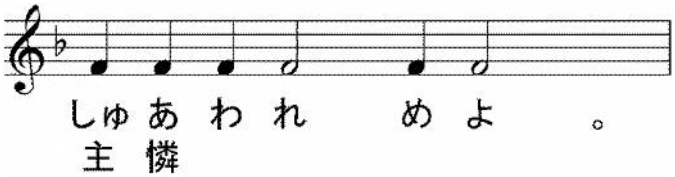
え。

【 共頌 】

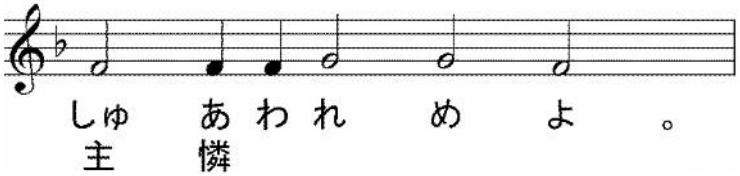


【 小聯禱 】

司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、



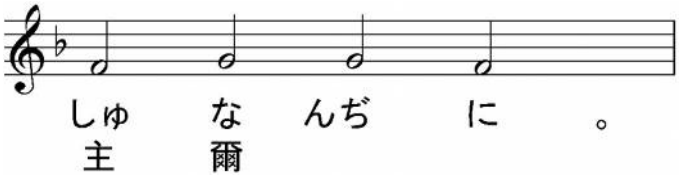
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



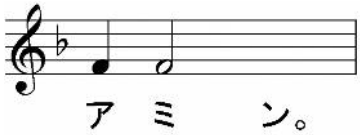
司祭) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

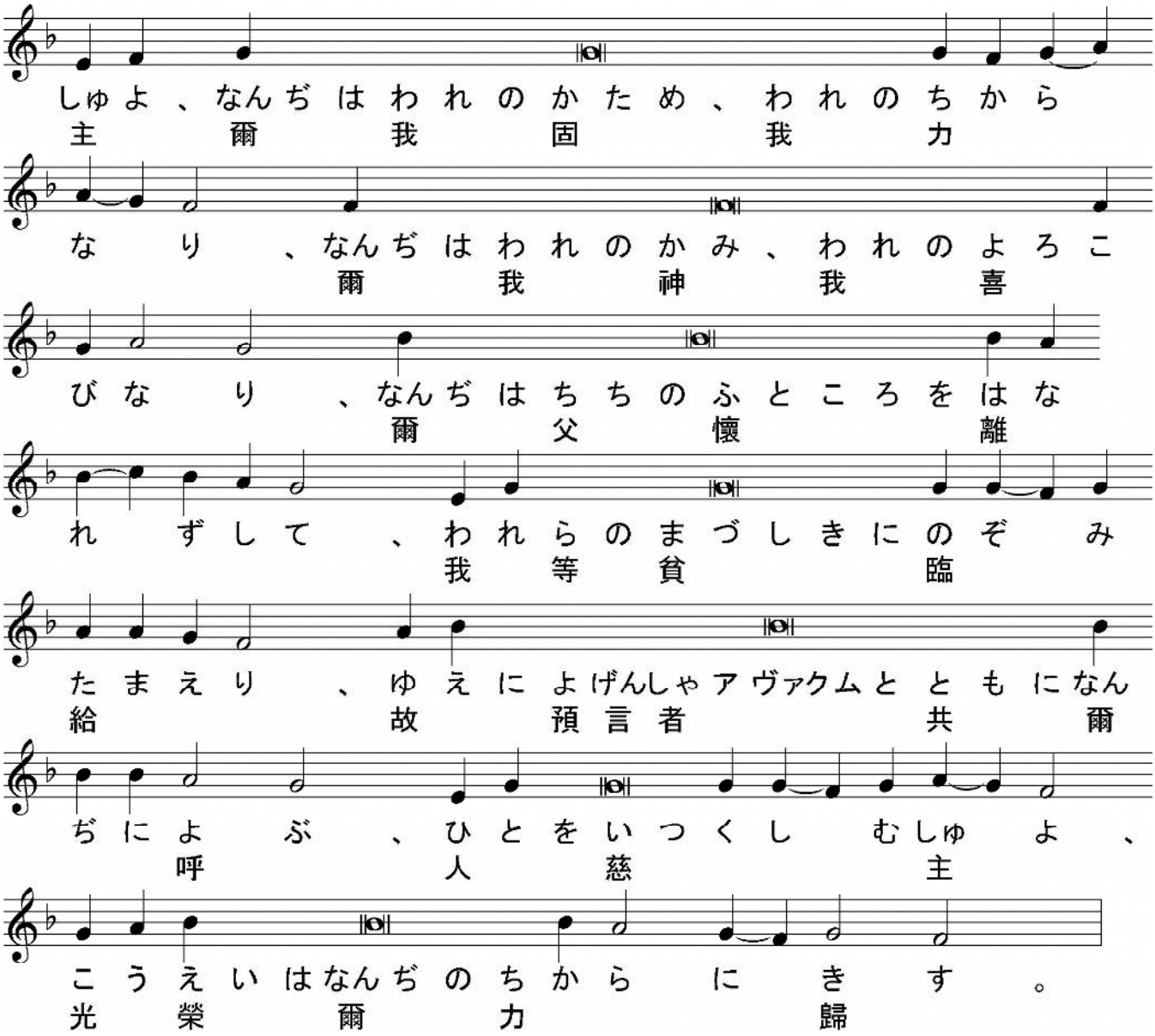
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭）蓋(けだし)爾(なんぢ)は我等(われら)の神(かみ)なり、我等光榮(われらこうえい)を爾(なんぢ)父(ちち)と子(こ)と聖神(せいしん)に獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、



【 第４歌頌 主日の規程(カノン) 】



誦經）主(しゅ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)の聖(せい)なる復活(ふくかつ)に歸(き)す。

慈憐なる救世主よ、爾は敵なる我を甚愛せり。爾は驚くべき謙遜を以て地に臨み、我が至極の暴虐を辭せず、爾の至淨なる光榮の高に在して、我嘗て辱しめられし者を榮し給えり。

主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰よ、誰か今苦にて死の滅され、十字架にて朽壞の遠ざけられ、死にて地獄の寶の奪わるるを見て驚かざらん。人を愛する主よ、爾十字架に釘せられし者の神聖なる力にて行われしことは奇異なる哉。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え

聘女ならぬ聘女よ、爾は信者の譽なり、爾はハリスティアニン等の轉達と避所、城垣と港なり。蓋爾は、純潔なる者よ、爾の子に祈禱を獻げて、信と愛とを以て爾を潔き生神女と承け認むる者を苦難より救い給う。

【 十字架復活の規程 】

イルモス　主よ、我爾が攝理の祕密を聆き、爾の作爲を悟り、爾の神性を讃榮せり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

ハリストス神よ、法に戻る者の諸子は爾を十字架に釘せり。爾は此を以て、慈憐の主として、爾の苦しみを讃榮する者を救い給えり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

爾は墓より復活して、凡そ地獄に在る死者を己と偕に復活せしめ、慈憐なる主として、爾の復活を讃榮する者を照し給えり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

至淨なるマリヤよ、爾が生みし神に爾の諸僕に諸罪の赦を賜わんことを祈り給え。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　主よ、我爾が攝理の祕密を聆き、爾の作爲を悟り、爾の神性を讃榮せり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

生命を施す穂、世界に永生を與うる者を生ぜし耕されざる田なる生神女よ、爾を歌う者を救い給え。

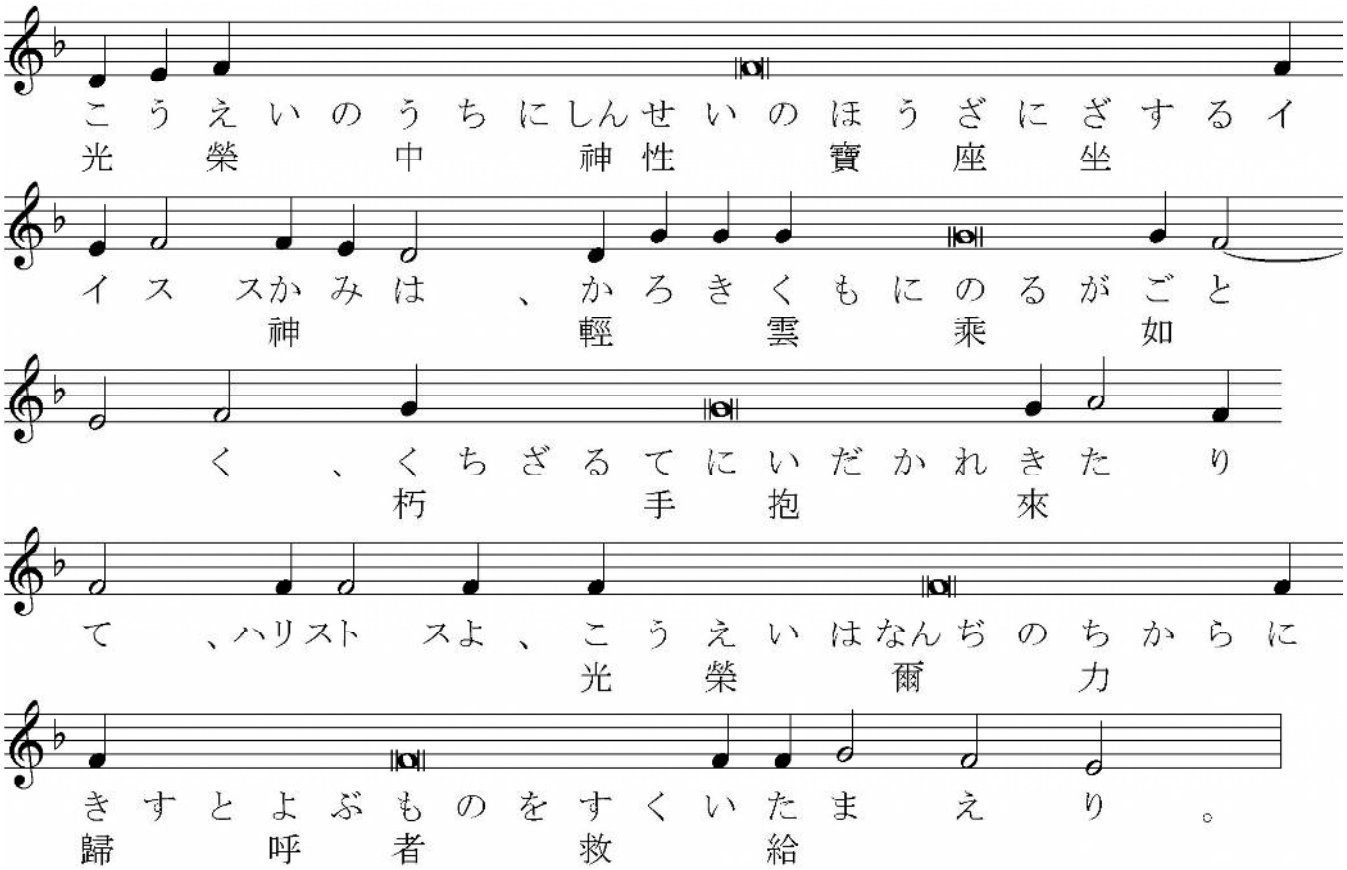
光榮は父と子と聖神に歸す。

純潔なる永貞童女よ、我等照されたる者は皆爾を生神女と傳う、爾は義の日を生みたればなり。

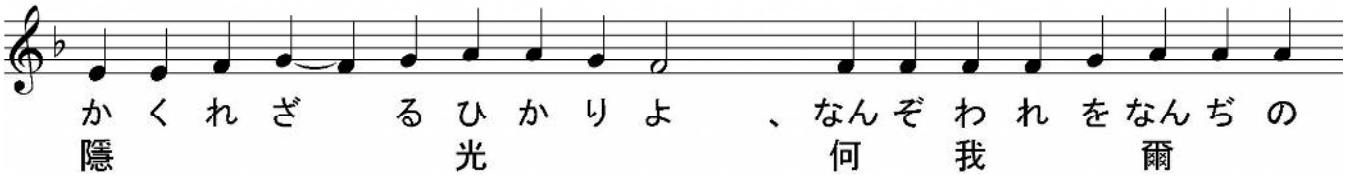
今も何時も世世に、アミン。

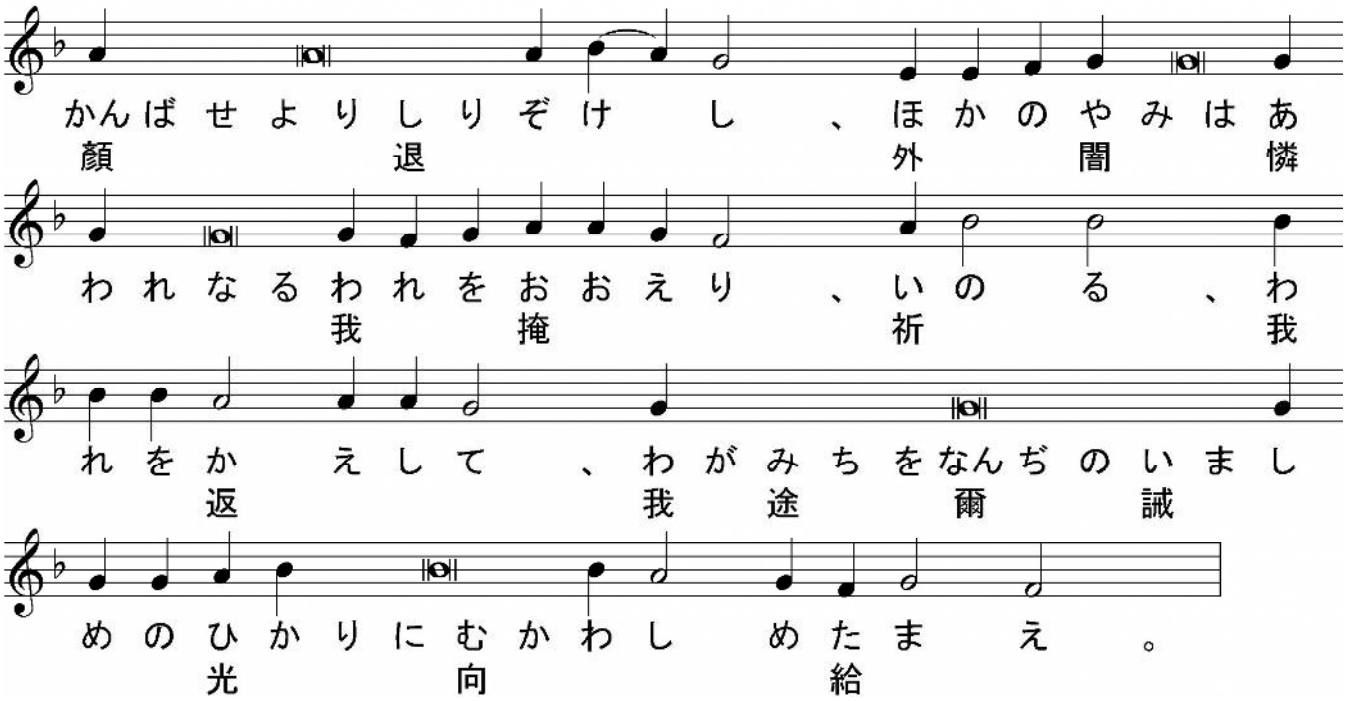
神よ、罪なき主として、爾を生みし者の祈禱に藉りて、我等の無知に潔淨を、爾の世界に平安を與え給え。

【 共頌 】



【 第５歌頌 主日の規程 】





誦經）主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストス救世主よ、爾は辱しめられて、苦の前に絳袍を衣せらるるを忍びて、始に造られし者の醜き裸を掩い、裸なる身にて十字架に釘せられて、死の衣を脱ぎ給えり。

主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は復活して、我が墜ちたる性を死に屬する塵より改め作り、之を老いざる者と爲し、之を復王の像として不朽の生命にて輝く者と顯し給えり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

純潔なる者よ、求む、爾の子の前に母の勇敢を有つ者として、我等の爲に同族に適う慮を爲すを厭う勿れ、我等信者は獨爾を慈憐なる轉達者として主宰に進むればなり。

【　十字架復活の規程（カノン）　】

イルモス　主よ、爾の誡を以て我等を照せ、人を愛する者よ、爾の高き臂を以て爾の平安を我等に與え給え。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

仁愛なるハリストスよ、我等爾の前に俯伏す、爾の十字架の力を以て我等を導きて、此を以て我等に平安を與え給え。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

仁慈仁愛なる神よ、我等爾の復活を歌う者の生命を司りて、我等に平安を與え給え。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

婚姻に與らざる至淨なるマリヤよ、爾の子我が神に我等信者に大なる憐を降さんことを祈り給え。

【 至聖なる生神女の規程（カノン） 】

イルモス　主よ、我等夙に興きて爾に籲ぶ、我等を救い給え、爾は我等の神なればなり、爾の外他の神を知らず。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

嚮導者及び主たる神を生みし者よ、我が諸慾の耐え難き暴風を鎮め給え。

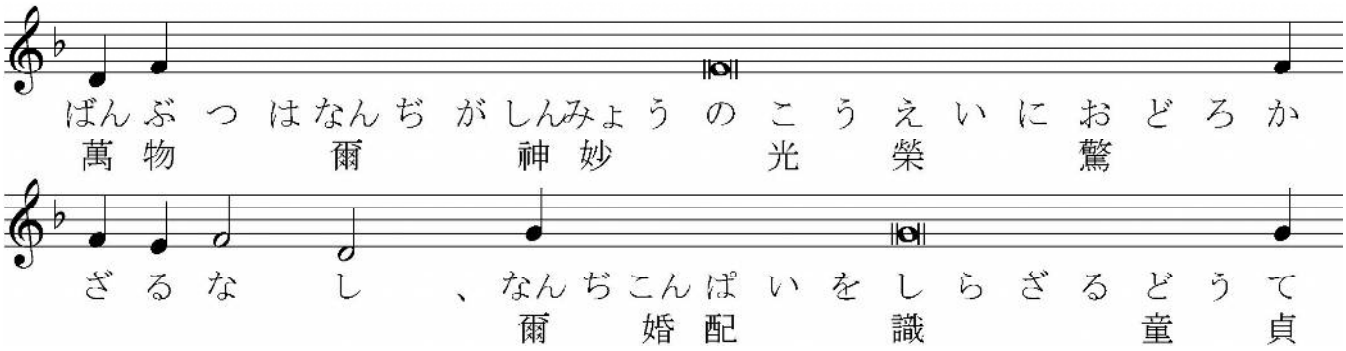
光榮は父と子と聖神に歸す。

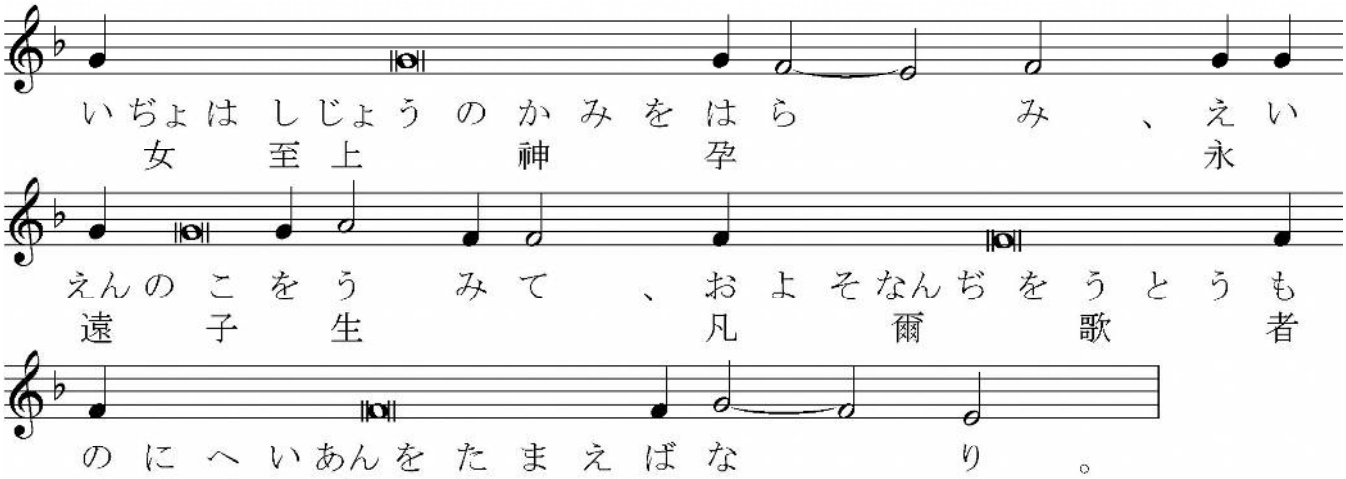
至淨なる生神女よ、天使の品位及び人人の會は爾の産に奉事す。

今も何時も世世に、アミン。

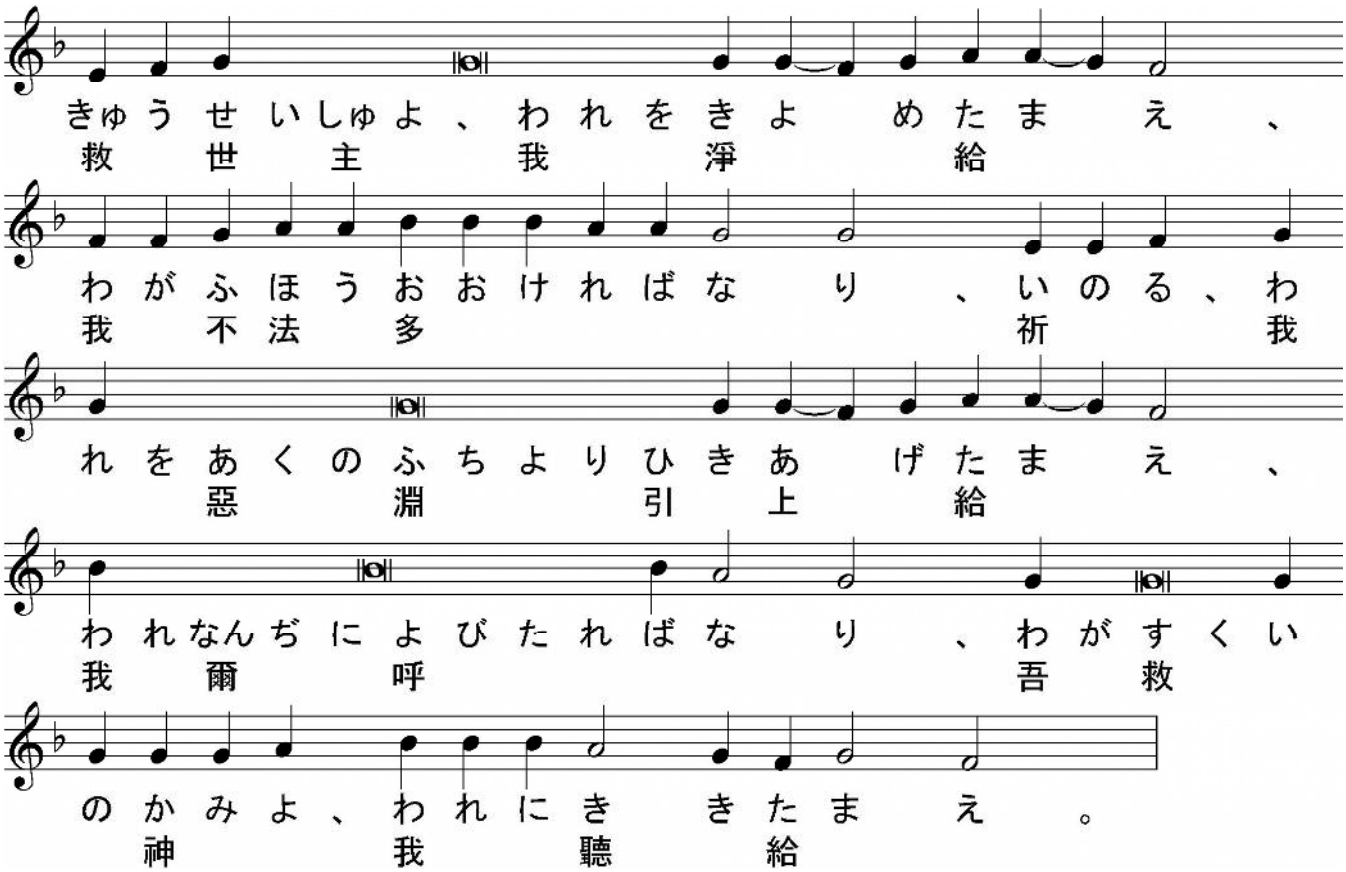
聘女ならぬ聘女、生神女マリヤよ、諸敵の謀を虚しくして、爾を歌う者を樂しましめ給え。

【 共頌（カタヴァシヤ） 】





【 第6歌頌 主日の規程(カノン) 】



誦經）主(しゅ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)の聖(せい)なる復活(ふくかつ)に歸(き)す。

ハリストスよ、惡(あく)の魁(かしら)は木(き)を以(もつ)て厲(はげ)しく我(われ)を墮(おと)したれども、爾(なんぢ)は十字架(じゅうじか)に上(のぼ)りて、更(さら)に厲(はげ)しく彼(かれ)を墮(おと)し、辱(はづか)しめて、陷(おちい)りし者(もの)を復活(ふくかつ)せしめ給(たま)えり。

主(しゅ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)の聖(せい)なる復活(ふくかつ)に歸(き)す。

ハリストスよ、爾(なんぢ)は墓(はか)より輝(かがや)き出(い)でて、憐(あわれみ)をシオンに垂(た)れ、慈憐(じれん)なるに因(よ)りて、爾(なんぢ)が神聖(しんせい)なる血(ち)を以(もつ)て、其舊(そのふるき)を易(か)えて之(これ)を新(あらた)にし、今其中(いまそのうち)に於(おい)て世世(よよ)の王(おう)と爲(な)り給(たま)えり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

潔き神の母よ、願わくは我等は爾の祈禱に因りて甚しき罪悪より脱れて、爾至浄の者より言い難く人體を取り給いし神の子の神聖なる光照を受けん。

【 十字架復活の規程 】

イルモス　我禱を主の前に灌ぎ、我が憂を彼に告げん、我が靈は悪に滿ち、我が生命は地獄に近づきたればなり、我イオナの如く祈る、神よ、我を淪滅より引き上げ給え。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

ハリストスよ、爾は手を十字架に舒べて、始めて造られし者のエデムに於て不節制に舒べたる手を醫し、甘じて膽を嘗めて、全能の主として、爾の苦を讚榮する者を救い給えり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

贖罪主ハリストスは死を嘗めて、古の定罪と朽壊との國を破り、地獄に降りし後復活して、全能の主として、其復活を歌う者を救い給えり。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

至浄なる生神童貞女よ、我等の爲に絶えず祈り給え、爾は信者の保固なればなり。我等爾を恃むに因りて堅く立ちて、愛を以て爾及び爾より言い難く身を取りし主を讚榮す。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　光を衣の如く衣る慈憐の深きハリストス我が神よ、我に光明の衣を予え給え。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

生神女よ、我等信者は爾を神の宮及び約匱、生ける殿及び天の門として傳う。

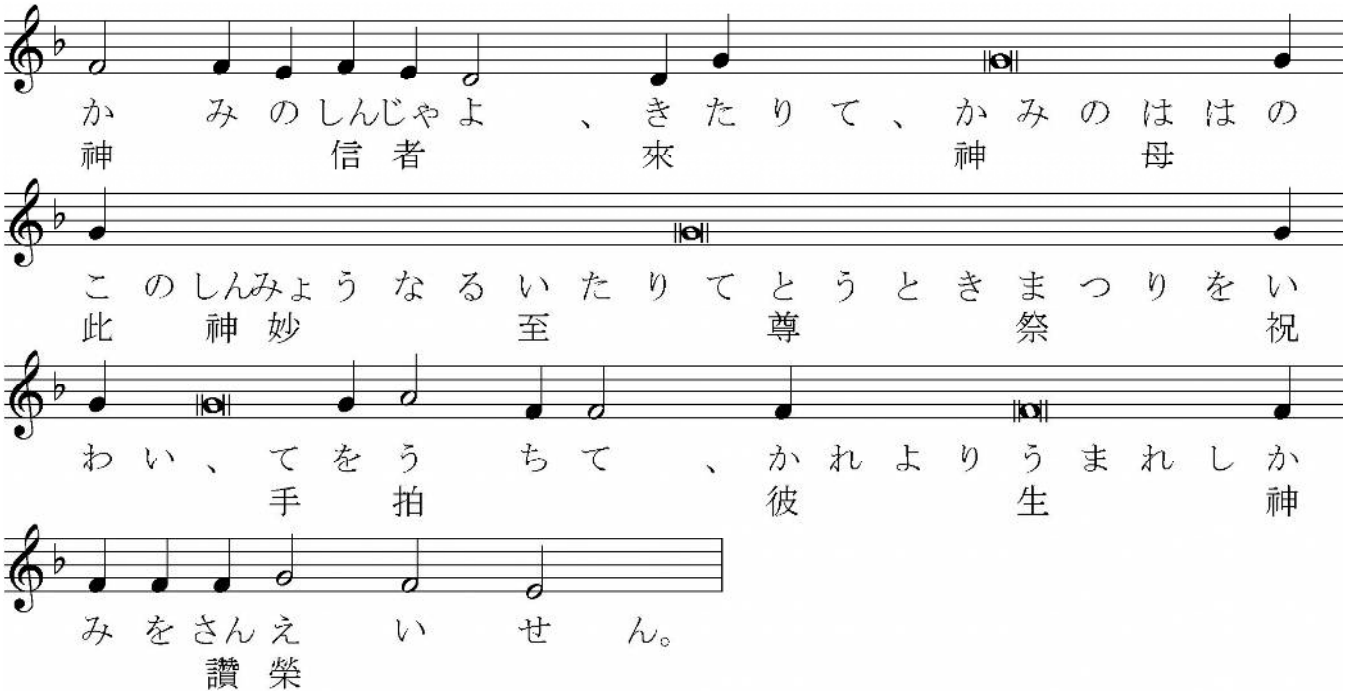
光榮は父と子と聖神に歸す。

神の聘女マリヤよ、神として邪宗を滅す者と爲りし爾の産は父及び聖神と偕に伏拜せらる。

今も何時も世世に、アミン。

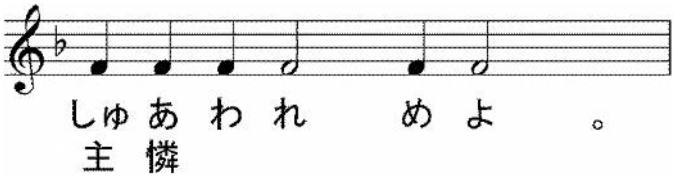
生神女よ、神の言は爾を地上の者の爲に天の梯として示し給えり、爾に縁りて我等に降りたればなり。

【 共頌 】

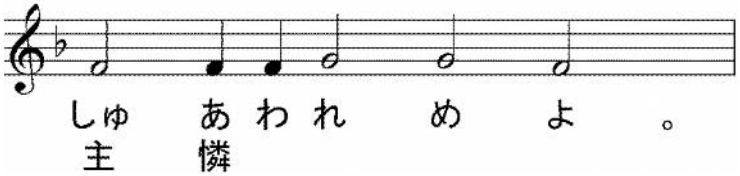


【 小聯禱 】

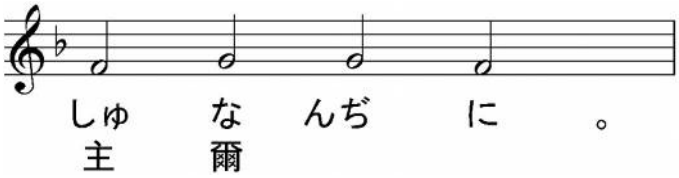
司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、



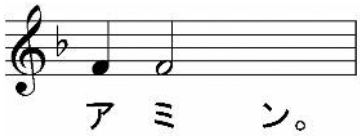
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭）蓋爾は平安の王及び我が靈の救主なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



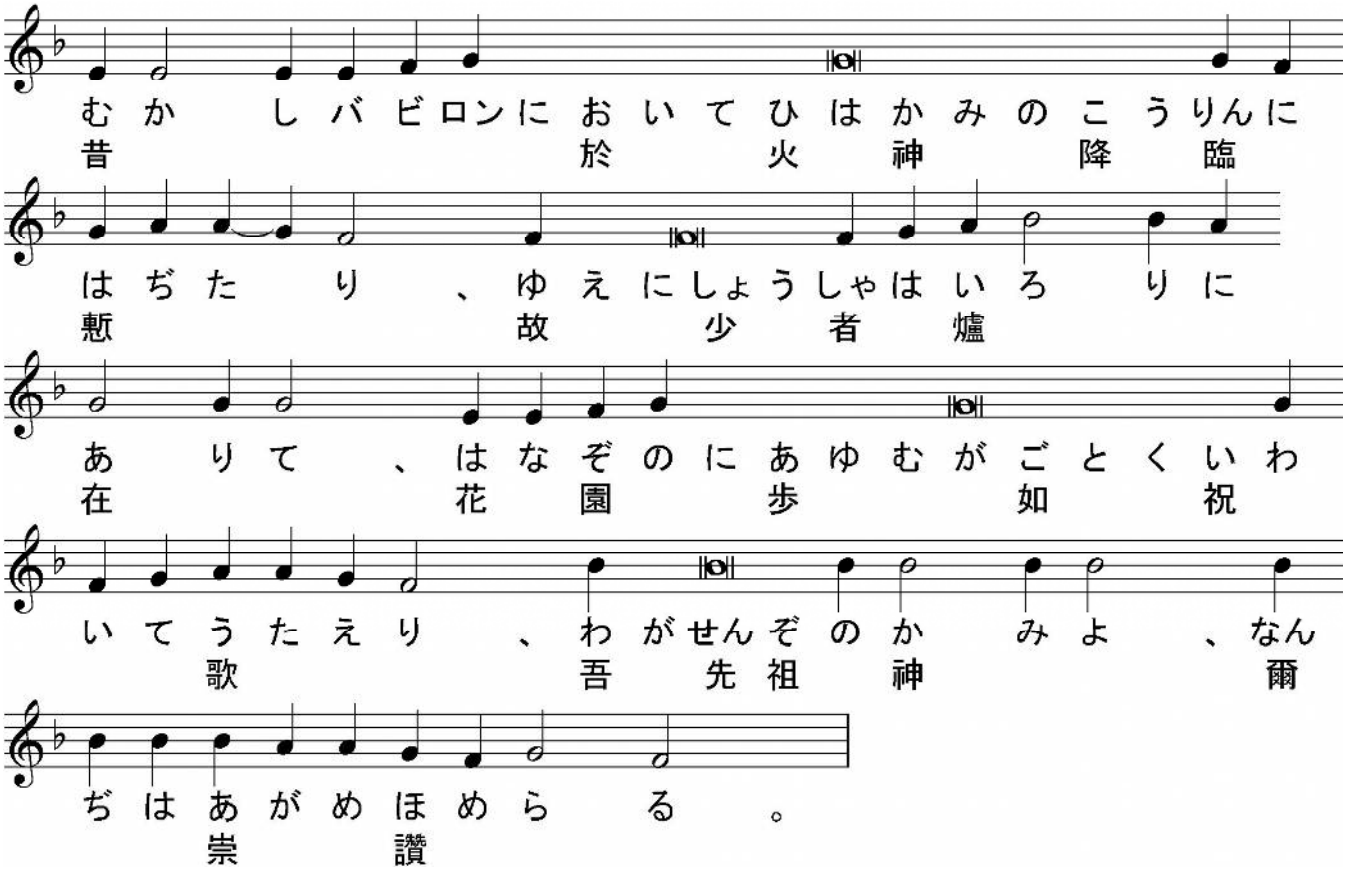
【　復活のコンダク　第８調　】

誦經）大仁慈なる主よ、爾は墓より復活して、死せし者を興し、アダムを復活せしめ給えり。エヴァは爾の復活を樂しみ、世界の極は爾が死より興きたるを祝う。

【　同讚詞　】

地獄の國を擄にし、死者を復活せしめし恒忍なる救世主よ、爾は攜香女に逢いて、之に哀に易えて喜を賜えり。生命を施す仁慈仁愛なる主よ、爾は使徒に勝利の記號を示して、造物を照し給えり。故に世界は爾が死より興きたるを祝う。

【　第７歌頌　主日の規程　】



誦經）主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾の光榮なる謙虚、爾が貧窮の神妙なる富は諸天使を驚かす、彼等は、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると、信じて呼ぶ者を救わん爲に、爾が十字架に釘せらるるを見ればなり。

主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

爾は神聖なる降臨にて地獄に光を滿たししに、曾て蔽いたる闇冥は逐われたり。故に古世よりの囚人は復活して呼ぶ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

至聖なる三者、我等の神よ、光榮は爾に歸す。

我等は爾萬有の主、惟一の獨生の子の惟一の父を正しく傳え、又爾より出づる惟一の義なる神、爾と同一性同永在なる者を承け認む。

【　十字架復活の規程　】

イルモス　昔バビロンに於てイウデヤより來りし少者は、聖三の信を以て、爐の焰を蹈みて歌えり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

神よ、爾は、預言者の言いし如く、救を全地の中に爲せり、蓋爾は木に擧げられて、信を以て、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ衆人を召し給えり。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

洪恩なる主よ、爾は寢よりするが如く墓より復活して、衆人を朽壞より救い給えり、使徒等は復活を傳えて造物に之を信ぜしむ。我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

生みし者と同功、同能、同永在なる言は童貞女の胎内に、父及び聖神の善旨に由りて、形づくらる。吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

【　至聖なる生神女の規程　】

イルモス　昔バビロンに於てイウデヤより來りし少者は、聖三の信を以て、爐の焔を蹈みて歌えり、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

爾は童貞女の胎より身を取りて、我等の救の爲に現れ給えり。故に我等は爾の母を生神女と識りて、正しく呼ぶ、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

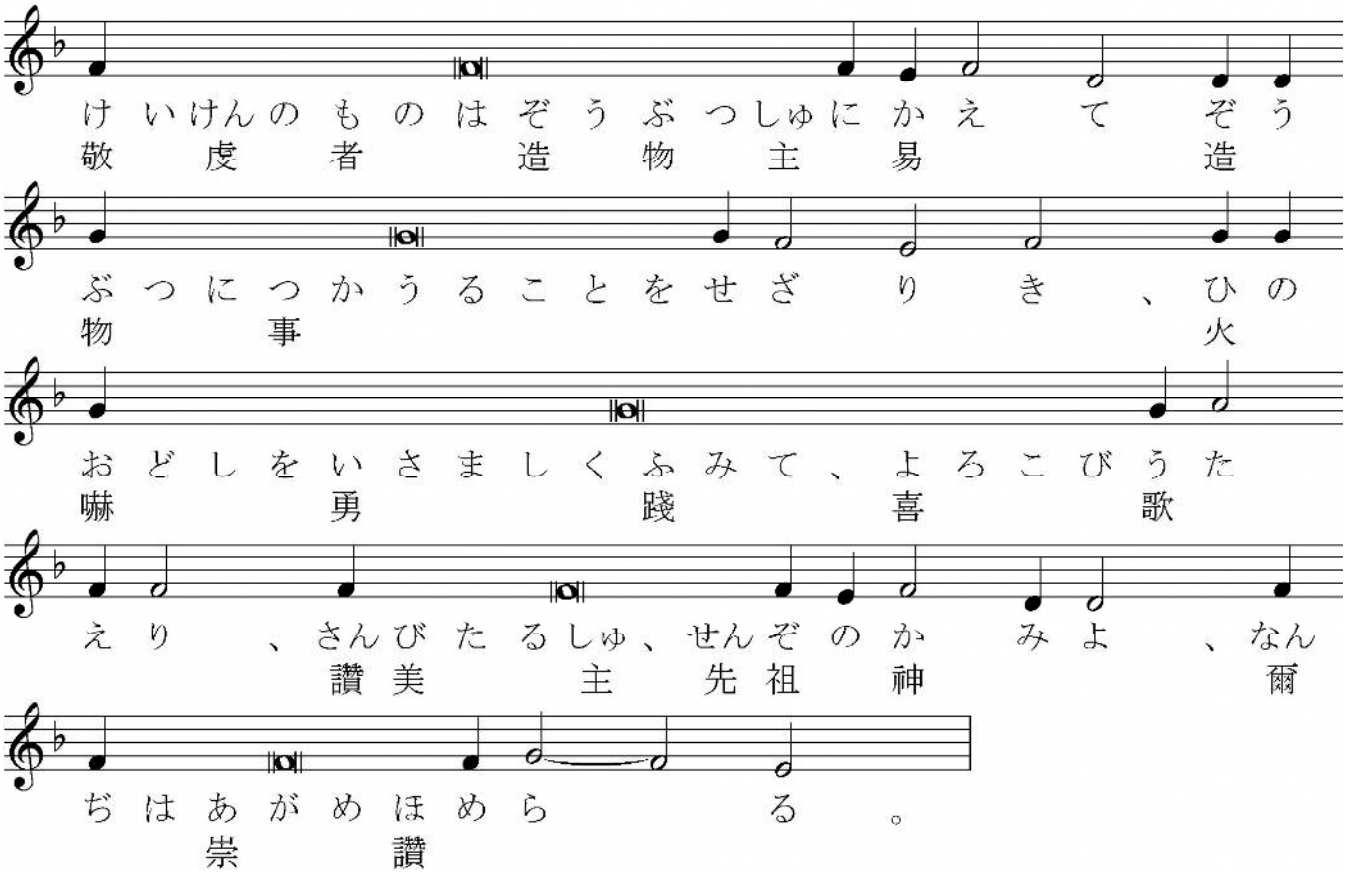
光榮は父と子と聖神に歸す。

至福なる童貞女よ、爾はイエッセイの根より枝を生ぜり、是れ信を以て爾の子に、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ者の爲に救の花を開きて果を結ぶ者なり。

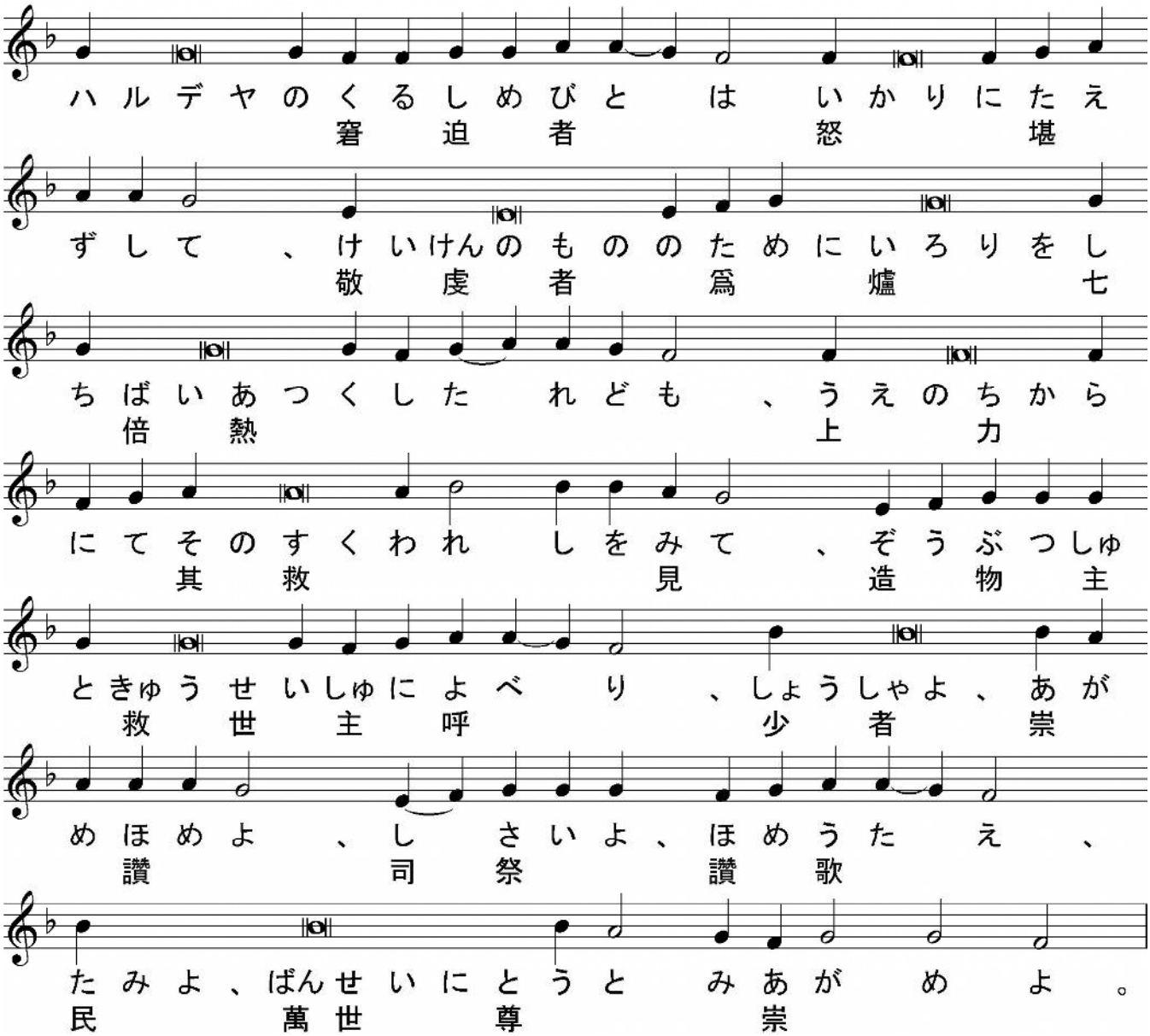
今も何時も世世に、アミン。

至上者の實在なる睿智よ、信を以て爾に、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると歌う衆人を、生神女に藉りて睿智と神聖なる力とに滿て給え。

【　共頌　】



【　第８歌頌　主日の規程　】



誦經）主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

イイススの神性の至りて神妙なる力は神に合うが如く我等の中に輝けり、彼衆人の爲に身にて十字架の死を嘗めて、地獄の堅堡を破りたればなり。少者よ、常に彼を崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌え、民よ、萬世に尊み崇めよ。

主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

釘せられし者は起き、高ぶる者は倒れ、陷りて破られたる者は改められ、朽壞は除かれ、不朽は華さけり、死に屬する事が生命に呑まれたればなり。少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌え、民よ、萬世に尊み崇めよ。

至聖なる三者、我等の神よ、光榮は爾に歸す。

三光の神性、惟一の光明にて輝く者、三位一體の神、無原の父、父と一性の言、及び共に王たる一性の聖神を、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌え、民よ、萬世に尊み崇めよ。

【 十字架復活の規程 】

イルモス　爾の誡に熱中せし少者は、爾の恩寵に因りて、窘迫者及び火焔に勝つ者と爲りて籲べり、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

木の上に在りて手を我裸體にせられし者に舒べ、我を召して、己の美しき裸體にて溫めんと欲する主を、悉くの主の造物は崇め讃めて、世世に彼を讃め揚げよ。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

我陷りし者を最下なる地獄より擧げて、父の高き寶座に坐せしむる光榮を以て尊くせし主を、悉くの主の造物は崇め讃めて、世世に彼を讃め揚げよ。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

童貞女よ、爾は陷りしアダムの女にして、我が性を新にせし神の母と現れたり。我等悉くの造物は彼を主として歌いて、萬世に讃め揚ぐ。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　天使の軍の歌う所の天の王を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

生神女よ、諸敵の我等に向いて射る焔の状なる燃ゆる矢を滅し給え、我等が萬世に爾を歌わん爲なり。

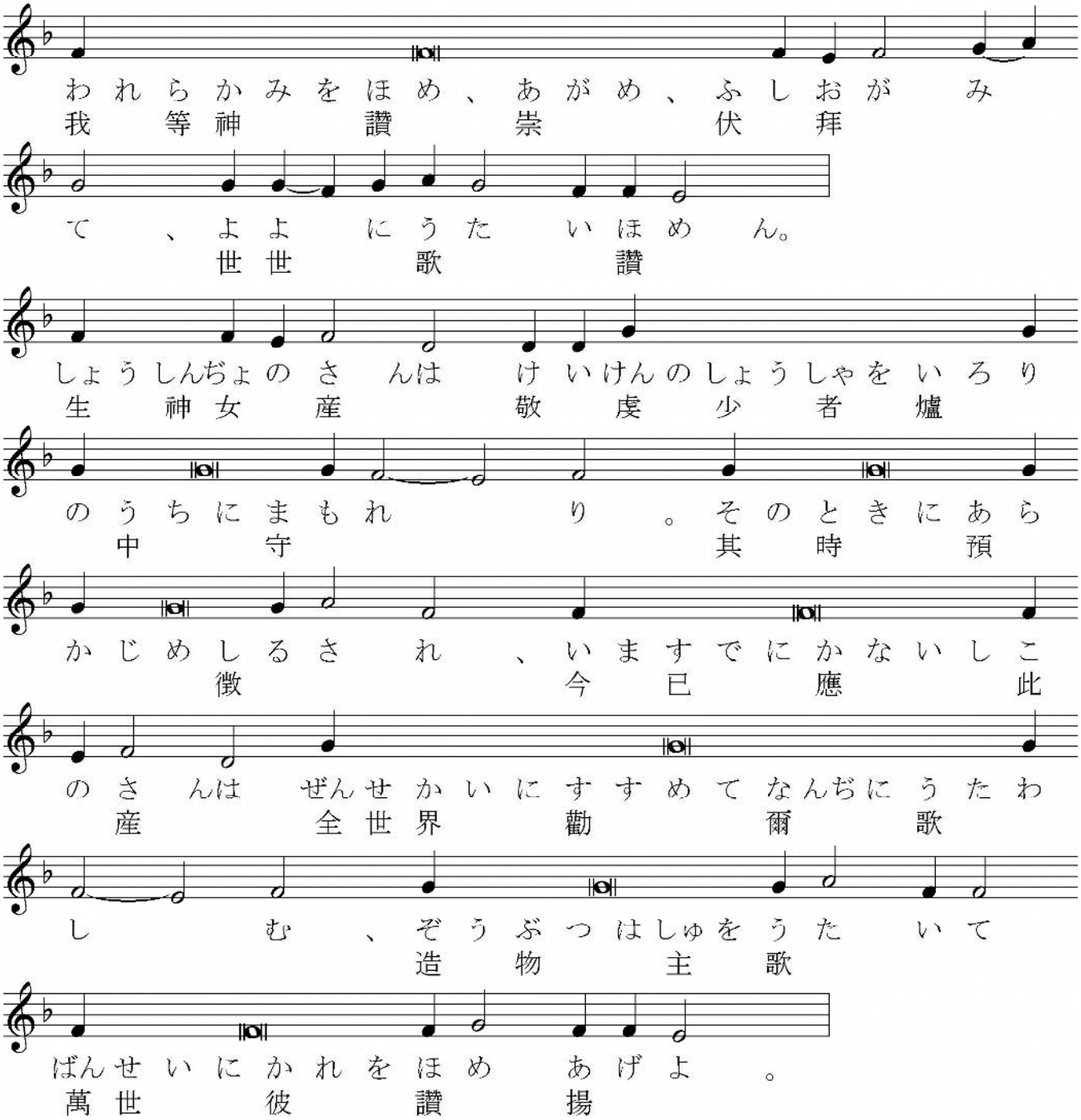
我等主なる父と子と聖神とを崇め讃めん。

童貞女よ、爾は性に超えて造成主及び救主たる神言を生み給えり。故に我等爾を歌いて、萬世に讃め揚ぐ。

今も何時も世世に、アミン。

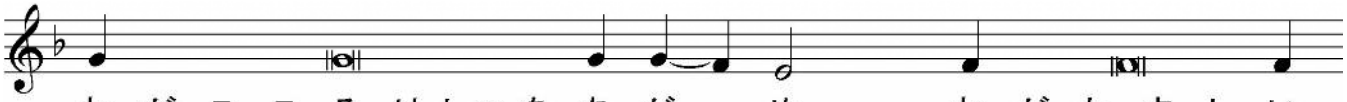
童貞女よ、爾の内に入りたる近づき難き光は爾を萬世の爲に金光を放つ光明なる燈と爲し給えり。

【 共頌 】



【 ヘルヴィムより尊く 】

司祭) 生神女、光の母を讃歌を以て讃め揚げん、



はかみわがきゅうしゅをよろこぶ。
神我救主悦

ヘルヴィムよりとうとく、セラフィムにならびな
尊 並

くさかえ、みさおをやぶらずしてかみこ
榮 貞操壞 神言

とばをうみしじつのしょうしんぢょたるなんぢ
生實生神女爾

をあがめほむ。
崇讚

そのひのいやしきをかえりみたまえり、い
其婢卑顧給今

まよりよろづよわれをさいわいなりといわん
萬世我福謂

ヘルヴィムよりとうとく、セラフィムにならびな
尊 並

くさかえ、みさおをやぶらずしてかみこ
榮 貞操壞 神言

とばをうみしじつのしょうしんぢょたるなんぢ
生實生神女爾

をあがめほむ。
崇讚

ちからをもちたまえるものはわがためにおお
權能有給者我爲大

いなることをなせり、そのなはせいなり、
事成其名聖

そのあわれみはよよかれをおそるるものにの
其憐世世彼畏者臨

ぞまん。

ヘルヴィムよりとうとく、セラフィムにならびな
尊並

くさかえ、みさおをやぶらずしてかみこ
榮貞操壞神言

とばをうみしじつのしょうしんぢょたるなんぢ
生實生神女爾

をあがめほむ。
崇讃

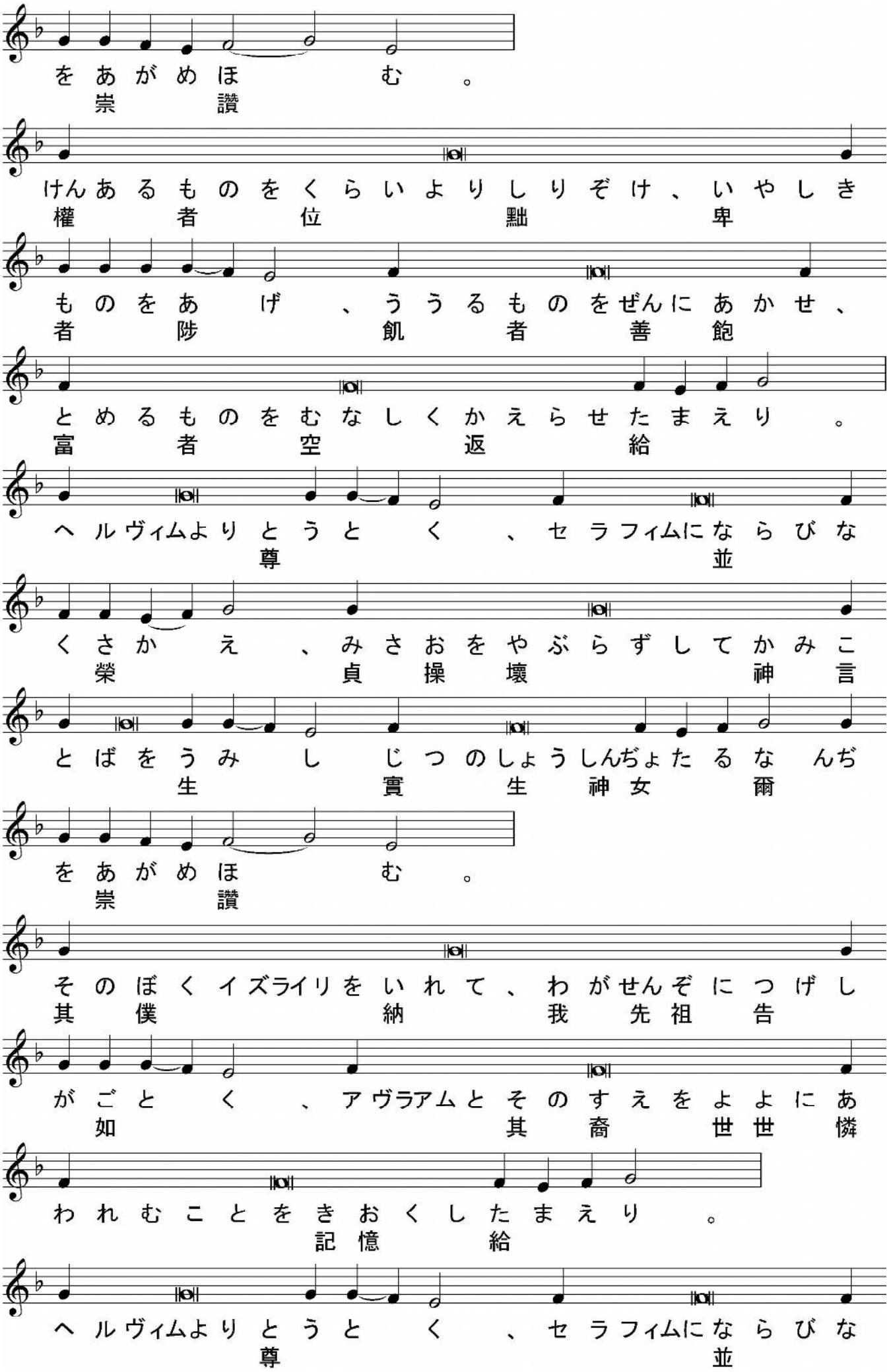
そのひぢのちからをあらわして、こころの
其臂力顯心

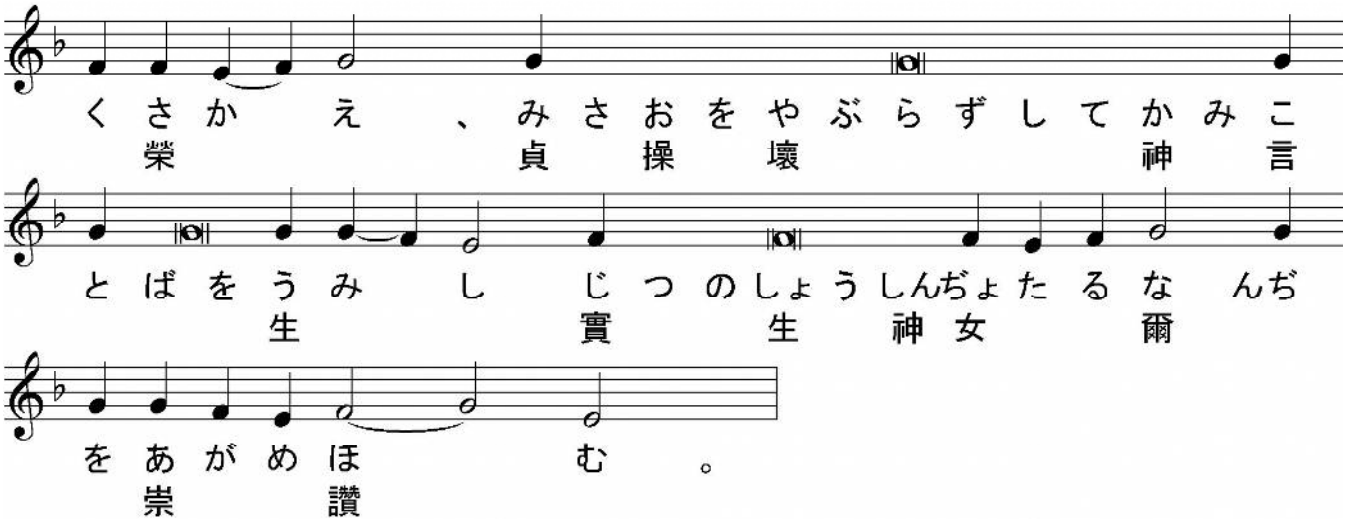
おごれるものをちらしたまえり。
驕者散給

ヘルヴィムよりとうとく、セラフィムにならびな
尊並

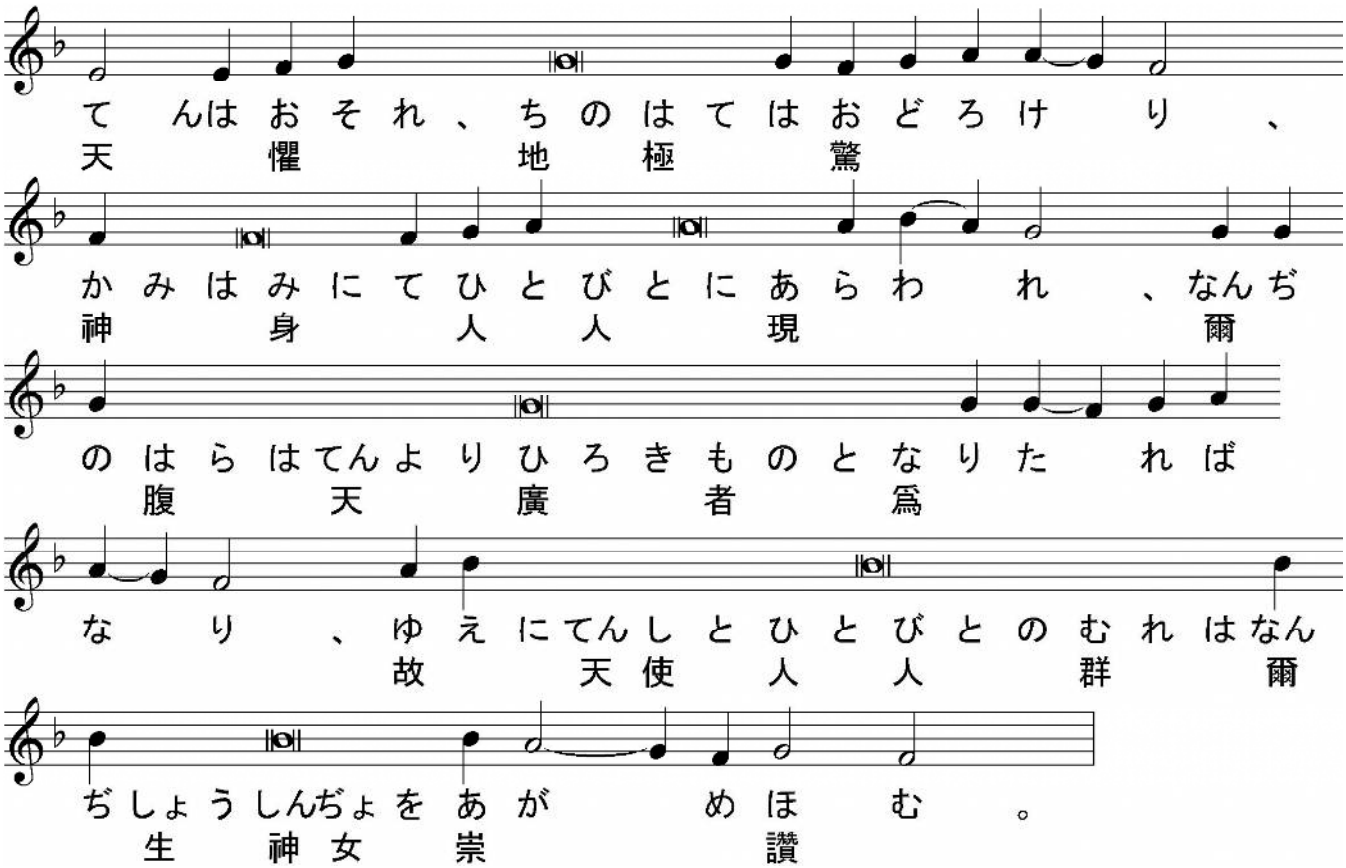
くさかえ、みさおをやぶらずしてかみこ
榮貞操壞神言

とばをうみしじつのしょうしんぢょたるなんぢ
生實生神女爾


をあがめほ　む。
崇　讃
けんあるものをくらいよりしりぞけ、いやしき
權　者　位　黜　卑
ものをあ　げ、ううるものをぜんにあかせ、
者　陟　飢　者　善　飽
とめるものをむなしくかえらせたまえり。
富　者　空　返　給
ヘルヴィムよりとうと　く、セラフィムにならびな
尊　並
くさか　え、みさおをやぶらずしてかみこ
榮　貞　操　壞　神　言
とばをうみ　し　じつのしょうしんぢょたるな　んぢ
生　實　生　神　女　爾
をあがめほ　む。
崇　讃
そのぼくイズライリをいれて、わがせんぞにつげし
其　僕　納　我　先　祖　告
がごと　く、アヴラアムとそのすえをよよにあ
如　其　裔　世　世　憐
われむことをきおくしたまえり。
記　憶　給
ヘルヴィムよりとうと　く、セラフィムにならびな
尊　並



【 第９歌頌 主日の規程（カノン） 】



誦經）主（しゅ）よ、光榮（こうえい）は爾（なんぢ）の聖（せい）なる復活（ふくかつ）に歸（き）す。

神（かみ）の言（ことば）よ、爾（なんぢ）は神（かみ）の無原（むげん）なる性（せい）にて單一（たんいつ）なる者（もの）にして、肉體（にくたい）を受（う）くるに因（よ）りて合（あわ）せられたる者（もの）と爲（な）り、人（ひと）としては苦（くるしみ）を受（う）け、神（かみ）としては苦（くるしみ）に與（あづか）らざる者（もの）と止（とど）まり給（たま）えり。故（ゆえ）に我等（われら）爾（なんぢ）を分離（ぶんり）なく混淆（こんこう）なき二性（にせい）を有（たも）つ者（もの）として崇（あが）め讃（ほ）む。

主（しゅ）よ、光榮（こうえい）は爾（なんぢ）の聖（せい）なる復活（ふくかつ）に歸（き）す。

至上なる主よ、爾は諸僕に降り、其性を以て人と爲りしに因りて、己の本性の父を神と名づけ、墓より復活して、地に生るる者の爲に本性の神及び主宰を恩寵の父と爲し給えり。我等衆彼と偕に爾を崇め讃む。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

嗚呼童貞女、神の母よ、爾は天然の法に超ゆる者と顯れて、仁慈なる父が萬世の先に生みし神言を身にて生み給えり。彼は肉體を衣たれども、我等は今彼を悉くの肉體より至りて上なる者と承け認む。

【 十字架復活の規程 】

イルモス　凡の者は神の言い難き寛容の事、如何に至上者が甘じて肉體を取るまでに降りて、童貞女の腹より人と爲りしかを聞きて、恐れざるなし、故に我等信者は至淨なる生神女を崇め讃む。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

我等爾を本性の神の子、生神女の胎内に孕まれて、我等の爲に人と爲りし者と承け認め、爾が人の性にて十字架に苦を受くるを見て、神として苦に與らざる者と崇め讃む。

主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

古の幽暗は破られたり、蓋地獄より義の日ハリストスは光を放ちて出で、地の四極を照し、天の人・地の神として神性の光明を以て輝き給う。我等彼を二性に於て崇め讃む。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

生神女の子よ、弓を執り、矢を放ちて、我等を滅さんと謀る敵を斃し給え。爾の十字架を我等の爲に諸敵に勝たれぬ武器と爲して、我が國の天皇及び國を司る者に勝利を賜え。

【 至聖なる生神女の規程 】

イルモス　潔き童貞女よ、我等爾に依りて救われし者は爾を實に生神女と承け認めて、無形の軍と偕に爾を崇め讃む。

至聖なる生神女よ、我等を救い給え。

童貞女よ、爾の記憶は、爾に趨り附きて、敬虔に爾を生神女と承け認むる者を喜と樂とに滿てて、彼等に醫治を流す。

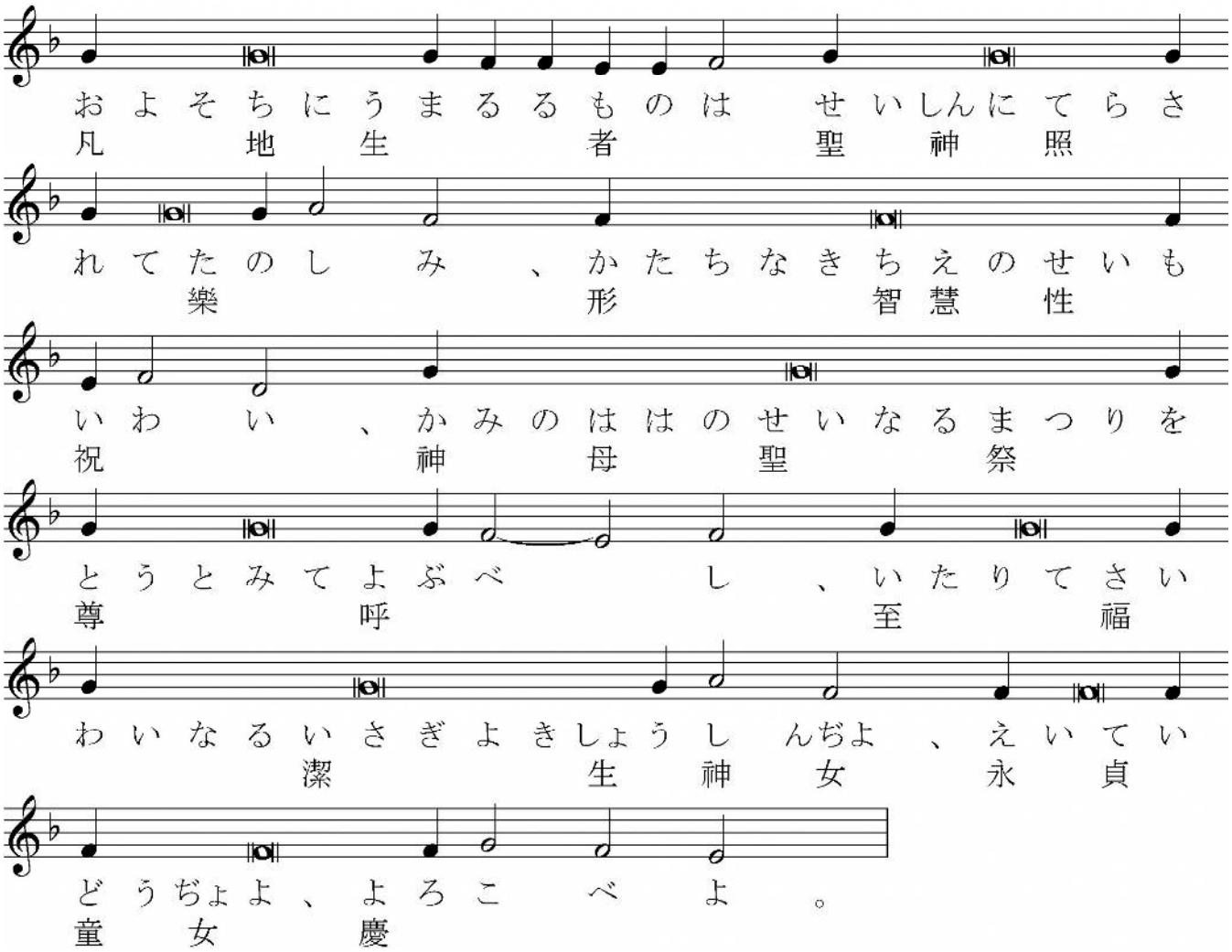
光榮は父と子と聖神に歸す。

恩寵を蒙れる者よ、我等聖詠を以て爾を歌頌して、黙すなく爾に呼ぶ、慶べ、蓋爾は衆人に喜を流し給えり。

今も何時も世世に、アミン。

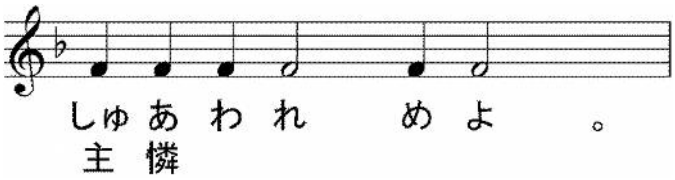
生神女よ、爾は最美しき果を結べり、是れ信を以て爾を讃め揚ぐる者に朽壊にあらずして生を施す者なり。

【共頌】

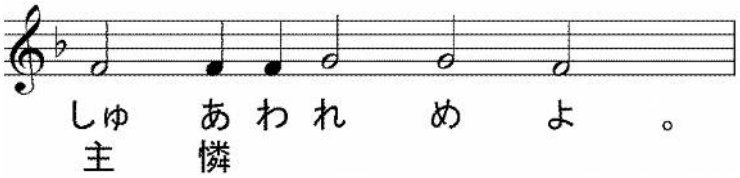


【　小聯禱　】

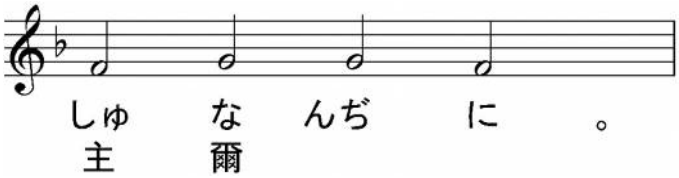
司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



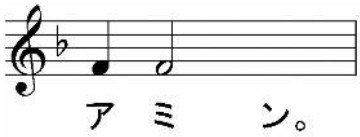
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭）蓋天の衆軍爾を讃揚す、我等も光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



司祭）主我等の神は聖なり、

司祭）主はシオンに於て大なり、

司祭）主は高く衆民の上に在り、

【 差遣詞（エクサポスティラリ） 主日の第６の 】

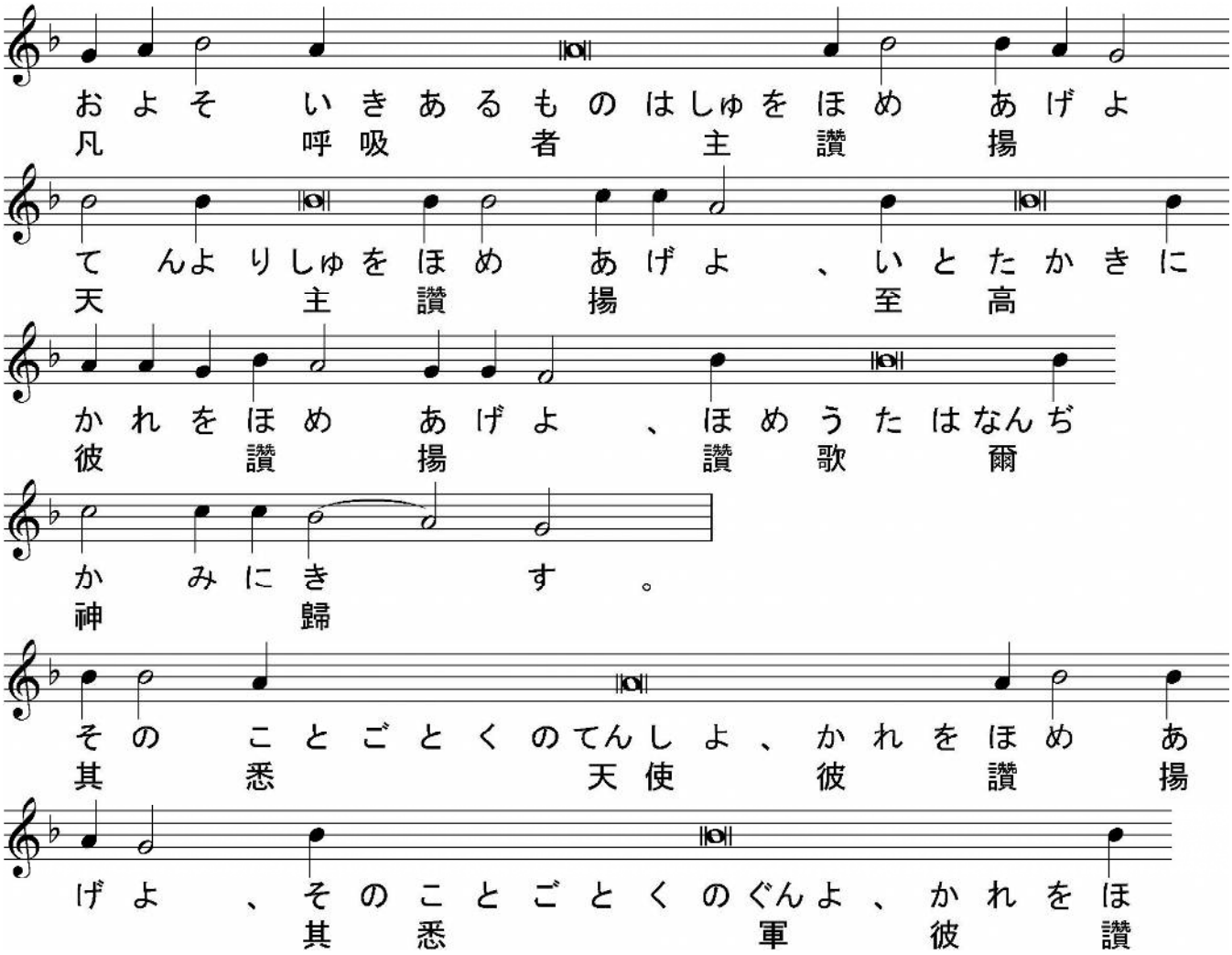
誦經） 救世主よ、爾は己の人性を示して、墓より復活せし後に門徒の中に立ち、彼等と偕に食い、彼等に悔改の洗禮を教え、直に天の父に升り、門徒に許約せし撫恤者を遣し給えり。至聖なる神人よ、光榮は爾の復活に歸す。

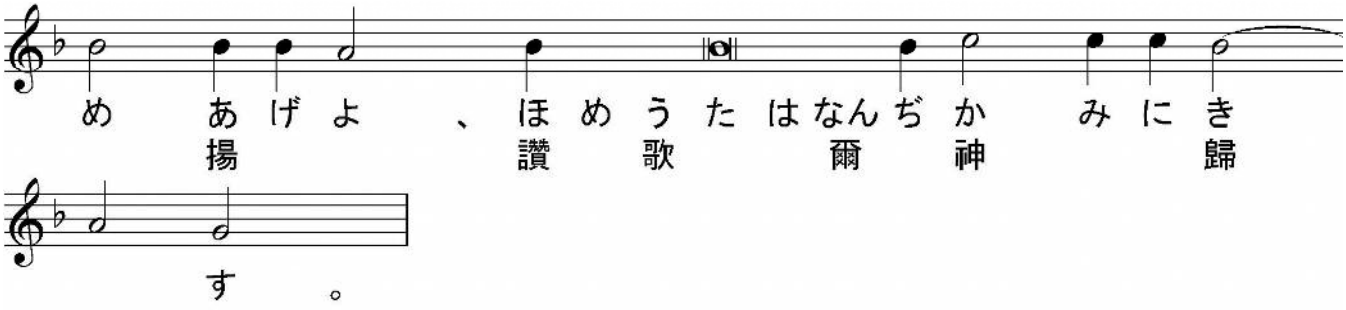
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【 生神女讃詞 】

至聖なる童貞女よ、萬物の造成主及び神は爾の至淨なる血より人體を受けて、我が朽壞せし性を全く新にし、爾を産の後にも産の前の如く童貞女に止まらしめ給えり。故に我等皆信を以て爾を崇め讃めて呼ぶ、世界の女宰よ、慶べ。

【 讃揚歌 （凡そ呼吸ある者 第148、149、150聖詠） 】





誦經）句彼等の爲に記されし審判を行わん爲なり、斯の榮は其悉くの聖人に在り。

讃頌　主よ、爾は審判座の前に立ちて、ピラトより審判せられたれども、父と偕に坐して、寶座を離れざりき、死より復活して、世界を敵の奴隷より釋き給えり、慈憐にして人を愛する主なればなり。

句　神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の大空に讃め揚げよ。

讃頌　主よ、爾は惡魔に勝つ武器として我等に爾の十字架を賜えり、蓋彼は戰い慄きて、其力を見るに忍びず、其死者を起こし、死を空しくしたればなり。故に我等爾の葬と復活とを伏し拜む。

句　其權能に依りて彼を讃め揚げよ、其至嚴なるに依りて彼を讃め揚げよ。

讃頌　主よ、イウデヤ人は爾を死者の如く墓に藏めたれども、兵卒は寢ぬる王の如く爾を守れり、生命の寶の如く印を以て封じたれども、爾は復活して、我等の靈に不朽を賜えり。

句　角の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。

讃頌　主よ、復活を傳えし爾の天使は番兵を恐れしめ、女等に呼びて云えり、何ぞ生ける者を死者の中に尋ぬる、彼は神として復活し、世界に生命を賜えり。

句　鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。

讃頌　仁愛なるハリストス神よ、爾は神性にては苦に與らざる者にして、十字架の苦を忍びて、三日の葬を受け給えり、我等を敵の奴隷より釋き、爾の復活に因りて、我等に生命を賜いて、我等を不死の者と爲さん爲なり。

句　和聲の鈸を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鈸を以て彼を讃め揚げよ。凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。

讃頌　ハリストスよ、我爾が墓よりの復活に伏拜し、之を讃榮して歌頌す、爾は之を以て我等を地獄の解き難き械より釋き、神として世界に永遠の生命と大なる憐とを賜えり。

句　主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる毋れ。

讃頌　法に悖る民は其時爾が生命を受けたる墓を守り、番兵を置きて封印したれども、爾は不死なる全能の神として三日目に復活し給えり。

句　主よ、我心を盡くして爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳えん。

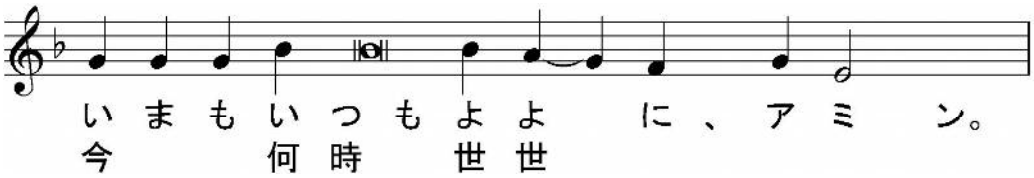
讃頌　主よ、爾は地獄の門に至りて之を破りしに、俘囚は斯く呼べり、此れ誰ぞや、如何ぞ地の最下なる處に繫がれずして、反りて幕の如く死の獄を破りたる、我は彼を死者として受けて、神として慄く。全能の主よ、我等を憐み給え。

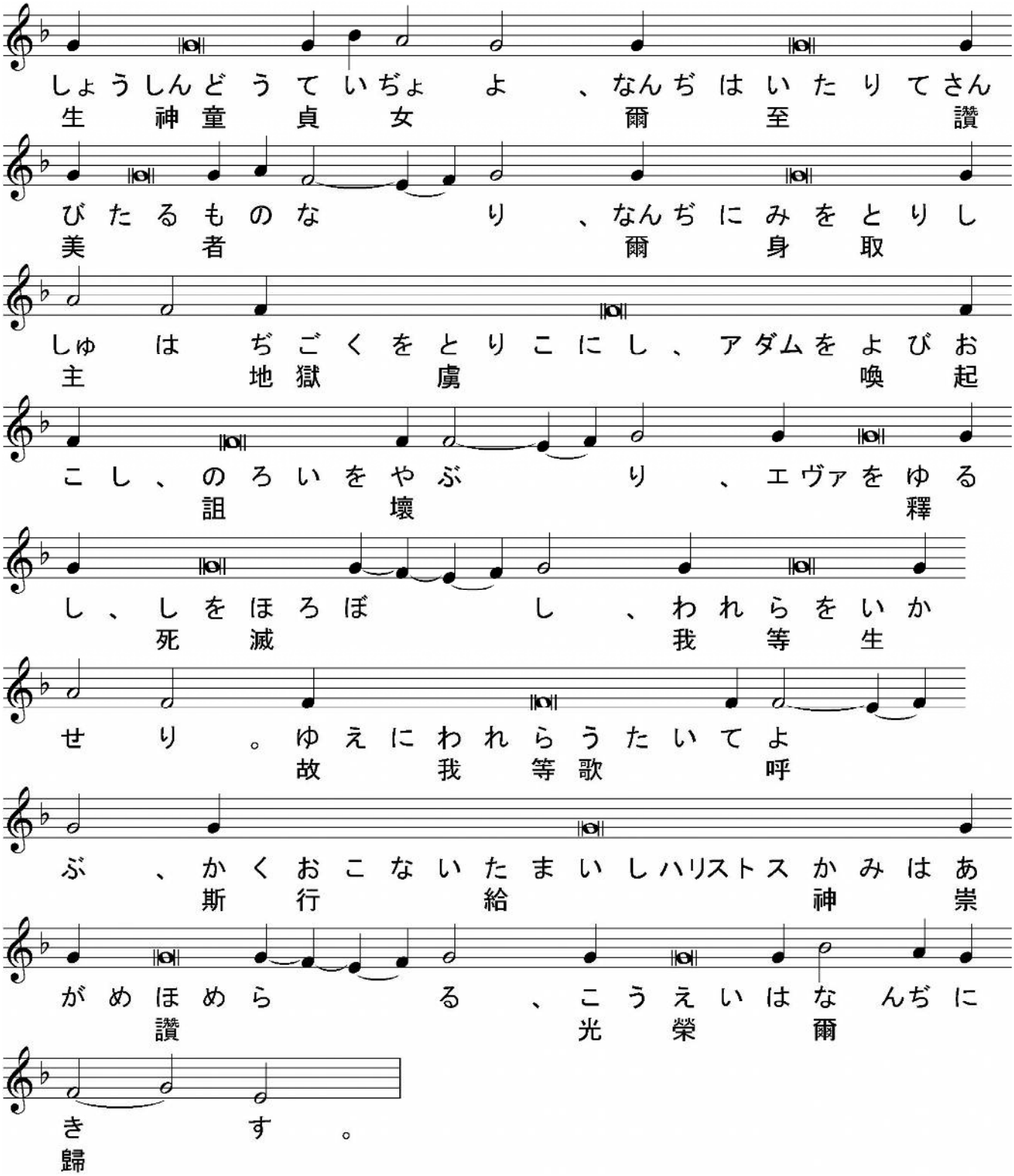
光榮は父と子と聖神に歸す。

【　福音の讃頌　第６調　】

眞實の平安たるハリストスよ、爾は復活の後に爾の神聖なる平安を門徒に與えしに、彼等は懼れて、見る所は神なりと意えり。然れども爾は其靈の驚騷を鎮めん爲に、己の手足を彼等に示せり。彼等未信ぜざれば、食に與ることと、先に語りし所を憶い起さしむることとを以て其智識を啓きて、聖書を悟らしめたり。遂に父の許約せし者を遣さんことを約し、彼等を祝福して、離れて天に升り給えり。故に彼等と偕に我等爾に伏拜す。主よ、光榮は爾に歸す。

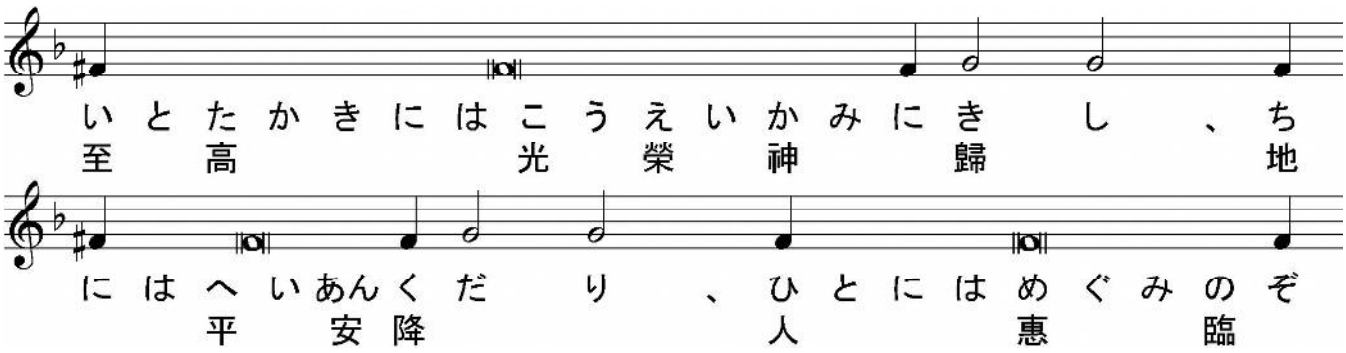
【　生神女讃詞　第２調　】

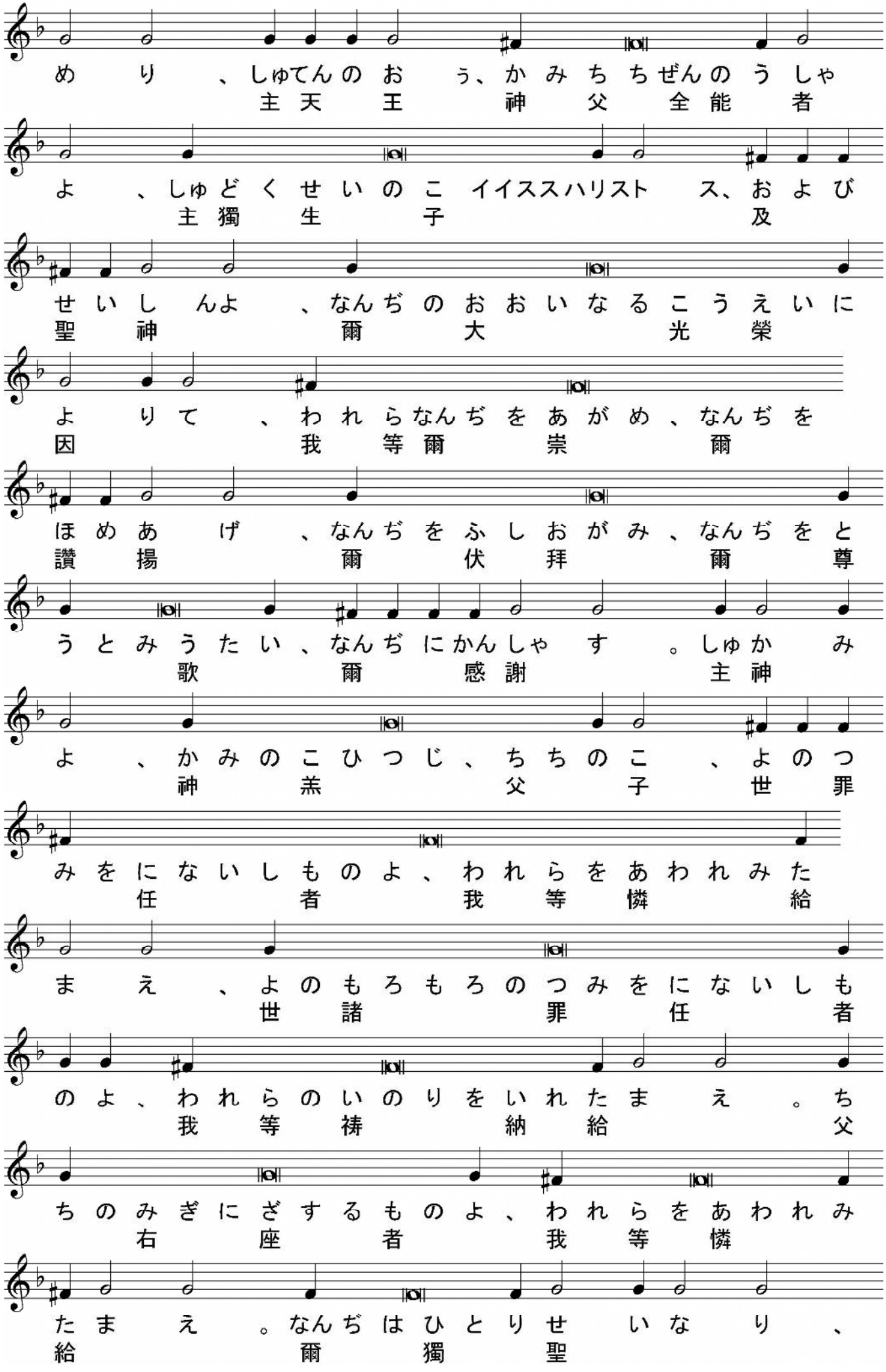




【 大詠頌 】

司祭）光榮(こうえい)は爾(なんぢ)、我等(われら)に光(ひかり)を顯(あらわ)せる主(しゅ)に歸(き)す、




めり、しゅてんのおぅ、かみちちぜんのうしゃ
主天王神父全能者
よ、しゅどくせいのこイイススハリスト ス、および
主獨生子及
せいしんよ、なんぢのおおいなるこうえいに
聖神爾大光榮
よりて、われらなんぢをあがめ、なんぢを
因我等爾崇爾
ほめあげ、なんぢをふしおがみ、なんぢをと
讃揚爾伏拜爾尊
うとみうたい、なんぢにかんしゃす。しゅかみ
歌爾感謝主神
よ、かみのこひつじ、ちちのこ、よのつ
神羔父子世罪
みをにないしものよ、われらをあわれみた
任者我等憐給
まえ、よのもろもろのつみをにないしも
世諸罪任者
のよ、われらのいのりをいれたまえ。ち
我等祷納給父
ちのみぎにざするものよ、われらをあわれみ
右座者我等憐
たまえ。なんぢはひとりせいなり、
給爾獨聖

なんぢはひとりしゅイイススハリスト　ス、かみちちのこ
爾　獨　主　神　父　光

うえいをあらわすものなればな　り　、ア
榮　顯　者

ミ　ン。

われひびになんぢをほめあ　げ　、なんぢのなを
我　日　日　爾　讚　揚　爾　名

よよにあがめうたわ　ん。
世　世　崇　歌

しゅよわれらをまも　り　、つみなくしてこの
主　我　等　守　罪　此

ひをわたらせたま　え　。しゅわがせんぞのか
日　度　給　主　吾　先　祖　神

みよ　、なんぢはあがめほめられなんぢのなはよ
爾　崇　讚　爾　名　世

よにとうとみうたわる、アミ　ン。
世　尊　歌

しゅよ、なんぢをたのむによりて　、なんぢのあ
主　爾　恃　因　爾　憐

われみをわれらにたれたま　え　。
我　等　垂　給

しゅよ、なんぢはあがめほめら　る　、なんぢのい
主　爾　崇　讚　爾　誡

ましめをわれにおしえたまえ。しゅよ、なん
我訓給主爾

ぢはあがめほめらる、なんぢのいましめを
崇讚爾誡

われにおしえたまえ。しゅよ、なんぢはあが
我訓給主爾崇

めほめらる、なんぢのいましめをわれにお
讚爾誡我訓

しえたまえ。
給

しゅよ、なんぢはよよ、われらのかくれがた
主爾世世我等避所

り。われかつていえり、しゅよ、わ
我曾言主我

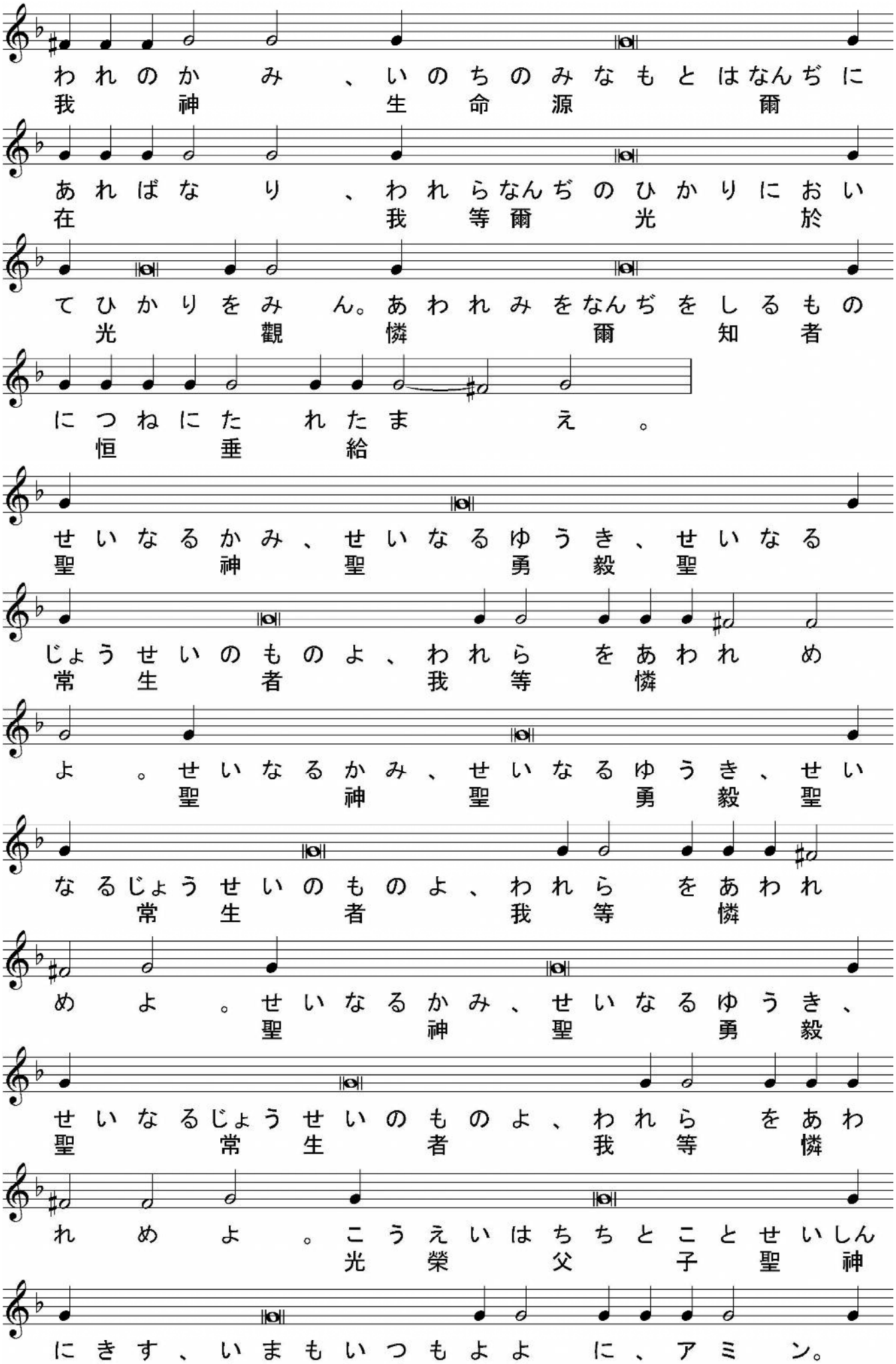
れをあわれみ、わがたましいをいやした
憐我靈醫給

まえ、われつみをなんぢにえたればな
我罪爾得

り。

しゅよ、なんぢにはしりつく、なんぢのむねを
主爾趨附爾旨

おこなうをわれにおしえたまえ、なんぢは
行我教給爾


われのかみ、いのちのみなもとはなんぢに
我神生命源爾
あればなり、われらなんぢのひかりにおい
在我等爾光於
てひかりをみん。あわれみをなんぢをしるもの
光觀憐爾知者
につねにたれたまえ。
恒垂給
せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖神聖勇毅聖
じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常生者我等憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常生者我等憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖勇毅
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐
れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮父子聖神
にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅聖常生者我等

あわれめよ。
憐

【　定規の復活の讃詞　第２調　】

しゅよ、なんぢはは　かよりふくかつし
主爾墓復活

て、ぢごくのくさりをやぶり、しのて
地獄鎖壊死定

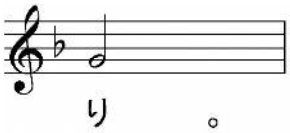
いざいをほろぼし、しゅうじんをてきの
罪滅衆人敵

あみよりすくえり。ひとりだいじれん
網救獨大慈憐

なるものよ、なんぢはしとにあらわれて
者爾使徒顯

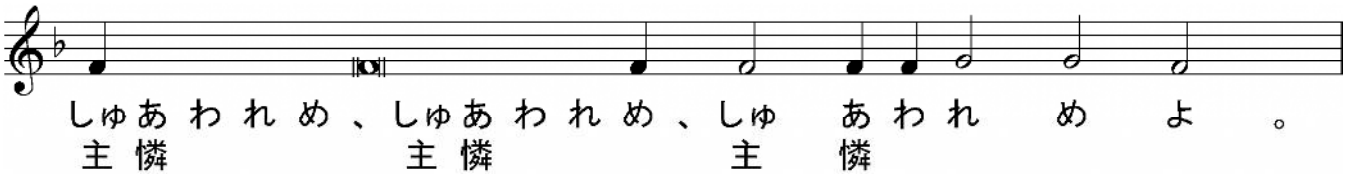
かれらをでんきょうにつかわし、かれらによっ
彼等傳教遣彼等依

てなんぢのへいあんをせかいにたまえ
爾平安世界賜

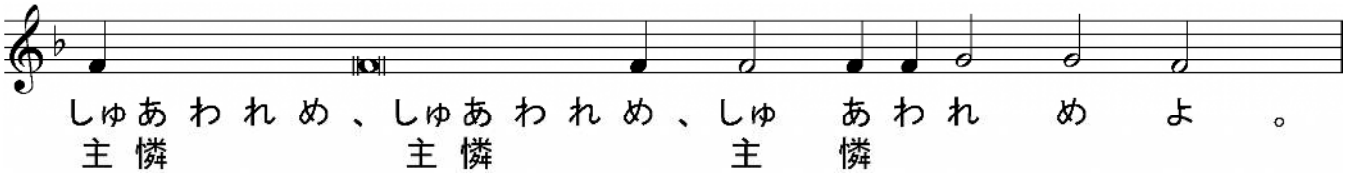


【　重聯禱　】

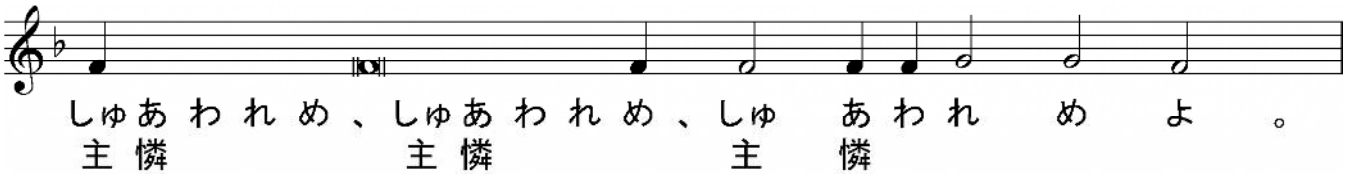
司祭）神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



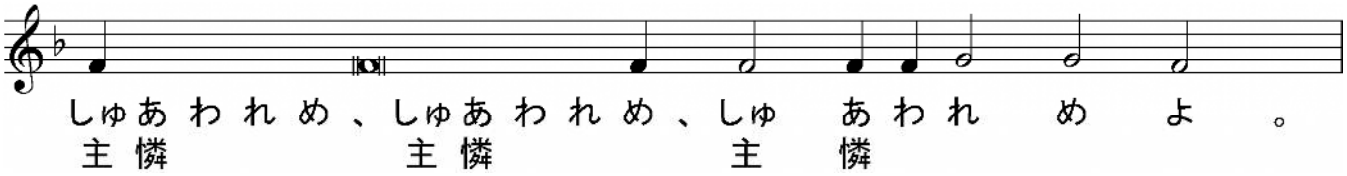
司祭）又我國の天皇及び國を司る者の爲に禱る、



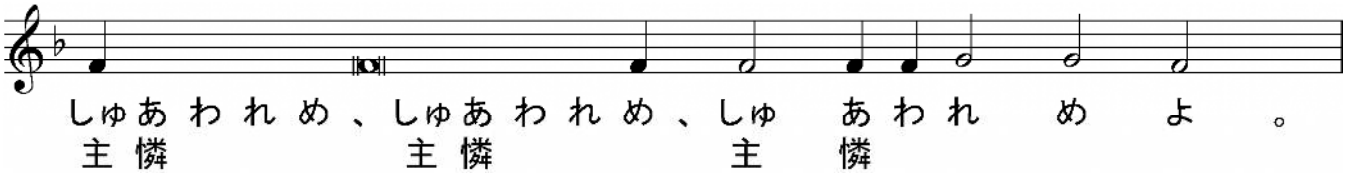
司祭）又教曾を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



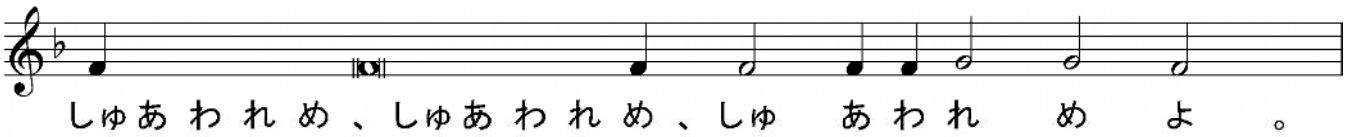
司祭）又恒に記憶せらるる福たる此の聖堂の建立者、及び既に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の爲に禱る、



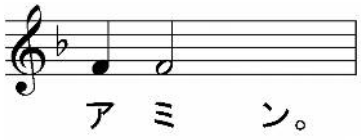
司祭）又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦を賜わんが爲に禱る、



司祭）又此の聖堂に物を獻り、善業を行い、之に労し、之に歌い、及び此に立ちて爾の大にして豐なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、

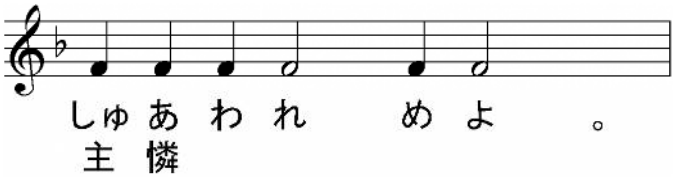


司祭） 蓋 爾 は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を 爾 父と子と聖 神に獻ず、今も何時も世世に、

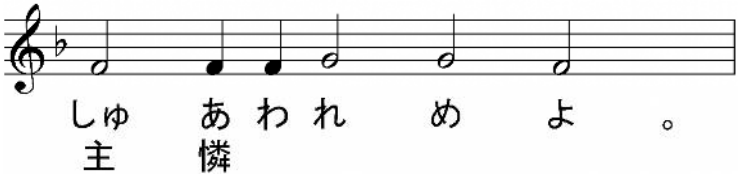


【 增聯禱 】

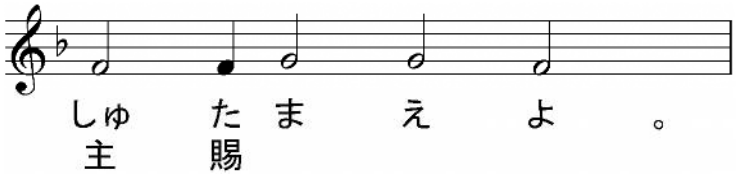
司祭） 我等主の前に吾が朝の 禱 を增し加えん、



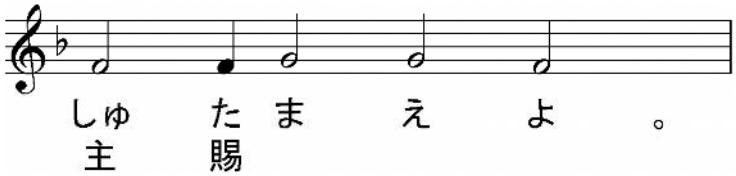
司祭） 神よ、 爾 の恩 寵 を以て、我等を佑け救い 憐 み護れよ、



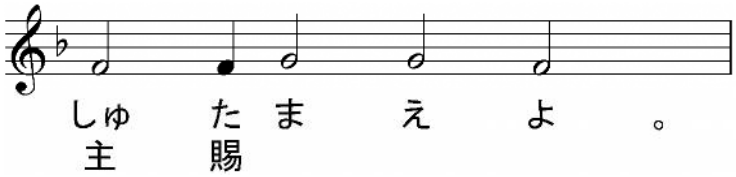
司祭） 此の晩の 純 全・成 聖・平 安・無罪ならんことを主に求む、



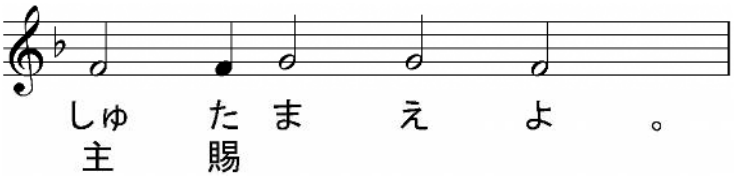
司祭） 平 安の天使、正しき 教 導師、吾が靈 體の守護者を賜わんことを主に求む、



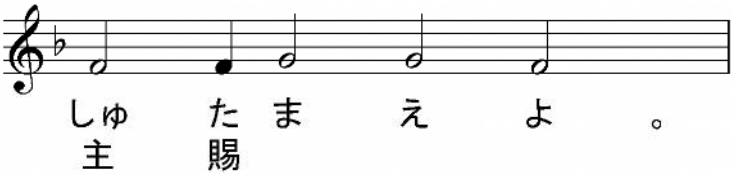
司祭） 我等の罪と 過 とを宥め赦さんことを主に求む、



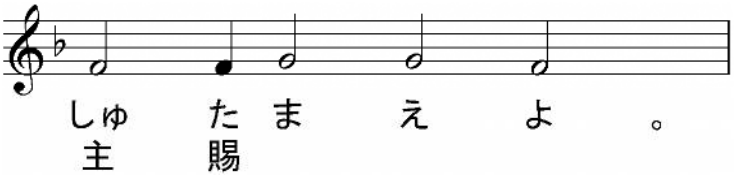
司祭） 我等の 靈 に善にして益ある事、及び世界に平 安を賜わんことを主に求む、



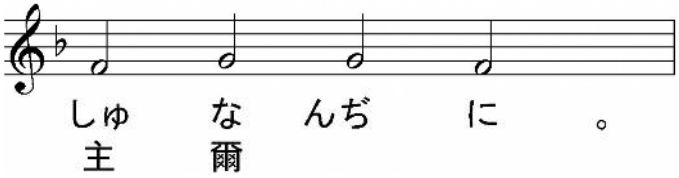
司祭）我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



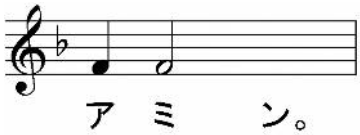
司祭）我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



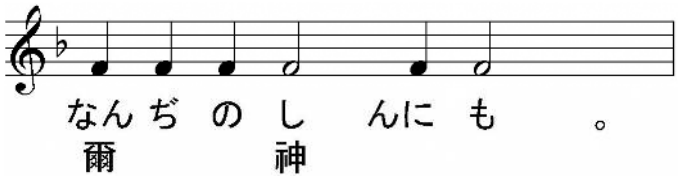
司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



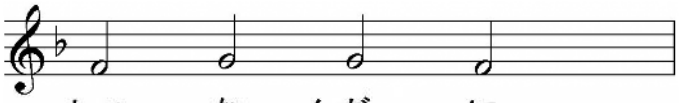
司祭）蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



司祭）衆人に平安、



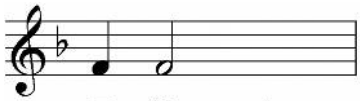
司祭）我等の首を主に屈めん、



しゅ　な　んぢ　に　。
主　爾

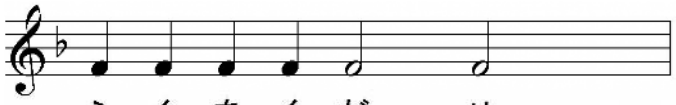
司祭）（黙誦：聖なる主、高きに居り卑きを臨み、爾が見ざる所なき目にて萬物を鑒る者よ、我等心と體との項を爾の前に屈めて爾に禱る、爾が見えざる手を爾が聖なる住居より伸べて、我等衆人に福を降し給え、我等に自由或は自由ならずして犯しし罪あらば、爾善にして人を愛する神なるに依りて之を赦して、我等に今世來世の諸善を與え給え、）

蓋我が神よ、我等を憐みて救うこと爾に歸す、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



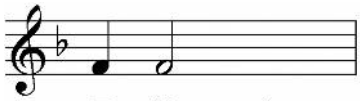
ア　ミ　ン。

司祭）睿智、

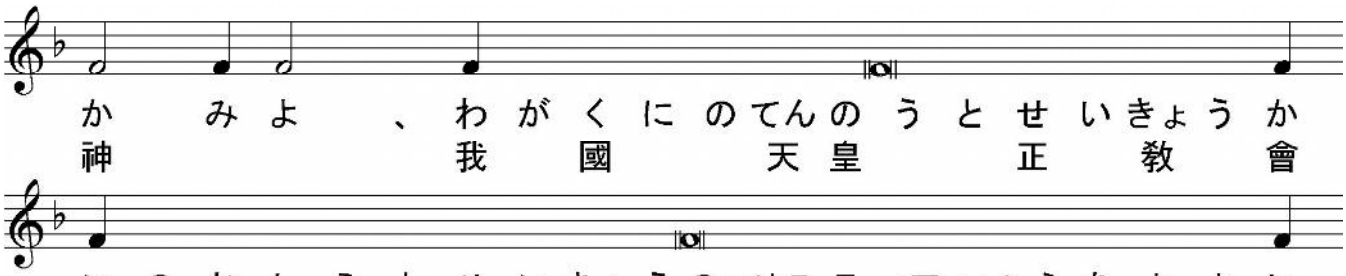


ふ　く　を　く　だ　せ　。
福　降

司祭）永在の主ハリストス我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

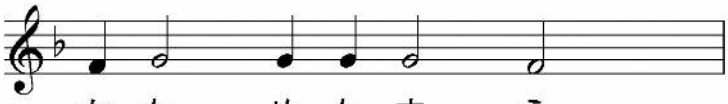


ア　ミ　ン。

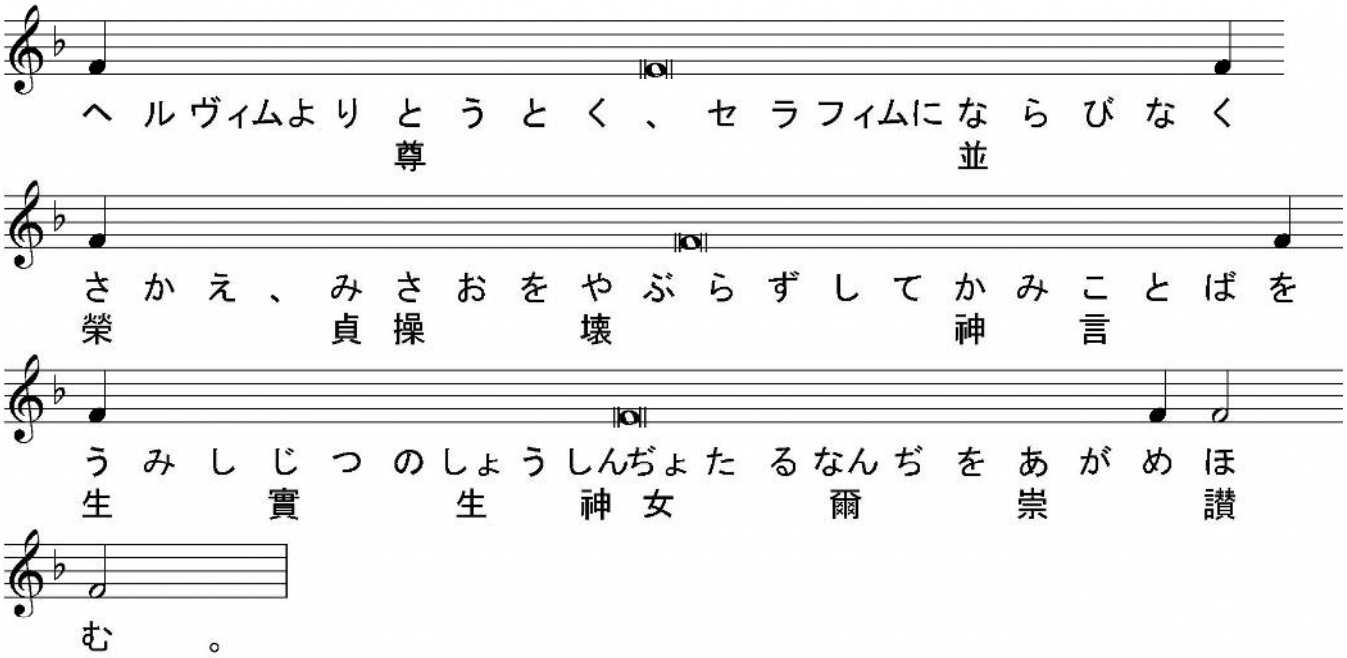


か　み　よ　、わ　が　く　に　の　て　ん　の　う　と　せ　い　き　ょ　う　か
神　我　國　天　皇　正　教　會

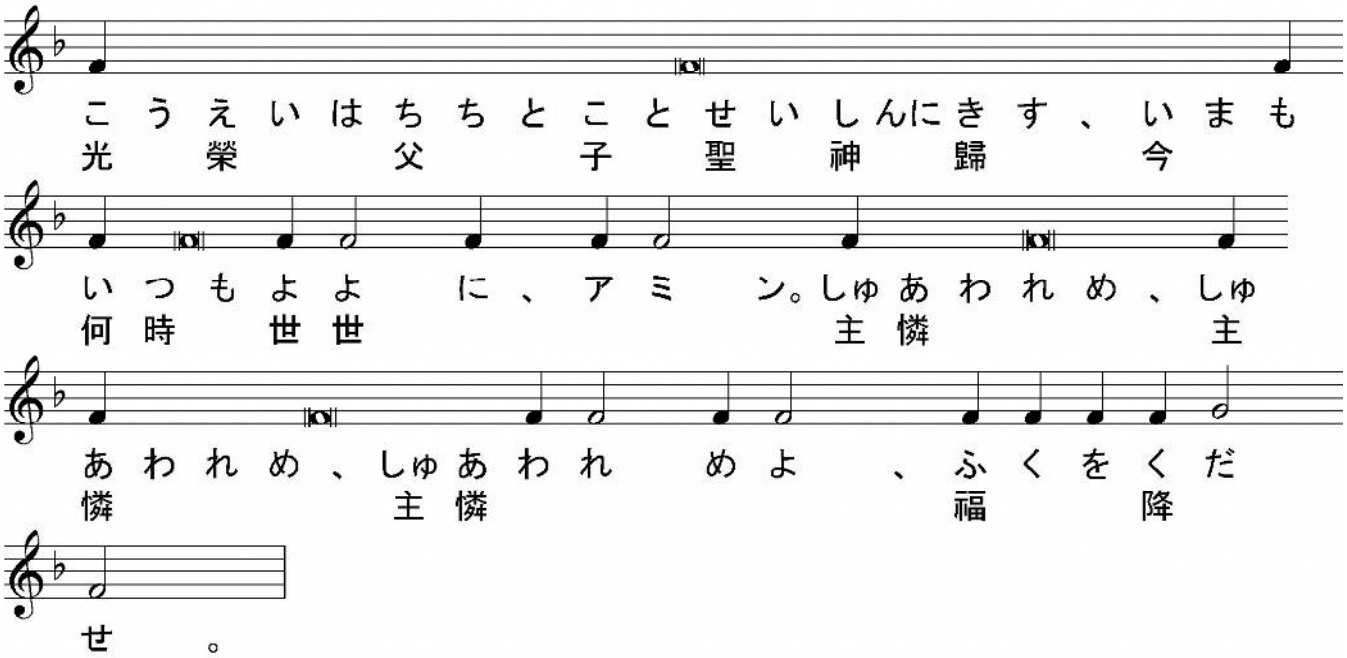
い　の　お　し　え　と　せ　い　き　ょ　う　の　ハ　リ　ス　テ　ィ　ア　ニ　ン　ら　を　よ　よ　に
教　正　教　等　世　世



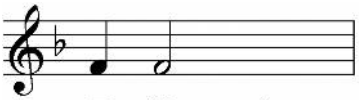
司祭) 至聖(しせい)なる生神女(しょうしんぢょ)よ、我等(われら)を救(すく)い給(たま)え、



司祭) ハリストス神我等(かみわれら)の恃(たのみ)よ、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)に歸(き)す、光榮(こうえい)は爾(なんぢ)に歸(き)す、

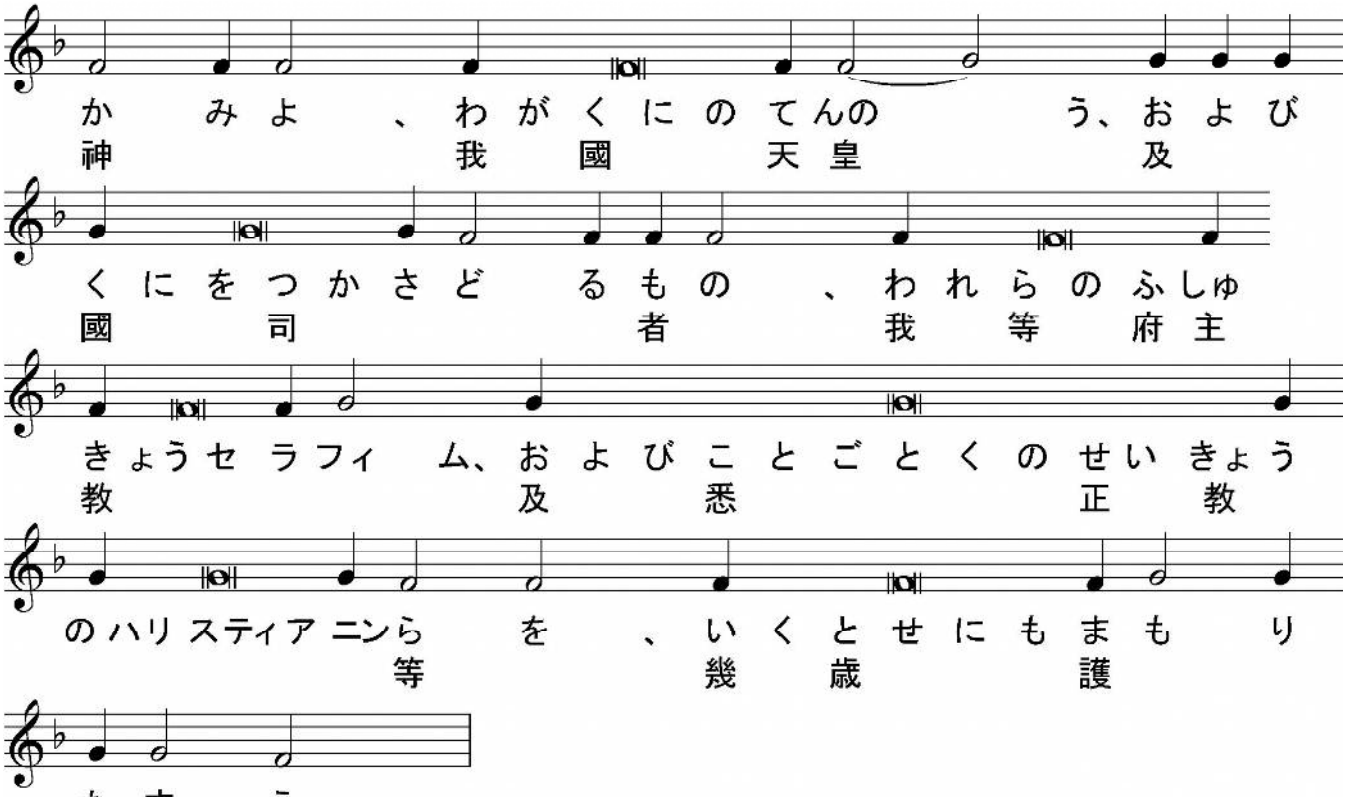


司祭) 死(し)より復活(ふくかつ)せしハリストス我等(われら)の眞(まこと)の神(かみ)は、其至淨(そのしじょう)なる母(はは)、光榮(こうえい)にして讃美(さんび)たる聖(せい)使徒(しと)、（聖某）及(およ)び諸聖人(しょせいじん)の祈禱(きとう)に因(より)て我等(われら)を憐(あわれ)み救(すく)わん。彼(かれ)は善(ぜん)にして人(ひと)を愛(あい)する主(しゅ)なればなり、



ア ミ ン。

【 萬壽詞 】



か みよ 、わがくにのてんの う、および
神 我 國 天 皇 及
くにをつかさど るもの 、われらのふしゅ
國 司 者 我 等 府 主
きょうセラフィ ム、およびことごとくのせいきょう
教 及 悉 正 教
のハリスティアニンら を 、いくとせにもまも り
等 幾 歳 護
たま え 。
給

【　第一時課　】

誦經）來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

【　第５聖詠　伶長に簫を以て和せしむ。ダヴィドの詠。】

主よ、我が言を聽き、我が思を悟れ。我が王我が神よ、我が呼ぶ聲を聽き納れ給え、我爾に祈ればなり。主よ、晨に我が聲を聽き給え、我晨に爾の前に立ちて待たん。蓋爾は不法を喜ばざる神なり、惡人は爾に居るを得ず、不虔の者は爾が目の前に止らざらん、爾は凡そ不法を行う者を憎む、爾は謊を言う者を滅さん、殘忍詭譎の者は主之を惡む。惟我爾が憐の多きに倚りて爾の家に入り、爾を畏れて爾が聖堂に伏拜せん。主よ、我が敵の爲に我を爾の義に導き、我が前に爾の道を平にせよ。蓋彼等の口には眞實なく、彼等の心は惡逆、彼等の喉は開けたる柩、其舌にて媚び諂う。神よ彼等の罪を定め、彼等に其謀を以て自ら敗れしめ、彼等が不虔の甚しきに依りて之を逐い給え、彼等爾に逆らえばなり。凡そ爾を賴む者は喜びて永く樂み、爾は彼等を庇い護らん、爾の名を愛する者は爾を以て自ら詡らんとす。蓋主よ、爾は義人に福を降し、惠を以て盾の如く彼を環らし衛ればなり。

【　第８９聖詠　神の人モイセイの祈禱　】

主よ、爾は世世に我等の避所たり。山未だ生ぜず、爾未だ地と全世界とを造らざる先、且世より世までも爾は神なり。爾人を塵に歸らしめて曰う、人の子よ、歸れと。蓋爾が目の前には、千年は過ぎし昨日の如く、夜間の更の如し。爾は大水の如く彼等を流す、彼等は夢の如く、朝に生うる草の如し、朝には花さきて且青し、暮には刈られて稿る。蓋我等は爾の怒に因りて消え、爾の憤に因りて惶れ惑う。爾は我等の不法を爾の前に置き、我等の隱れたる事を爾が顏の光の前に置け

り。我等が悉くの日は爾が怒の中に過ぎ、我等は我が歳を失うこと音の如し。我が歳の數は七十年、或は健なれば八十年なり、其間の壮なる時も、劬勞と疾病あり、蓋其過ぐること速にして、我等飛び去る。誰か爾が怒の力を知り、又爾を畏るる度に依りて爾の憤を識らん。願わくは我等に我が日を算うることを教えて、智慧の心を獲しめ給え。主よ、面を回せ、何の時に至るか、爾の僕を憐み給え。夙に爾の憐みを以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂まん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭いし年に代えて、我等を樂ましめ給え。願わくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其の諸子に著れん、願わくは主吾が神の惠は我等に在らん、願わくは我が手の工作を我等に助け給え、我が手の工作を助け給え。

【 第１００聖詠　ダヴィドの詠 】

我憐と審判とを歌わん、主よ、爾に歌を奉らん。我玷なき道を思わん、爾何の時我に至るか、我玷なき心を以て我が家の中を行かん。我が目の前には邪なる物を置かざらん、法に背く行は我之を疾む、其れ必我に附かざらん。壞れし心は我に遠ざかり、惡しき者は我之を識らざらん。隱に己の隣を謗る者は我之を逐い、目傲り、心高ぶる者は我之を容れざらん。我が目は斯の地の忠信なる者を顧みて、彼等を我が傍に居らしめん、玷なき道を行く者は我に事えん。貳心を行う者は我が家に居るを得ず、謊を言う者は我が目の前に止らざらん。晨に我此の地の悉くの不虔者を滅して、凡そ不法を行う者を主の城邑より絶たれしめん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、光榮は父と子と聖神に歸す、

【 復活讃詞（トロパリ）　第８調 】

惠深き主よ、爾は高きより降り、三日の葬を受けて、我等を苦より釋き給えり。吾が生命と復活なる主よ、光榮は爾に歸す。

今も何時も世世に、アミン。

嗚呼恩寵に滿たさるる者よ、我等何を以て爾を稱せんか、天とせん、爾義の日を照したればなり、樂園とせん、爾枯れざる花を開きたればなり、童貞女とせん、爾貞操を壞らざればなり、淨き母とせん、爾聖なる懷に萬物の神たる子を抱きたればなり、彼に我等の靈の救われんことを祈り給え。

我が足を爾の言に固め給え、諸の不法の我を制するを許す毋れ。我を人の迫害より救い給え、然せば我爾の命を守らん。爾が顏の光にて爾の僕を照し、爾の律を我に誨え給え。主よ、願わくは我が口は讃美に滿てられて、我爾の光榮を歌い、日日に爾の威嚴を歌わん。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

至聖三者よ、我等を憐め。主よ、我等の罪を潔くせよ。主宰よ、我等の愆を赦せ。聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給え。悉く爾の名に因る。

主、憐めよ。主、憐めよ。主、憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

天に在す我等の父よ、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行わるるが如く、地にも行われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

司祭）蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經）アミン。

【　復活コンダク　第８調　】

大仁慈なる主よ、爾は墓より復活して、死せし者を興し、アダムを復活せしめ給えり。エヴァは爾の復活を樂しみ、世界の極は爾が死より興きたるを祝う。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

何の日何の時にも、天にも地にも叩拜讃榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して萬の者を救に招くハリストス神よ、

爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誡に向わしめ給え、

我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救い、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、アミン。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

ヘルヴィムより尊く、セラフィムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ、

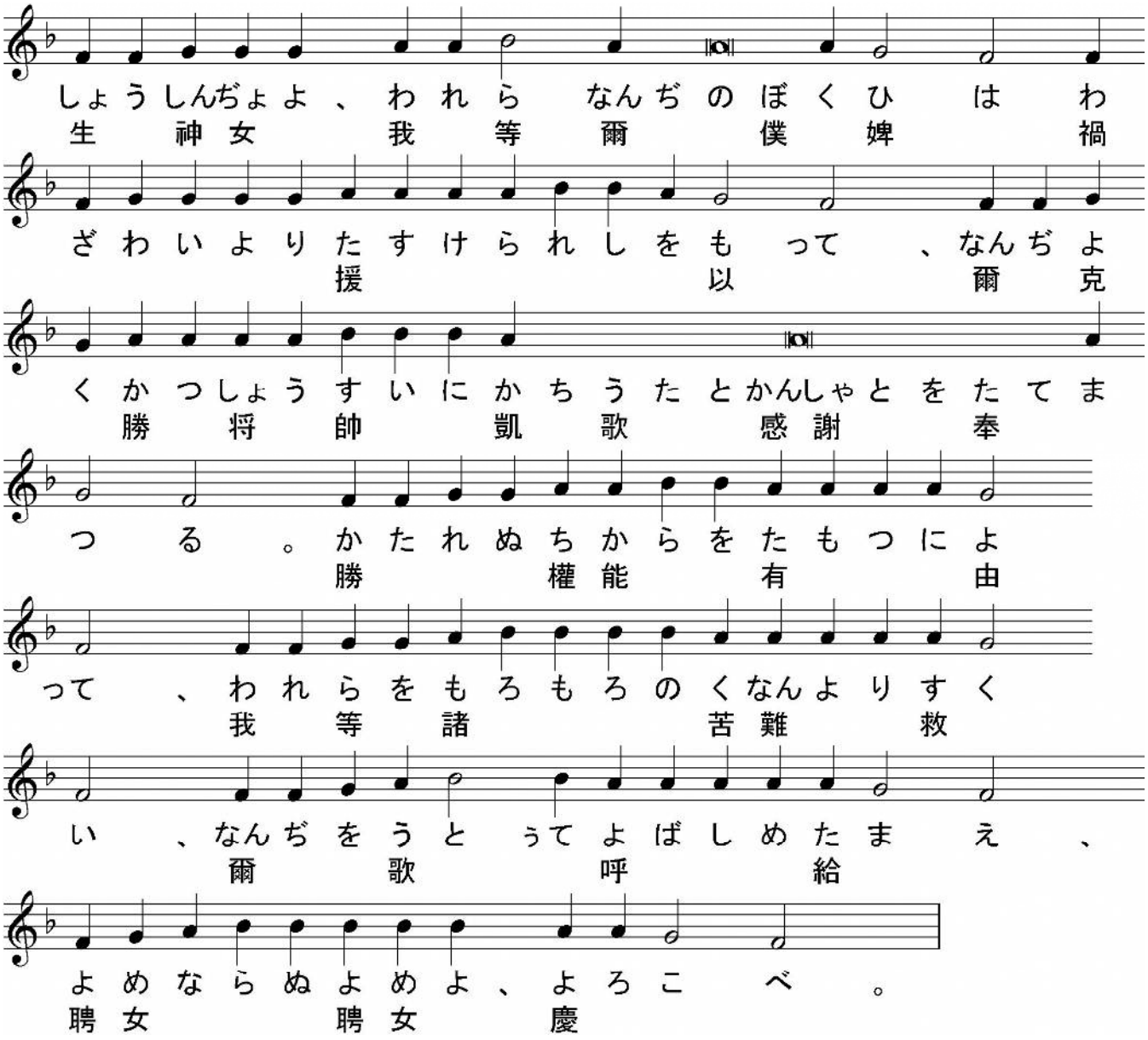
司祭）神よ、我等に恩を被らし、我等に福を降し、爾が顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給え、

誦經）アミン。

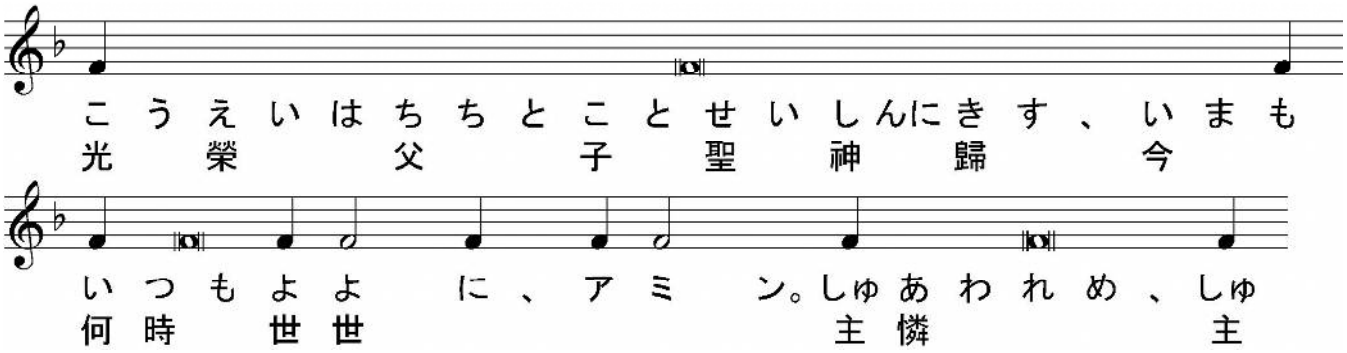
司祭）眞の光なるハリストス、凡そ世に來る人を照し且聖にする者よ、願わくは爾が顔の光は我等に輝き、我等は是に依りて近づき難き光を見るを得ん、願わくは

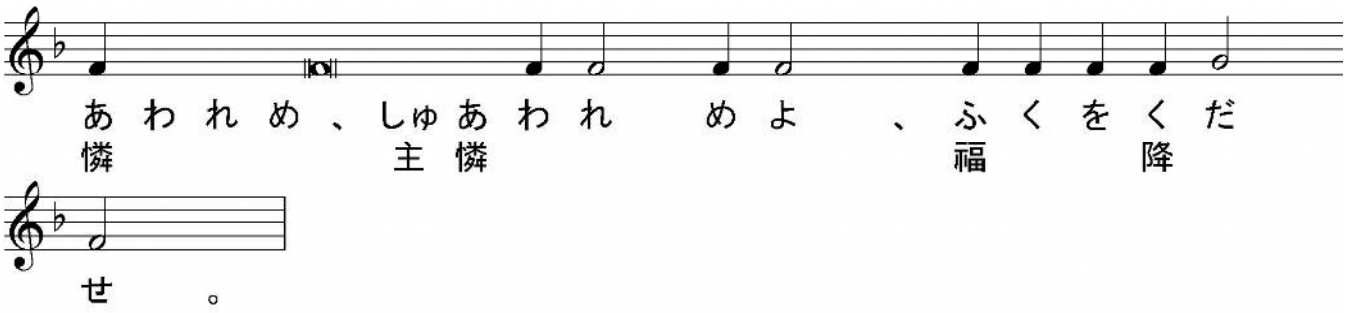
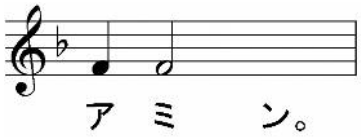
爾が至淨の母と、爾が諸聖人の祈禱に因りて、我等の足を爾の戒を行うに向わしめ給え、アミン。

【　生神女コンダク　】



司祭）ハリストス・神・我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、





司祭）死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、及び諸聖人の祈禱に因て我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、